

たものは皆職工が感謝の二字を胸に刻んで、一意専心職務に精勵する状態を目撃して感嘆せざるを得なかつたと云ふ。其工場内には社會技師を設け職工愛撫係となし、重役と職工との間に立つて職工の利益を計るが爲め、職工等は之を恩師の如く敬慕し、異常な情誼的關係を結んで居つたと云ふ。斯かる工場經營の精神を以て世に處せば、ソリダテリーの精神も徹底するのである。

英國の青年聯盟は何を語る乎

英國では千九百二十年に青年聯盟なるものが組織された。最初の會長としてロイド・ジョーヂ氏を推したが、其目的は公生活にある先輩の指導により、公人として國家社會に貢獻せんとする人格を修養するに在る。從て當代の名士にして社會に貢獻した幾多の經驗を有して居る人々を賛助員となし、是等先輩の指導の下に公人として活動する上に起るべき幾多の難問題、就中新時代の新聞問題に對する解決法は自ら發見することに勉めて居る。則ち組織ある活動に依て穩健なる公生活を營まんとするの目的を有するものであつて、公人として各自の國家社會に盡すべき正當の手段を、團體的に見出さんとするのが主眼である。要するに此青年聯盟が利己主義を制して、社會國家と公共の爲に貢獻せんと

する人格の養成に努力することは注目し得る。斯かる高潔な精神を以て處世の指針とすることは、實に新時代に適應したもので、且つ新人の新人たるに愧ぢざるものである。我國の青年も此英國の青年に鑑みて大に反省する所なくてはならぬ。

我國の比較的人格高き壯年實業家の間にロータリー俱樂部が創立された。同俱樂部は英米加奈陀等にあるが其目的は相互補助の關係や事業上の知識の交換を親密に行ひ、更に進んで社會は固と共同生活に依て成立つたのだから、會員は社會の幸福に貢獻する事を理想とし、高い立場から互に我利我執を離れ、他利是自利の見地に立つて、事業の經營及び職務の遂行上に一新生面を開くと云ふのである。予は極めて新時代に適切な目的だと思ふ。而して此精神が則ち處世の標準とならねばならぬ。他利是自利は一見矛盾したるが如く見ゆるも、其根柢に於て他人の爲に利益であつて、それが又自分の爲に利益になるとが頗る多いものである。情けは他人の爲めならずと云ふ言葉は、陰徳あるものは陽報ありといふ諺と一致して、決して矛盾ではない。英國の青年聯盟と云ひ、ロータリー俱樂部と云ひ何れも新時代の新處世に對して一種の暗示を與へるものである。

新人新處世の金科玉條

各人皆性能を異にし、業務又同じからず、從て利害を分つも、相助け相補ひて始めて社會生活をなすのである。物質生活に於て有無相通じ交通相利するが如く、精神生活に於ても互に氣脈を通じ聯絡を保ちて、社會の安寧を維持し、個人の活動を増進し、人類の理想を向上せしめなくてはならぬ。この目的を達する上にもソリダリーに立脚しなくてはならぬ。則ち聯帶觀念は各個人の心を温め、同情心を助長し、從て利己心を制し、文化的生活の爲に極めて大切である。之を要するに社會は共同聯帶で互に持ちつ持たれつして、福祉を増進するものであるから、他利則自利で、自他共利共存の意味を忘れてはならぬ。則ち新人の新處世法としては之を金科玉條とすべきである。古歌ではあるが這般の眞理を喝破した左の一句は能く穿ち得て妙だと思ふ。須らく三誦すべきである。

舟と水仲よくてこそ世を渡れ

心の荒き浪風ぞ憂き

清 富 論

現代に於ける富の威力

個人として富を厭ふ者なく、又國家として自國の富強を希はぬものはない。國民としては國家を富強ならしむる責任がある。而して國家が富強になれば國民も亦幸福である。義の爲にペンを棄て、劍を執つた文豪バイロンでさへ、「道徳上から見ると人間は富むべき義務を有つてゐる。富の附隨しない善行には力がない。故に諸君の善行を有力ならしめんと欲せば、須らく先づ諸君の財布を充滿せしめよ」といつた。これは確かに一面の眞理を語つたものである。

昔の人は「倉廩満つれば則ち禮節を知り、衣食足れば則ち榮辱を知る」といひ、人は物質的供給が豊富になつて始めて心に餘裕を生じ禮節を守り得ることを説いてゐる。蓋し人、衣食に窮するときは、惡心を起し、罪惡を犯し、甚だしきは僅に數錢の爲に法律上の罪人となり、獄裡に呻吟するの慘事を呈

する者もあれば、國民の選良たる代議士及び政府の官吏にして黃白の爲に迷はされて瀆職の罪を犯すものもある。我々が日々の新聞紙上に常に目撃する所、若し彼等にして相當の富を有してゐたら、恐らく斯かる悪事をなさなかつたであらう。無論偉人傑士であれば貧富を超越し之に累せらるゝことなきも、普通人にありては富は則ち心に餘裕を生ぜしめ、貧は即ち心なき罪惡を犯さしむる本となる。併し富んで始めて禮節を守るといふは、富の消極的效果に過ぎぬ。個人にしても國家にしても、苟くも消極的に一事を爲さんとして、富の力を藉らぬものは一もない。バイロンの云へるが如く善を行ふの理想あるも富の力、之を許さなければ實現することは出来ぬ。有らゆる社會的設備を完うし、國民の幸福と利益とを増進せんとするも、富なきものは之を行ふことが出来ぬ。日本が東洋の盟主となり、世界の文明に貢獻せんとしても、富の力を援くるものなければ得て行ふことは出来ぬ。現代の社會に於て富の威力が個人としても國家としても最も重要なことを否むことは出来ぬ。

富に對する兩端の誤解

然るに我國及び支那に於ては、從來金錢を輕視する思想が行はれてゐる。徳川時代に於て大奥の女

中や武士は金錢の事を口にすることを恥ぢ、之を阿堵物と稱して大に卑下し、物の價を評せぬを以て寧ろ大に上品なりとし、又金錢を取扱へる商人は士農工商と云ふ順序により社會の最下級として卑められた。これは武士は多く常祿を有し、金錢を儲けることを必要としなかつたのと、武人の錢を愛するものは動もすれば命を惜む卑怯な振舞に出づる者が多くあつた様な事情にもよるであらう。兎も角金錢を賤んだ思想は封建時代に於て武士の名節を砥礪するに與つて大效あつたと思ふが、國民をして富を重んじ、富を貯ふるの思想の發達を妨げたことは少くなかつた。近時社會の進歩と共に生活難は遠慮なく襲來し、一般世人は利害の打算に鋭敏となり、利益に集まること尙蟻の甘きに就くが如きものあり、時勢一變したけれども、それでも金錢に對する多年の卑下的感情は今も猶存し、金錢を輕んじ賤むものが少くない。

金錢は個人にも國家にも必要であるが、同時に又人を墮落せしめ、社會の風教を亂るの基となることが少しとせぬ。これ金錢の大切なるを知りて、而も金錢は或目的を達するの手段たるを想はぬ爲である。則ち使ふべき金錢に使はれて、加ふるに其使用法を誤るからである。蓋し金錢を貯ふることは決して人生の目的でない。一種の手段たるに過ぎぬ。昔或る人が手に觸るゝもの皆黃金たらんことを

神に祈り、其結果神より總てのものを化して黄金とする寶を授けられ、爲めに手に觸る、ものが總て黄金に化し、遂に黄金の中に餓死したと云ふ話がある。是れ實に富は人生の目的にあらぬことを能く説明してゐる。即ち富そのものは人生に最も大切なものであるから、妄りに之を輕視するの過なると同時に、之を尊重して人生の目的唯富を積むにありとなし、手段を以て目的とするも亦大なる過である。前者は暫く之を別とし、後者に至りてはこの誤解あるが爲に致富に急なるの餘り、往々にしてその手段を問はなくなり易いのである。二者共に過てりとするも弊の他に及ぶことは後者却て前者に優る。所謂清富と濁富との區別を生ずるのである。

戰時勃興せし致富熱

世上平靜の時よりも變動の際には富の移動が行はれ、從て致富の機會も亦頗る多い。日清日露の兩戰争に際し、俄然としてその富力を増進したものの、多きことは人の能く知る處である。先年歐洲大戰に際し歐洲の交戰國が巨額の富を破壊しつ、ある間に、他方には又多額の富を作りつ、あるものも少くなかつた。我國も亦この戰争の影響を受け、軍器及軍需品の供給、歐洲輸入品の杜絶により市價の

暴騰、船舶の不足より來れる船價及運賃の暴騰等により、各方面に種々なる所謂成金を生じ、一舉にして大は數百千萬圓より小は數萬圓の利益を擧げ、金殿玉樓を構へ、書畫骨董を弄し、或は更に之を悪用して社會の風儀を紊すものすらあつた。

これ等の事實を見聞せるものは自ら致富の念旺盛となり己も亦彼等に倣はんと欲し、滔々として一代の風をなし、甚だしきは社會も自己も諒解せざる人までが、致富熱に浮さるゝの餘り、唯富をこれ得んと欲し、一攫千金を夢みて思はざるの失敗を演じたものが少くなかつた。富の大切なことは前に述べた如くであるが、之を得るの手段及び之を散ずる方法により意外なる關係を生ずるものであり、從て濁富を生ずることもあれば、又清富を致すこともある。此事は特に留意すべきである。

現代富者の二大類別

將來富を得んと欲する者のために、先づ現代に於ける富者の種類を擧げて聊か説明したい。一概に富者といふも、その富を致したる原因及び方法に於ては種々なる種類がある。外見よりすれば等しく富者であるが、その種類によりて自ら尊敬すべき資格を有するものと否らざるものとがある。

(一) 親譲りの富者。華族、豪農、豪商等自己が大なる努力を拂はずして、祖先より財産を譲られたものである。尤も華族といふも亦その種類によりて相違がある。大名華族は富者最も多く、公卿華族には富めるもの少く、而して平民より華族に成上つたもの、内にも多少巨富を積めるものなきにあらねど、三四を除けば到底大名華族の富に及ばない。殊に平民より成上つた者は、自己の力によりて運命を開拓したものが多く、立身早きも三四十年に過ぎざるが爲めに、親より譲り受けた人は未だ極めて少い。舊華族の富者は皆親譲りの巨富を擁するも、この階級の人々中よりは従来餘り有爲の人物を出さなかつた。彼等は家には巨額の富を有するけれども、而も之を公益に利用するとか、一部を公共事業に寄附するとか云ふやうなことは極めて稀にして、多くは家令家扶等に宜しく支配されてゐる。所有の富は巨額であつても、之を使用することは頗る嚴重なる制限を受けてゐる。斯くの如くして生活の安固は保障せられ、自ら努力して腕を磨き智を錬り、自己の運命は自ら拓くが如き必要と機会とがなかつたので、將來は兎も角、従来は眞に人生を味ふものなく、從て又有爲の人物を出すに至らなかつた。富者として或は敢て不幸なりとは云はれぬかも知れぬが、さりとて人生の意義より云へば、さまで幸福なりとも思はれぬ。

豪農は直接に家政を経営してゐる故、華族に比すれば富者としての立場が同日の論でない。商工業或は礦業に依て富を致した人の相続者も多少はあるが、前者に比すれば少く、且つ財産の行使上に幾分かの制限を受くるものが多い。

獨立自營によりて致富せる三種類

(二) 自力にて成功した富者。貧賤より起りて、自己の力により富を成せるものは東西古今共に多く見る所で、人生の華と稱すべきである。現代實業界に於ける富者は概して此部類に屬する(祖先より傳來せるものを除き)この獨立致富者も亦その性質より分れば三種に大別される。均しく富める獨立自營者であるも、その行方によりては自らその積める富に清濁の別を生ずる。

(甲) 政府の御用商人。均しく商品の賣買に従事するも、政府を對手として富を作つた者は世間の同情が少い。これは御用商人と云へば何となしに賄賂とか結託とか種々なる情弊が伏在してゐるかの如く想像されるからである。過去に於て我國の政府當局者と御用商人との間には種々なる惡風が行はれた爲めに多少誤解されてゐる點もあるであらう。近年は公然競争入札に附し、往時の如き弊害は滅せ

られたけれども、而も往年の遺風猶存し、所謂瀆職事件なるものが近來大に發生し、御用商人、御用請負者に對する社會の感情は決して良好なりとは云はれない。又同じ賣買とは云へ、政府の註文に應ずるものは、取引上に危険なく、一般の商業とは多少難易を異にするので、世人は依然として富める御用商人に對し餘り尊敬を拂うて居らぬ。

御用商人必ずしも濁富を積めりとは云はれぬが、過去に於ける事實に徴し、世人は爾く信ずるもの多く、事實又その富の清からぬものが多い。

俸給生活で富を致した人

(乙) 俸給生活者。俸給生活をなして富を作つた實業家は相當に多い。これは會社銀行等の株式組織の事業を經營し、その俸給賞與により、その所有株券の騰貴により富者となつた人で、所謂實業家と云ふものである。三井、三菱等は郵船會社、日本銀行等の如き普通の株式會社とは異なる所あるも、併し此處に働ける人は皆俸給生活の人である。此等の實業家は我國實業界に於ける新知識にして、現代の我實業を進歩せしめたことは多大であると共に、他面には自己を利益したことも少くない。併し均

しく俸給生活の實業家中にもその手段に善惡良否の別あり、總てが清富より成れるものと斷言することとは出来ぬ。

生産的獨立自營者の致富

(丙) 國內の事業を興し、對外貿易を増進し、國富を増進する點に於ては、株式會社を以てすると、獨立自營者の力を以てすると、毫も優劣軒輊あることはないが、主觀的に事業者その人より見れば、獨立自營者は俸給生活者に比し、多くの危険と精神的愉快とを味ふことが出来る。獨立自營者は事業成否の全責任を背負うてゐる。會社の經營者は失敗其他の場合には一片の辭表でその責任を解かれるともある。近頃は背任罪を以て問はれることが無いでもない。獨立自營者は辭職するとは出来ぬ。如何に悲運に際しても最後まで行き通さなくてはならぬ。その間の辛苦は深く同情に値する。是と同時に又成功した場合の精神的愉快に至つては、俸給生活者の夢想だもなし得ぬものがある。

獨立自營者もその業體を大別すれば、(イ) 生産的事業及び(ロ) 商業に従事する者、(ハ) 金貨、投機の三者とすることが出来る。爰に生産的事業といふは有らゆる農、工、漁、礦業者等の生産事業に従

事せるものを總稱するのである。而して商業家中には大は外國貿易に従事するもあり、小は國內相互の需要を満たすもあり、規模の大小、富の多少はありとするも、共に何れも國家を益し又自己を利するもので、其性質よりすれば最も尊敬すべきものである。但しこの部類にありても亦排斥すべきものではない。例へば粗製濫造して他先進者の占有せる市場に惡競争を試み、或は不當の賣崩を行ふが如き不正手段によりて利益を擧ぐる者が所在の市場に少くない。是れは内外人の共に痛歎して措かぬ所である。均しく生産貿易に従事する者であるが、かゝる手段によりて得たる富はもとより清富と稱することは出来ぬ。

金貨と投機による致富

一代の内に金貨して富を成せる人は多くは高利貸である。低利で融通するは銀行の業務にして、産業發展の必要機關である如く、普通の金貨は差支ないが、高利貸に至りては他人の困難に乗じて不當の高利を以て貸附、一年數割の利益を徴し、眞面目な事業を以てしては、その利子をだも支拂ふ事は出来ぬ。かゝる高利を借りるのは借りる者も不心得であり、又無擔保を以てする爲に危険を保障する

やうな事情もあるか知らぬが、或場合には熱湯を吞ませるが如きことを爲し、遂には骨を食ひ肉をしやぶるまでの慘忍酷薄を敢てするの實例に乏しくない。我國の富者中には斯かる手段で富を積んだものもある。而してその富の中には人の無限の恨と涙とを含んで居るから大に排斥すべき濁富である。次に投機によりて富を得たるもの即ち株式や米相場で富を作つたものは、成金と稱してこれ亦尊重されない。將棋で歩が俄に金に成つたことから稱するものであらうが、斯かる手段により致した富には何等の權威がない。相場師の一言の下に冷評されて了ふ。元來金は交換物無しに入るべきものでない。物品が勞力を提供して、その代りとして收むるものである。投機には即ちそれが無い。カーネギーは青年に向つて極力投機を戒めてゐるのも此處にある。又斯かる手段によりて得たる富は泡沫に均しく、長く身に着くものでない。投機者流には一攫萬金、成金として大道を濶歩するところもある。一朝の榮、忽にして秋風の漸瀝に萎むは常に見る所である。然らば眞の清富とは如何なるものか、現代の何人が清富者か、又清富者となりたるものは如何なる方法によれるか。今後は如何にして清富者となるべきか。請ふ之を次章に説かん。

清富者は誰か

清富とは何を意味するか

今の世に於て富の力ほど大なるものは少い。金銭ある所大抵のことは望んで行はれぬことなく、富ある所、或程度までは權勢も名譽も得られる。かく富の力の侮り難きを目撃するものは動もすれば富の威力に心酔し、滔々として利をこれ追はんとするに至る。併し富は手段であつて目的でない。富める者或は一時俗衆の追従を受けることあるも、致富の手段にして正しからざれば、永く社會の尊敬を受くることは出来ぬ。蓋し富は如何に之を積むも以て人格を高尚せしめ、人物の眞價を決する標準とはならぬ。加ふるに致富に急なるの餘り、動もすればその方法手段が正義人道に背反し易いから、その人格にして高潔に、其手段にして公正にあらざれば、折角積める富も以て清き富として世の尊敬を博することは出来ぬ。

然らば清き富とは如何なるものであるか、正しき手段と目的とを以て積める富を稱するのである。正しき手段と目的とによりて得たる富は多々益々光輝を發し、小にしては一身一家の幸福を増進し、大にしては國運伸張の基となる。かくてこそ人格の光は能く富の力と調和を保ちて世の尊敬を博すなれ。余はこの意味に於て多くの致富を更に解剖し、濁富の排すべく、清富の愛すべきを明かにしたいと思ふ。

國家社會と共に利する清富

眞に國家を利し社會を益し而して己れ自身も亦富めるは、清富として最も尊ぶべきものである。換言すれば正しき手段によりて世界的大發明をなし、若くは世界的大事業を經營し、恩澤を世界萬人に光被せしめ、而して自己も亦共に富める者は清富者として最も推重するに足る。人間の事業中、その及ぼす恩澤の多々益々廣汎なるに従ひ、その事業は最も尊重すべきものであり、而して世界的發明及び事業はこの意味に於て最も尊ぶべく、之によりて得たる富は最も清きものである。

昔スエズ地峽の兩大陸連結するや、歐亞の交通は遠く亞弗利加の南端喜望峯を迂廻するの不便と不

利とを免れなかつた。レセツプは佛國一官吏の子であつたが、深く其不便を感じ、是非ともこの地映を開發して運河となし、以て世界交通に貢獻せんことを企て、五十歳の時その計畫を發表し、英國、埃及、佛蘭西を遊説して資本家を求め、或は自ら技師を率ゐて測量に従事し、既にして漸く工事に着手するや、身は病魔の冒す所となりて苦められ、資金は缺乏する、世間からは酷評を浴せられたが、終に十二年目に至りて工事を完成した。その間の苦心は眞に名狀すべからざるものあつたが、併し竣工後は世界の交通上に新生面を開き、至大の便利を與ふると共に、自己も致富者の一人となつた。氏の如きは公益を行つて清き富を得たる一例とすべきである。

米國のエヂソンは、蓄音器其他電氣利用上に各種の大發明をなして巨富を得、我高峯博士も亦消化劑たるタカジアスターゼ、止血劑たるアドナリン、目藥たるアドラ等を發明して在米邦人中の成功者と諡はれてゐる。此等の人は正しき手段によりて有益なる發明をなし、世界人類を益し、同時に發明者自身に富を致したので、その富は清きものである。

事業を樂んで得た清富

次に事業を樂む結果として得たる富も亦多く清富である。事業を營む者必ずしも富を好まぬのでなく、又富なければ事業を起すことも出来ぬが、單に富を得んが爲に致々として働くのでなく、その事業を愛し事業を好み、富よりも事業そのものを樂とするのである。富よりも事業そのものを愛し、富を積むよりも事業を擴大するを好むものである。而して事業を擴大すれば富も亦從て自ら増加するが、其間には自ら主客の別がある。即ち事業が主にして富は客である。米國のカーネギーやワナメーカーの如きは稍此部類に屬する實業家である。

我國に於ては遊澤子、故森村市左衛門男、故古河市兵衛、大倉孫兵衛、初代小林富次郎氏の如きは其適例であらう。遊澤子は我實業界の先覺にして又泰斗である。明治維新以來の文明的な新事業は殆ど皆子の首唱又は援助によつて成立したものならぬはない。而もその事業を起すや一身一家の利害を主とせず、常に天下國家を目標としてゐる。かくして活動すること五十餘年、今日の事業は殆ど大部分子によりて萌芽を發したものである。又故森村男は始め福澤諭吉先生より獨立自尊の大切なることと國富増進の道、海外貿易にあることを説かれ、國家の爲に盡さんとせば海外貿易に従事せよと勧められ、爾來その勸告に感激して海外貿易に奮闘し、遊澤子の如くに廣く多事業に關係しなかつたけれど

清富者は誰か

も、貿易上には殆ど代表的に米國に發展し、遊澤子と共に國家的に事業を好める人であつた。又古河市兵衛氏の如きも全精神全精力を捧げて鑛山事業に打込んだ人で、身は富豪となつても己の一身を處すること案外質素であつた。その晩年に至るまで丁髷を存したなど、その風格の一端を窺ふに足るものがある。

但し事業を好むの人常に必ずしも清富を得るものとは限らぬ。如何に事業を好むものも、その執る所の手段にして卑劣なるものあり、或は他人の事業と利益とを害し、或は他を陥罪して己獨り事業に成功して利益を壟斷するものがある。斯くの如きは富如何に大なりとするも、清しと稱するとは出来ぬ。而してこれは獨り市井の小實業家のみならず、堂々たる大實業家にして尙且か、る卑劣の行爲を敢てするものがある。故に事業を好むと雖も、その執る所の手段は深く注意せねばならぬ。

富を目的として得たる清富

富を得るを目的として營業するも、正直なる手段によりて得たる富は亦清富たるを失はぬ。前に擧げたのは事業を主とし、これは富を主とするも、其執る所の手段正しければこれ又推奨に値する。彼

等は自己の能力を絞り自己の手腕を揮ひ、正しき方法を以て實業を經營し、着々その富を致すもので服部金太郎、故日比谷平左衛門、山口玄洞の諸氏の如き獨立自營者中には多々是れありと思ふ。堅實なる實業家は概してこの部類に加ふべきものである。

事業を好む者は動もすれば事業の爲に手段の良否を選ばざることあるが如く、富を目的とするものは殊に富を追求するに急なるの餘り、其手段を選ばぬことが起り易い。獨立自營者にして其成功の反面に暗い翳を宿すものあるは、主として富を追求するの餘り、手段を選ばぬからである。實業家としては此點に最も留意しなければなぬ。南阿の奇傑セシル・ローズは、この點に關して吾人の龜鑑とするに足ると思ふ。彼は一介の書生を以て南阿の金剛石の鑛山事業を企て、巨利を得た人であるが、其富を致す手段には深く注意を拂つた。彼は新會社の設立に際し株主たらんことを頼まれても容易に應じなかつたといふ。これは氏が株を有つときは世人も亦その會社を信用して株を買ふので、萬一不幸にして事業意の如くならぬ時は、氏獨り損失するのみでなく、他の一般株主に迷惑をかけるを慮れたからである。故にその資金を要して止むを得ず所有株を賣出す時も、最も信用ある會社の株を賣り、信用比較的薄いものを賣らなかつたといふ。蓋し信用ある會社は彼の賣出しにより影響を受くることなき

も、信用薄きものは、彼の賣放ちが會社の信用に關係し、會社及株主の不利を來すを慮れたからであるといふ。富を得るに急なるものも、這般慎重なる注意を以てするときは、蓋し過なきを得るであらう。

俸給生活よりする清富

俸給生活の實業家にして其の會社に従事するや忠實に、經營亦宜しきを得、正當なる報酬を受けて富をなすもの亦清富者と稱すべしである。益田孝、莊田平五郎、廣瀬幸平、團琢磨、故近藤廉平、早川千吉郎、故渡邊専次郎等の諸氏の如きは、此種の清富者であらう。國家社會を益する事業は必ずしもその經營者が獨立自營者たると會社組織たるとを問ふべきでない、寧ろ近時の如く大資本を集中し大規模に經營するを要する時代に於ては、國家社會を益する事業は會社組織を以てするを便とする。かゝる事業を經營し、方法宜しきを得、國家も自己も共に富を決せば清き富として誇るに足ると思ふ。無論會社の勢力を濫用し、或は不正常な手段によりて會社の利益を増加し、或は自己の私腹を肥すに於ては濁富と稱すべく、而して我實業家中この種の人物絶無なりとは言はれぬ。

石油王の不人望は何に由來するか

以上列記の致富は多少の例外ありとするも、概して清富として推重すべきである。更に濁富として擧ぐべきは假令國富を増進すると共に自己亦富むとも、其手段方法の卑劣なるものを云ふ。斯くの如き濁富者は社會の排斥を免れぬ。米國のロックフェラーは石油王と呼ばれ巨億の富を擁し、シカゴ大學に數千萬圓を寄附し、尙公共慈善のために寄附するもの年々四五百萬圓の多きに及べり、而も甚だ不人望である。その最大理由は彼が人格の貴重なるを思はず、最初私腹を肥すためには、如何なる惡辣手段を施すをも敢て辭さなかつた爲である。即ち小さき石油業者の起るや、彼は其地方に石油を安賣して之を破産せしめ、機を狙つて安くその事業を買収し、獨占の勢に乗じて市價を高め、以て同業者を苦め、社會を苦め、獨り自己の利益を收めたからである。巨資を提けて弱者に臨み、併呑政策を行ふ爲には有らゆる手段を辭せぬのは、獨り石油王のみでなく、我國にも現に其人其會社なしとせぬ。深く反省すべきである。

ルーズヴェルト氏は會て米國の富豪を諷刺して曰く「拜金の風に最も長じてゐる我米國人中には少

しも義務的觀念なく只自分の財を増すのみを以て唯一の目的となし、而も其蓄財したるものは多く卑陋なる用途に消費して憚らず、多くは之を投機事業に用ひ、或は子女を墮落せしむる爲に費し、内外の識者から嗤はれるのを少しも恥とせぬものが澤山ある」と喝破したが、この言は恰も我國の成金連中の状態を痛撃したるが如くに感ぜられる。大に反省すべきである。

濁富は子孫を累する

富は飽くまでも正常な目的と手段とによりて積まねばならぬ。不正の手段によりて得たる富は濁富として恥づべきのみならず、子孫を累するものである。不正不義によりて得たる濁富は衆人の怨府となり、その子悪徳を學び家を倒し産を破るの實例は頗る多い。幸にしてその子辛うじて産を守るも、三代目に至りて倒産するは古來多く見る所である。所謂賣家と唐様に書く三代目は富を求むる者の大に反省すべき所である。

濁富者は世を毒し部下を謬り、他に悪感化を與ふるの害少くない。活動の意氣旺盛なる時は或は深く意に介せずとするも、老來、過去を追憶すれば、潛みたる良心始めて頭を擡げ、寢覺の悪きことも

あるべく、又その最期に處して一種の煩悶を感じ、泰然たることは出来ぬであらう。富の必要であることは人皆之を熟知してゐる。熟知してゐるだけに其手段を誤り易い。是に於てか富を望むものは、濁富を斥けて清富を求めなければならぬ。然らば如何にして清富者となるべき乎。其手段方法如何、乞ふ次章に於て之を説かん。

清富者たるの道

清富を作るべき唯一の手段

清富の必要にして尊敬すべきことは既に之を述べたが、然らば如何にして清富者となるべき乎。これ最も大切な問題である。由來富を作る人の要素を観察するに、絶大の精力、鐵石の如き意志の力及び非凡なる勇氣とが主となつてゐる。之に加ふるに明敏、勤儉、熱心、忍耐、敏活、果斷等の性質も亦相待つて致富の要素を爲してゐる。人間を機關車とすれば精力は石炭と水であり、勇氣は火であ

り、而して意志は之を指導する機關士なりと評した人がある。果して然らば勤儉、熱心、忍耐等は機關であると言ふべきである。後の要素も無論必要であるが、前の三要素は殆ど致富の運命を決する最大要素と稱すべきである。

併し余が爰に述べんとするは單に富を得んとするのではなく清富を得んとする手段方法である。而して清富は正しき手段方法によりて正しく致した富であるとすれば、以上に述べたる要素を運用するに正義人道を以てすることがその方法である。要素は共通であるが、之を運用する精神と手段によつて、其得たる富に清濁の差を生ずる。

正直の手段によれる清富

正直の手段によりて最善の努力を爲すことが清富を作る最大の要件である。蓋し正直は信用を生み信用は致富の源泉である。而して前に述べた三要素の必要なることは云ふまでもない。單に正直のみでは富を致し得ぬ場合が往々ある。更に明敏にして最善の努力を加ふることが必要である。身を一介の貧兒より起し、赤手巨億の富を得、而も人格の高尙を以て稱せらる、米國の富豪ラツセル・セーヂ

氏は、雜貨店の事務員より獨立して大實業家となりたる後、人に語つて曰く「努力は余の生命にして成功の武器なり」と云ひ、又「余の資産一切は皆余が努力の報酬に過ぎずして一弗一仙の微と雖も、相當の理由なきものはない。獸身的努力を外にして富を積まんと欲するは思はざるの甚だしきものである」と叫んでゐる。自己の財産の一弗一仙と雖も皆相當の理由ありと主張するは、其手段の公明正大にして俯仰天地に恥ぢぬからである。他人に説明の出來ぬ金は不正にして濁つた處あるに相違ない。かゝる富は之を積むとも人生の眞の幸福とは言はれない。

文明的商略は道徳と一致す

森村市左衛門翁は正直を以て海外貿易に従事し、日本商人として外商の信用を博したのが發展の根柢をなしてゐる。されど翁は平生正直と努力とは自分の主義であると言はれた。曾て日本人の商業道徳の低いのは大慾がないからであると批評して曰く、「眞に金儲の大慾があれば苟も虚言を吐くとか、不正手段を探るとか、約束を違へるが如きことは出來るものではない。一度は儲かるかも知らぬが、二の手が利かない」と、大慾は無慾に似たりとはこの事である。

不正直の基礎の上に築かれた事業は外観如何に壯麗であつても、極めて不健全に、顛覆の危険が多い。到底正直でふ地盤に據つて起つた事業に及ばざること遠い。

往昔は虚言を吐かねば商賣は出来ぬかの如くに誤解してゐたことがある。懸引は商人の常と稱し、虚言を吐かねば商人として手腕を缺けるかの如く想うてゐた。併し時代の進歩すると共に虚言は信用を害し、信用を害すれば商賣繁昌せぬことが明白になつてから、文明的商略と普通の道徳とは一致すべきものなることが分つて來た。故に清富を得んとする者には虚言は禁物である。虚言を云はず正直な行動をする人は心中に疚しき所なく、天下殆ど恐るべきものがない。此處に非常に強き力がある。世間から尊敬せらるゝのも此處より發する。

遊澤子爵の家訓中に「物事に接するに滿身の精神を注ぎ、篤厚誠實にして片言隻語だも妄りにすべからず」とあり、又古河翁の家訓六ヶ條中の第四に「人間は正直を以て第一とす」とある。實業界に成功した者が多年の經驗より割り出して、正直が人生成功の根本なるを感得した精神、以て見るべきである。正直と云ふことは餘りに平凡なるが爲め、動もすれば之を輕蔑する人がある。如何に平凡なことでも大切なるものは何處までも大切である。決して閑却してはならぬ。

事業を樂んで得たる清富

正直なる手段を以て最善の努力を爲すことは清富を得べき要件であるが、均しく此條件に適合するものとすれば、余は事業を樂むことを以て最も尊敬すべきものであると信ずる。眞に事業を愛し事業を樂む者はその事業が完全精美ならんことを望み、事業發展の爲に不正の手段を弄することが出来なくなる。何となれば眞に事業を樂む者は缺點ある事業の發達に満足するを得ず、その之に満足するものは、表面事業を樂むと稱するも實は事業より得べき富を樂むに外ならぬ。

富を目的とする者は富の追求に惑うて兎角不正手段を弄して或は他人を排斥し或は他を陥擠せんとするに至る。眞に事業を愛する者は自然に不徳非理の事を避け、事業の完全精美に發達するを望むこと、恰も我子を立派な人物として養成せんとするに異らぬ。他人の非難攻撃を受くるが如き惡徳を避け、事業を經營するにも正直の手段を以て最善の努力をなし、或は事業を擴張すべく、或は之を改良し、堅實なる基礎の上に愈々發展して止まる所がないであらう。森村市左衛門男、古河市兵衛翁等はその適例にして、正しき手段によりて得たる富は之を事業に投資し益々擴張したのである。事業

を愛し事業を樂む者は自然に富を作る。而して斯くして得たる富は、公明正大、何等心に疚しき處なく、清富として長に樂むことが出来る。

観察と判断の正鵠も亦清富の本

次に濁富を排して清富を得んとすれば、何事に對しても観察と判断とを正當にせねばならぬ。而して、観察と判断の標準は之を正義に置き、苟も正義に反することは微細と雖も、これを避くるの勇氣と決心とがなければならぬ。蓋し實行は観察し判断するより起るものである。故に若し観察を誤る時は、假令惡意を以てしたのでなくとも其爲す處知らず識らずの間に不正不義に陥るとがなしとせぬ。假令心に不正の念なしとするも、爲す處止義に反すれば、意志なかりしの故を以て不正に對する非難を免る、ことは出来ぬ。故に判断が大切なると共に、常に正義の觀念を離る、ことは出来ぬ。而して適切な判断を下さんとすれば、常識が基礎となる、けれども知識、才能及び經驗の三者の結合又最も必要である。色眼鏡をかけ、感情に走つて判断する時は大なる誤解を來すことがある。理性に訴へ正義に立脚することを忘れてはならぬ。

判断を誤る時は動もすれば不正手段を弄する人に致され、思はざるの不正を敢てすることがある。自分には心中疚しからずと信じながら、その結果不正となり、甚だしきは爲に半生の歴史に一大汚點を印することすらある。動機正しとするも、判断を誤つた責任は自ら擔はねばならぬ。この理論は部下に對しても同一である。自己は正しき心を以てするも、部下之を解せず、或は手腕に任せて惡辣の行爲を敢てすることなしとせぬ。これは部下の所爲であるが、主人たる者自ら責任を分たざるを得ぬのであるから、深く注意せねばならぬ。

清富は人格の反映なり

余は上來清富を得るの道を説いたが、要するに富を得るの手段によりて自ら清濁を分つのである。言ひ換へれば清富はその人格の反映である。人格高潔なる人は清富を作り、品性劣等なる人は濁富を作るのである。正直の手段を以て最善の努力を爲すにありと云ふと雖も、更に一步を進めて深く考ふれば、高潔なる人格を涵養するに歸着する。人格高潔なる所に正義の念旺盛として起り、人格高潔なる所、行ふことが正直となる。清富は所詮人格の反映に外ならぬ。

金錢は世人の貴ぶものである。而も之を人格に比すれば土芥の如きものである。人の價値は知識財産の多少、爵位勳等の高低によりて度るべきものでない。此等は外部より附與せられたもので、人格の高下こそ眞に人の價値を度るべき尺度なれ。世に卑むべきもの多しと雖も、品性の下劣なる人ほど卑むべきものはない。人に悪感と與ふるもの多しと雖も、品性の下劣なる人の如く他に悪感と與ふるものはない。品性下劣なる人の日常の言行を見よ。實に嘔吐を催さしむるものがある。所謂成金なるもの、内、往々にして世の指彈を受くる者あるは、致富の手段の投機的に僥倖によるもの多きと、その品性の下劣なるとに由來することが多い。

清富は高潔なる人格の反映である。故に清富を得んとする者は品性の貴重なるを忘れないで、高潔なる心事を以て其業務に努力すべきである。清富を得たものが世の尊敬を受け、大なる權威を有するは、致富の背後に強烈なる人格の力があるからである。

實業家中の模範的人格

余は實業家中最も人格高き人として後代までも敬慕せらるゝ模範的實業家として英國のビーボデー

を紹介したい。彼は貧兒より起つて一大銀行家として成功したが、その人となり正直にして識見高く且つ優秀なる才能を有し、而して之に接するに衷心よりの愛情を以てした。彼は俗界にありながら終生惡辣といふ文字を解しなかつたといふ。彼は晩年に至り私財五百萬圓を投じて倫敦に貸長屋を建設し、極めて低廉なる家賃で二萬人の貧民を收容し、慈善的實業家として長く世の崇拜を受けてゐる。彼が歿するやウエストミンスター寺院に葬られ、國王、大政治家、大藝術家等と相列んで破格の待遇を受け、「勇敢で正直で高貴な人格の友」として弔はれたといふ。

彼が貧兒の爲に盡したる精神は彼の高潔なる人格を示し、この人格の生み出した彼の富は雪の如く清きものであつたと信ずる。一例に過ぎずと雖も、余は清富が人格に生れ、人格によりて光彩を發することを確認して疑はぬ。

近時富を得るものが益々増加した。個人の富の集まれるものが即ち國家の富を爲すのであるから、我國の如き國情にありては、富の増殖は最も喜ぶべきであるが、富を作るに汲々として手段の如何を問はざるものは、濁れるものとして、寧ろ大に恥づべきである。余は清富を得ざれば寧ろ清貧に安んずるの覺悟を以て事に當りたい。

富の善用

惜まるゝ人

實業界の巨頭中野武營氏が先年物故され其葬儀が青山齋場で執行された時、濫澤子爵は柩前に於て故人に對する追悼演説を行はれた。其結末に於て故人の人格を賞賛し至誠國を思ふ人で、其犧牲的精神は能く重大なる任務を完うし、而も一身寡慾、清廉にして謹厚、眞に後昆に範を垂るべき人格者であると唱へ、且つ國家の現狀を顧みれば一身能く國家に挺し、心操玲瓏玉の如く恪勤清廉の美德を備へ私利私慾に驅られざるの士を要求して止まぬと絶叫し、更に近時の社會、特に實業界の風潮意に満たざるものあるを諷刺された。子爵は實業界退隱の後、實業と道德とを一致せしむるため、精神界に向つて大に力を盡さるゝ覺悟であると聞き、余は兼ねてより其意氣に對し深く敬服してゐたのであるが、中野氏の柩前に於て、多數の實業家の會葬せる機會に、實業界の風氣刷新の急を喝破されたのは其間

如何なる意志があつたかを知らぬが、余は實に同感に堪へなかつたのである。

實業界の風氣刷新

従來俄に巨富を得たもの、多くが奢侈淫靡にして、動もすれば驕慢に流るゝ者ありとは識者の痛歎してゐる所であるが、之と共に他方には此等の俄富豪を羨み、僥倖心を起し、一舉にして巨利を網せんとする者の少くないのは憂慮に堪へぬことである。戦時中、官公吏、教員、軍人等の一定の俸給に衣食せる者は物價騰貴の爲に成貧となり、生活難に苦んでゐた際、戦時の利益に浴した連中は輕薄、奢侈、淫靡、放埒、自墮落等の惡風に染み、社會の風紀をして著しく不健全ならしめた。俸給生活者は一面自己の生活難に苦み、他方には此等の惡風潮に對して憤慨し不平を起したが、余は當時此有様を見て危險が其間に胚胎することなきかを恐れた。

上の行ふ所、下之より甚だしきものがある。俄富豪が奢侈贅澤に流るれば、其部下並に職工労働者も之に倣うて甚だしきに至るものである。彼等は貯蓄の思想を缺くものが多いだけに、奢侈の極端に失ふことは、新聞紙上に多く散見する事例に徴しても分る。此點より考ふるも我實業界は其風紀を

刷新して健全ならしめ、獨り事業自身の爲のみならず部下及職工労働者に對しても身を以て率ゐるの覺悟が必要である。

手腕に相應しない富の獲得

人が富を獲る方法を大別せば二種となる。一は勤儉力行、粒々辛苦、大に奮闘努力し、逐次に貯蓄し、其結果富を作るのである。他は僥倖によりて富を得るのである。戦時中俄に富を得た人は多くは僥倖によつたもので、即ち歐州戦争といふ僥倖の賜であつた。無論自己の力もあり奮闘もないことはないが、主たる事情は戦争のお蔭であつた。戦争がなければ巨富を積むとは出来なかつたのである。故に手腕力量に不相應の巨富を得た者が澤山ある。船舶所有者は勿論、鐵材、藥品、染料、綿絲布等何品たるを問はず之を所持してゐたものは、其市價の騰貴によりて自ら利益し、仕入れて賣れば必ず利益を得た。無論全く勞苦がないとは云はれぬが、物價の騰貴は彼等をして自然に巨利を得せしめたのである。大なる苦心努力の末、多くの歳月を費して得たる富は之を大切にすることが、一朝僥倖で得た富は濫費し易い。突飛亂暴な金の使ひ方をして社會を毒するもの、多くは僥倖者流の思慮淺薄に由來

するものも之が爲である。近時社會が物質的に流れ、富める者を以て直に人物とし僥倖で富を得た者も之を人物として尊敬する風がある。これ亦僥倖者流をして大いに横行せしめる一因であるが、人物の眞價は決して富の多少によつて決すべきものでない。況して僥倖によりて得たる富は人物を測る尺度たるべき者では斷じてない。俄に富を得た者は動もすれば濫費し易いが、併し僥倖によりて得た富であれば、一層その有がたきを感謝すべきである。他人の努力奮闘せるに對し、自己が僥倖の恩恵を受けたならば、増長して好い氣にならず、其幸運を感謝すべきである。而して感謝の方法は其富の一部を國家社會の爲に善用するのである。

永遠の最良を圖るの主義

元來人が富を得る目的は何であるか、余は自己の生活を改善向上せしむると共に、社會の一員として將た國家の一人として、自己以外、他人の爲め、社會の爲め、國家の爲に貢獻するにありと信ずる。若し個人の贅澤三昧が致富の目的であるとせば、其人格の劣等にして共同生活の眞意を解せぬ者たるは勿論、之が爲に自己の心身を破壊し、社會の風紀を紊し、自他共に不利益を受くるものである。斯か

る致富者の出づるは害あつて益がないかも知れぬ。故に余は富を得んとする者及び之を得た者が一定の主義を持つことを望む。人が此世に生存してゐる以上は何等かの主義を懐かなくてはならぬ。自分は何の爲に生存してゐる乎を熟考せば何等かの主義を懐かざるを得なくなる。而して余は如何なる方面の人々も永遠の最良を慮るを以て主義として貰ひたい。我々は兎角眼前の利害を打算するが、併し永遠の最良を圖ることは最も必要であつて、何人も之を守らねばならぬ點である。此主義より割り出せば自己の行爲は自ら正道を踏み、馬鹿氣たどが出来なくなる。俄に富を得た者が永遠の最良を主義とすれば、個人としては堅實に其事業を経営し、國家の一人としては國家社會の公益の爲に、其得たる富の一部を寄附するの必要が明となり、奢侈濫費の益と自己を墮落するに過ぎぬことを發見するであらう。

俄富豪に富の善用を勧む

僥倖に依て俄に得たる富は公共の爲に比較的寄附し易い筈のものである。何となれば彼等は二三年前の境遇と比較すれば其富の一部分を割くことは決して苦痛でないからである。此政に著名なる俄分

限者中には五十萬、百萬といふ金額を或は學校の爲め、或は飛行機研究の爲め、或は理化學研究の爲め、或は公會堂建設の爲め、或は其他の目的の爲に寄附したものがあつた。至極結構な美舉である。併し今や著名ならざる富豪も亦頗る増加してゐる故、余は此方面の富豪に向ひ飽くまでも其富を善用することを勧めたい。

我國民性に徴すれば我富豪は進んで公益事業の爲に多額の寄附を爲すべき性質を有してゐる筈である。我國民が櫻花を愛するは、精神的に櫻花に共鳴する所があるからであると思ふ。櫻花の特徴は散り際の潔白なことにあつた。他の花は大抵雨に打たれ風に暴され、色褪せ形破れ、最後に萎縮した醜態を示すものであるが、獨り櫻は潔く散り、花瓣雪の如く飛散する。我國の武士は古來生命を捨つる場合、櫻花の如く清く潔きを誇りとし、卑怯未練の振舞を以て末代までの恥辱としたのである。換言すれば櫻花は我日本民族の具有すべき氣象精神を表示したものであらう。果して然らば富豪が公共の爲に其富の一部を散すること櫻花の如く潔くありたい。

富んで而して吝嗇なるほど醜いものはない。十八世紀の英國富豪トーマス・クロークは勤勉にして節儉であつたが、遂に吝嗇に陥り、百數十萬圓の富を蓄へ、八十六歳にして死んだ。彼は臨終の際歎息

して曰く「嗚呼自分は積富せんが爲に積富した。今日始めて積富には他に目的あることを悟つた、我一生の徒勞に過ぎなかつたを悲む」と。然り只富を得んが爲には富むは無意義である。富んで財を善用せず、死する時初めて一生の徒勞に過ぎなかつたと覺つたトーマス・クークは實に憐むべき人物であつた。余は我富豪たる者がその生涯を徒勞に終らざるに注意せんことを希望する。臨終に之を悟つたクークは憐むべきであるが、終生之を悟り得ない人は更に憐むべきであることを忘れてはならぬ。

富の罪人となる勿れ

富豪は其富を善用する外、更に最も必要なことがある。それは富に相當する人格を養ふことである。衣食足つて禮節を知るといふが、富を得たらば富の手前、人品劣等では相濟まぬ。況して二十世紀は人格の立派な人、修養ある人物を要求してゐるから、品性人格を度外視するが如き實業家は、以て偉大なる人物となり得ぬは勿論、人に長として活動することも出来ぬ。富を得て人格を養ふことを忘るる時は、往々富の濫用となり、從て富に對する罪人となるのである。富若し靈あらば、必ず泣くであらう。俄富豪にして苟も人格を重んじ、これが修養に勉むる氣風に傾けば、我實業界は慥にその風紀

を刷新するであらう。而して社會も亦延いて健全なる風紀を養ふであらう。余はこの機運を促成せしめたいと思ひ、富豪の進んで修養せんことを希望する。

其器に非ずして地位を望む勿れ

其器にあらずして徒らに地位を望むは恥づべきことである。然るに我實業界に於ても俄に富を得たといふ一事を以て、株式會社の大株主となり重役の地位を望む人が増加して來た。社會も亦さまでに之を怪まぬ様であるが、單に大株主たるが故を以て重役となるべきものでない。會社は多數人の資本を集めて事業を營むものである。之が經營の任に當る者は勿論、假令平重役と雖も手腕技術見識共に相當發達してゐる人でなくてはならぬ。然るに單に富を得たりといふのみを以て、其器にあらざる人が其地位に就くの傾向近時漸く著しきを加へて來た。これ亦實業界の惡弊であつて、事業の發展を期する所以でない。斯くの如きは斷然刷新すべきである。

之に就て思ひ出さるゝは實業家ではないが、大器を擁しながら顯要の地位を斷り縁の下に力持に甘んじて來た米國のハウス大佐である。彼は歐洲大戰の講和問題に當り世界の視聽を一身に集めたが、

久しくウエルソン大統領の蔭に立つて世界政治の樞機を握つてゐた。彼は親譲りの財産數百萬弗を有する富豪の一人であり、其富は以て米國の政界を動かす得ないのではないが、而も斯かる卑劣な手段を探らぬのみならず、自ら知事たり大臣たるが如き野心をも起さなかつた。テキサス州の知事は常に彼の方で遣られる。米國の大統領としてウエルソン氏を擔ぎ出す。それだけの手腕あり勢力ある彼も自ら知事たり大臣たることを固辭し、縁の下からウエルソンの顧問となり私設公使となり下働きとなるに甘んじた。ウエルソンを大統領に推薦し當選せしめた時、ウエルソンは彼に大臣の椅子を與へんとしたが、彼は之を受けずに却て其親友を推舉して大臣たらしめた。而もウエルソンは彼を大臣以上に尊敬し歐洲外交の事件には總て彼に相談したといふ。かくして、彼は手腕財力勢力の大なるものあるに拘らず、私利私慾の爲に之を濫用しない。ハウス大佐の如きは實に珍しき高潔なる人格者である。我々實業界及び其他の社會に於てハウス大佐の如き精神の人が欲しい。富んで手腕あり人格の高き人は、避けんとしても世人は之を社會の表面に推し出さんとする。器にあらざる富豪は、徒らに不相應の地位を望むに先ち、先づ其人格を修養し其手腕を養ふことに努力すべきである。

心の貧富

心の貧しき人の悲惨なる末路

世上一般が滔々として物質的に流れ、精神界の修養を閑却するの傾あるは大は戒心すべきことである。即ち實業の發展を圖り營利を目的とする事業界にありても、單に利害の打算にのみ汲々として、大切なる信用を無視するが如きことあるは、實に憂ふべきである。況して政治家、教育家、官吏、軍人、宗教家等營利の圈外に立ち神聖なる天職を有するものが、徒らに時弊に感染して物質的に傾くとせば、弊害百出、社會の各方面を擧げて不安に墮はるゝを免れぬ。

惟ふに世を擧げて利益に趨り、物質的傾向に流るゝもの、必ずしも物質的富に乏しきが爲でなく、心の富の貧しきが爲である。金錢財寶に於て豊なるも、心の貧しきものは、或は一時得意となることあるも、忽にして一種の寂寞を感じ、而して終には悲哀なる半生を送るもの世に其例乏しとせぬ。紐育ブルークリンのレーモンド街に數百萬圓の財産を有したホワイトといふ富豪があつた。三百萬圓の

持参金ある某令嬢と結婚し、逐年其財産を増加し、上流社會の交際場裡にも出入し、一時は大に持て囃されたが、彼の財慾其度を失し、其一言一行は紳士的態度を缺き、人をして其精神状態に何等かの異状あるにあらざるかを疑はしめたが、彼の卑劣な態度が愈々明かとなるに従ひ交際社會の排斥を受け、俱樂部や協會等より除名された。彼の妻は始めて富の依頼すべからざると、孤獨の淋しさを痛切に感じ、それが病因をなして終に死去したが、ホワイトは其妻の遺産を悉く隠蔽したるが爲め怨にして社會の問題となり、財産隠匿罪に問はれた。彼は其罪を免れんとして再三其居所を晦ました。終に捕へられて入獄し、十數年前に死去したといふ。彼は物質的に貧しき人ではなかつた。富豪多き米國でも富豪として推さるゝ人であつた。而も富んで飽くことを知らず、財に富んで心に貧しきものの悲哀を語る一資料となつた。余は世上一般人が徒らに物質的の富を求めて飽くことを知らず、金銭財産に豊なるを得ば眞の幸福始めて得らるべしと思へるもの多きを想ひ、紐育のホワイトの事例を見、此等の人々の爲に寒心に堪へぬのである。

心の富める人とは何か

富は固より人生に必要である。個人も國家も之によりて發展するのであるが、併し富は決して萬能を有するものではない。之が獲得の手段と利川の途を誤れば却て品性を傷け健康を害し、甚だしきに至つては、人を墮落させることがある。昭憲皇太后が持つ人の心によりて寶とも

仇ともなるは黄金なりけり。

と詠ませ給ひたるは、この間の消息を訓へ給うたものと思ふ。物質上の富は使用の如何によりては世を益することもあれば、又害することもある。而して富の力の偉大なるを知り、之が獲得と利用に誤りなからしめんとせば、心に富むことを忘れてはならぬ。

心の富める人とは如何なる人であるか、その思想感情ともに高潔堅實にして、自己の職分に對する責任と義務とを行ふ人を云ふ。換言すれば模範的人物の有する心が即ちそれである。この心の富は用ひても盡きず、使用すること多きに從て益々光輝を發揚する。この富を有するものは、物質上の富を有せざるも、泰然として貧に安んじ他を羨まず、物質上の富を有するも傲然として驕るとなく、仁慈の心を以て他に接することが出来る。從て自ら人に信用され尊敬せられ重用される。之に反して心

の貧しきものは、假令物質上の富を有するも、優美なる思想感情なく、何處となく下品である。富を離るれば何の價値もなき人となつて了ふ。物質上の富は水に溺れ火は焼け、昨の富豪も一朝にして赤貧となるの例に乏しくない。之に反して心の富は水も溺れしめず火も焼くこと能はず、形骸は滅するこゝとあるも、その精神は耿々として永久に多くの人を感化する力がある。今や物質の富を追求するもの滔々として止まる處なきも、心の富を想ふもの寥寥として曉星の如し。時代の惡潮流なりといふと雖も、余は大に世人の反省を促さざるを得ない。

心の貧しき人と富める人

英國の或富豪がジョン・プライトに向ひ「貴下は私が數百萬磅の財産を所有してゐることを御存じですか」と肩を聳して語つた時、プライトは答へて「如何にも能く存じて居ります。それと同時に貴下の値打が、貴下の所有する財産以上に一步も出ないことも能く知つて居ります」と言つたといふが、財産が其人の價値の總てであつて、財産が無くなれば其人が零になるとは情ないではないか。併し之は獨り此富豪のみでなく、現に我國の富豪中にも斯かる人物が少しとせぬ。斯かる人は富こそ有すれ、

心の貧しき人である。高所に立つて之を見れば如何にも氣の毒の心地がする。

昔宋の樂喜が司城といふ職を奉じてゐた頃、某なる者が寶玉を手にしたといつて之を樂喜に獻じ、「これは天下の至寶で御座います」と言つた。然るに樂喜はこの至寶を受取らないで却て苦言を呈して「我は貪らざるを以て寶となす、汝が之を我に與へ、我之を受けたならば、我は我寶を失ひ、汝は又汝の寶を失ふであらう、如かず相互に其寶を保たんには」と言つたといふが、心の富ありたればこそ天下の至寶を求めなかつたので、物質的富を得るに手段を選ばない人々には一種の暗示を與ふるものである。

森村市左衛門男は元來佛教を信じ、次で基督教を信するに至つたが、男の意見によると現代人は鬼角我を立て、困る。私利を計ることにのみ汲々たるがために、次第に道德が素れ、仁義が頽廢する。人は私利を滅し小我を没却し、宇宙の大我と合體しなくてはならぬ。而して之が爲には宗教に歸依する必要があると信じて教會に入つたといふ。各人が小我と私慾とを放擲すれば、その各人を以て組織する會社内には不正のことなく、皆大局を見て努力するから、一般の成績が擧り利益が増進し、從て各自の利益も増進する。結局無慾は大慾に一致するものであるとなし、或時濫澤子に面談して、「自

分は小我を捨て無私となり無我となるのを道徳の根本と心得ますが如何でせう」と言つた。濫澤子も平生儒教に親み、道徳問題に腐心してゐたので、「御尤ものことです、儒教も基督教も佛教も歸する所は無我の大我といふ一點です」と答へ、茲に兩人協力して儒佛耶合同の歸一協會を起した。今では學者大家も加はつて眞面目なる精神界の研究團體となり、毎月一回開會して宗教、道徳、教育、社會等の問題を研究してゐる。人或は濫澤さんや森村さんの地位になれば格別です……といふものもあらう。無論兩氏の如く協會を組織することは別とするも、其精神は何人も以て模範として學ぶことが出来る。

心まで餒へるな

心の富なき人は動もすれば私利私慾にのみ驅られ、人間の價値の何物たるかをも忘れてゐる。是に於て實業家は粗製濫造も平然として行ひ、一般人は恬然として不正不義を恥としない。斯くの如きは天を仰いで唾すると均しく、早晚悪しき報いの自己に來るを想はねばならぬ。男子荷も世に處して事を爲さんとする、あくまでも公明を以て念とすべく、事が志と違つたとて決して卑劣の念を起すべ

きでない。況して物質上に窮したとても心まで餒へたくないと思ふ。匈牙利の志士コツスートは多年同國の獨立を絶叫し、常に境地利の壓迫の下に非常なる困難と戦つてゐたが、後彼が總督の印綬を他に譲り土耳其古へ亡命せんとした際、大藏大臣ドセクは省内の金庫を開き「サア、この中から御入用の金を幾らでも御取りなさい」といひ「亡命してから一番必要なものは金です。而も此處にある二百五十萬弗の金を此儘にして置けば悉く埃露の聯合軍に奪はれるのですから」と言つたが、コツスートは大藏大臣を一喝して曰く「それは匈牙利の財産である。我輩は如何程窮しても國家の財産を盗むことは嫌ひだ」と、辭して受けなかつたといふ。渴しても盗泉の水を飲まず、彼は如何に窮しても心までは餒へなかつたのである。人間としては斯くありたい。

心の富める者は發展す

心に富ある者は貧困に甘んずると共に、其麗はしき人格の光輝は忽ち人の尊敬と信用とを博し、他日大に發展する。曾て米國クエーカー宗を奉ぜる或革問屋に雇はれた年期奉公の一少年があつた。年こそ少けれ、如何にも忠實に働くので、或時主人はこの少年を呼び、「汝はよく忠實に働いて呉れる。年

期が明けたなら特別に報酬を與へる、凡そ百弗位のものと思ふが兎も角それを樂として忠實に働いて呉れ」といつた。満期の日、主人は少年の父に宛てた一通の書面を示し、「これが曾て汝に與へるといつた百弗の特別報酬である」といつた。一通の書面が百弗の報酬とは不思議に感じたが、彼は命の如く之を父に示したるに、中に「貴下の令息ヘンリーは當店にて今迄使用したる數多の使用人中比類なき善良の人物に候」とあつたので、父は之を讀むと「汝が萬金を獲たよりも此賞賃の辭を得たのが嬉しい」といつて非常に喜んだといふ。果せるかな此少年は、後年その品性の高潔なるが爲に大に成功し社會の尊敬を受けたといふ。

又米國ボストンの有名なる豪商アモス・ローレンスは平素心の富に深く注意した人で、その携帶せる手帳の中には「富よりも品性を取れ、假令汝が全世界の富を得るとも、汝が心の全部を失つたならば何の益があらうぞ」と大書して常に之を守本尊にしたといふ。此精神を以て商業に従事したればこそ、客の信用を博して事業發展し、今日も尙模範商人として尊敬せらるゝのである。模範的に成功する人は必ず心の富を備へてゐる。アモス・ローレンスの如く常に之が修養に努力するもの、華商の一少年の如く生れながらにして此美質を有するものとあるが、要するに心の富を有するものでなければ信用を受け發展することは出来ぬ。

我候補者中に此意氣ある者幾人ぞ

ローズヴェルトが紐育州知事たりし時代、反對黨の政治家が窃に彼を訪うて「金はお望みに任せて差上げますが、一つ我黨に入つて呉れませんか。さすれば金ばかりでなく、次回の選舉には大統領の候補者に推薦しますから」といつて誘うたが、ロ氏は「吾は大統領になるよりも紳士になりたい」といつて拒絶したといふ。紳士になりたいの一語は金鐵よりも重きものがある。この精神がありたればこそ金で買収せられなくとも、獨力を以て大統領に推されたのである。我國で議員選舉の場合にロ氏の意氣を以て候補を争はんとするもの果して何人かある。

一物なくとも萬物を有する人

貧しき人でも精神に富める者は、物質上に富んで、貧しき精神を有するものに比すれば遙に優つてゐる。心の富める人は一物を有たなくとも萬物を有つてゐる。心貧しき人は假令萬物を有するとも一

物をも有たぬのである。又物質上の富は永久に遺すことは出来ぬ。之に反して心の富める人はその精神を以て永久に社會を感化し、所謂永久不滅の力を有してゐる。物質上の富者は永久に其名を遺さるに反し、歴史上の偉人が不滅の名を遺すのは、一に心の貧富の差に基くのである。

スマイルス曰く「心の富める者は人をして畏服せしめる、世界一切の善は斯くの如き人によりて維持せらる、斯くの如き人が無かつたならば世界は生存する値がない」と。又曰く「品性は財産である、人の所有物中最大價值を有するものである」と。物質的の富は固より忽にすべきではないが、同時に又個人品の品位國家の品位を向上せしめんとせば、心の富をも大に養はねばならぬ。

人間價值の錯誤

物質憧憬の弊

人間貴いか物質重いかと云へば、人間の貴くして且重いことは言ふ迄もない。然るに近來世上に現

はる、諸種の不正事件の多いのを見ると、人間の價値は那邊にあるかを忘れて、徒らに物質の奴隷となつた者が少くないやうである。人間生活上物質の必要なることは勿論であるが、併し物質は人間に支配せらる、もので、人間が物質に支配さる、ものではない。主たる人間が従たる物質に憧憬して富を得んが爲には徳義も廉恥も無視して果ては法律上の罪人となるに至つては、大切な人間の價値を忘却したものであるまいか。

價値論が相應に八釜しく研究さる、が、併しそれは多く經濟的方面からの價値の研究で、人間の價値論ではない。予は寧ろ人間の眞の價値を論じて、世間一部の錯誤を正し、以て腐敗せる空氣を一掃すると共に、他面には物質慾にのみ腐心せる迷夢より脱却して、精神的多幸多福なる新天地に向ふことを勧告したのである。

人物の眞價は富と無關係

幼稚なる社會や低級の社會に在つては人物を計るに、富の大小や俸給の多少を以てするところがある。富を作るには相當の努力と手腕とを要するが故に、或は其結果より見て富豪となつた者を偉いと思ふ

のかも知れぬ。又俸給を多額に受くるものは、其手腕技術あるが爲めと思ふのかも知れぬ。併し人物の眞價は決して財産の大小や俸給の多少で定まるものではない。尤も俸給生活の點から見れば、俸給多きものは相當の人物であることは大體に於て肯定すること出来るかも知れぬが、職務の種類性質に依つて俸給的待遇が異ふ。例へば大學教授の俸給が實業社會の人々より少いからと云つて、人物が低いとは言はれない。若し俸給で人物を評價するならば人間を商品扱ひにすることになつて、而も學者教育家宗教家の如き一般に尊敬さるべき人が却て價值が低いやうになつて了ふ。人間の眞價は決して金銭で計るべきものでない。

人間の眞價は富の多少には少しも關係しない。古來巨富を擁して榮耀榮華に誇つた富豪は更に傳へられない。歐米にあつては其巨富を社會公共の爲に提供して、或は學校や圖書館其他公共事業に投じたものは其姓名が遺つてゐるが、然らざるものは其人と共に其名も消滅して居る。之に反して貧乏學者は永く記憶されてゐる。富其物は決して其人を永遠に傳ふるものではない。

感化力の源泉は何か

英國のピットは一身の負債が山の如くあつたにも拘らず、政治家としての高名を後世に遺した。ゴルドン將軍は無一物であつたが、其名聲は貧乏なるが故に少しも下落せざるのみか、却て是が爲に益々光輝を放つた。恰も乃木將軍が清貧であつたが、國民の尊敬を受くること多大であると同じ。由來精神的に世界を指導した偉人は皆富を有しない。その特色とせしは崇高なる人格であつた。而して其人格こそ多數の人々を感化せしめたのである。釋迦、孔子、基督は勿論、スピノザ、ベスタロツチ、中江藤樹、伊藤仁齋、山鹿素行、吉田松陰、數へ來れば皆偉大なる人格の力が幾多の人を動かす、今猶動かしつゝあるので、人間としての眞價が最も貴いのである。

人格の人を動かす力は偉大であるが、富は人を感化せしむることは出来ない。フィリップ・ブルツクスやヘンリー・ドラモンド等の牧師として多數の人を感化せしめたのは、彼等の口舌の力よりも寧ろ其人格に多かつた。則ち研究的發表や形式的刺戟よりも、純潔高尚なる品性より發露する善に對する透徹的感化に多かつたのである。使徒パウロは議論にも辯舌にも才氣にも長じてゐたが、而も多數の民衆を動かしたものは、彼の品性の力であると云はれてゐる。勿論宗教家や教育家には人格品性が何より肝要であるが、其れ以外の人と雖も人間としての眞價は人格品性を無視して他にある筈がない。

智識や才能を悪用する者の末路は此真理を證明してゐる。

富以上の物は何か

戦時財界好況時代には人心皆富の方面に集注されたかと思ふ程、富に對する憧憬が熾烈であつた。甚だしきは富以上に大切なものあるを忘れたかの如く感ぜしめた。其弊害が今日に及んで暴露し來つたのであるが、此點になるとリンカーンの母が愛子に向つて垂れた教訓を思ひ出さずには居られない。彼の母は幼少なるリンカーンに告げて曰く「人の價値と云ふものは心にあるものだ。幾ら金持にならうが如何に出世をしようが、心が正しくなくては人間として何の價値もない。心さへ正しく持つて日々の仕事に勵めば、屹度立派な人間になれる。どんな苦しいことがあつても、不正な事をしてはならぬ。私はお前が千町歩の地面を持つたよりも、一つの立派な精神を持つて貰ふ方が嬉しい」と。嗚呼何たる名言ぞや、一つの立派な精神、是れ則ち品性である。千町歩の土地よりも立派な品性を持つて欲しいと望んだリンカーンの母は、品性は富以上であることを信じたのである。其母の感化は儘にリンカーンをして世界に於ける品性の第一人者たらしめ、而して其高潔なる品性が既往現在將來とも幾

多の人を感動せしむるのである。

品性の立派な人に逢つて居る程心持ちの好いとはない。春風に吹かれて美しき花を眺めて居るが如き愉快を感じるものである。蓋し麗しき品性の中に包蔵されたる無限の力が自然に其接する人を動かすのであらう。富豪が饗應する山海の珍味よりも、品性高潔な人の心の奥底よりの温かき感情の發露に接すること遙に快感と深き印象とを覺ゆるものである。而して品性に富める者が、貨財に富める者を壓倒する力は思想の外である。怪しい手段を以て巨富を得た所謂成金は、囊中無一物にして而も偉大な品性を所有する人の前に出でては、自ら慙伏せしめらるゝものである。高潔なる品性の感化力は高大無邊であつて、到底富の力の及ぶ所ではない。

近代生活の一缺點

近代生活の一缺點は、人間が餘りに強く物質から束縛され、物質に使役され、殆ど物質の奴隸となつて、眞自我たる精神の存在を無視して居ることだと評されてゐる。是が爲め文藝上には自然主義となつて現はれ、思想上には個人主義、功利主義、社會主義となつて生れて來た。併し斯くの如くして永

く物質の桎梏中に呻吟するところが、人間として堪へ得べきとであらうかと一部の學者は歎息して居る。予も亦大體に於て此説と同感である。徒に外面的生活に追はれて、大切な内面的生活上の考察と之が充實を計るの反省と餘地とを缺くのは痛ましい束縛された生活と謂はねばならぬ、今や人格的に解放されて精神的に生くべき時代が來たにも拘らず、尙且物質のみに齷齪たるは甚だ遺憾である。文化主義が高唱され、各人に文化生活を勸奨するの時に當つて、清新な娛樂、高尚な趣味、快潤なる感情、思想の自由、人生の意義等を味ふことの出来る人が少いのは一種の悲愴である。蓋し人間は生活の味ふべきものであつて、只だ生きんが爲めの生活ではない。然るを單に生活の贅澤を望んで物慾の満足のみを買はんとするが爲め、貴重なる生活の意味を没却してしまふのである。生活の趣味は分量でなくして寧ろ品質である。形式でなくして精神である。如何に外觀善美を盡しても精神を含まざるものは無意義である。人生を味ひ生活を趣味化して、量よりも質に重きを置くこそ、現代生活の缺點を矯正する所以であらう。

眞人間の眞骨頂

人間は他の生物と異つて人間としての幾多の特色を有するが、其中にも人道を以て其行動を律するものが大特色である。人道とは人類一般の行ふべき道であつて、自己以外に他人あることを自覺して他人に危害を加へざるは勿論、人類全體の幸福をも眼中に置き、誠を以て進むのである。故に此人道を踏むものでなければ眞の人間とは云へぬ。それには大に修養して其慾望を正しく満たさねばならぬ。而して其修養する所に人間の人間たる所以、萬物の靈たる所以がある。

元來個人のみ利益使利快樂を追求することは、人間として恥づべきことである。故に自尊心の強き人であるならば、職業選擇の場合にも、利益は少くとも、より以上人間の役に立つ貴き仕事を選むべきである。この點より論ずる時は教育家の如きは最も貴き仕事の一つである。何となれば人をして役に立たしむべく教育するのであるから、教育家の仕事は最も高尚にして且價値あるものと言はれる。併し教育家は單に教へるのみでは其職責を盡した者でない。又單に役に立つ實用的の人間を造るのみでも職責を全うした者ではない。人間らしい人間を造つて始めて教育家の任務を盡したのである。人間らしい人間とは單に責任を知るだけのことではない。凡て人道的でなければならぬ。則ち眞人間の眞骨頂を體得した者を造ることが肝要である。換言すればリンカーンの母の言つた如く立派な精神を

持つた人間を造ることを主眼とせねばならぬ。

智力と良心の争闘

現代が智力の進んだことは何人も認むるが、良心の發達は之と併進せしや否や、是れ疑問である。物質的文明や諸種の技術は進歩したが、肝腎な人間としての價値が何れ程進んだかと問はる、と、之が答辯に躊躇せざるを得ぬ。元來智力は良心に支配さるべき善のものであるのに良心の力弱い爲めか智力に抑へらる、様である。茲に於てか智力と良心の争闘が始つて居る。此争闘にして良心が勝てば人生は淨化されるが、若し智力が勝つて良心癱痺する時は、不正不義横行して世は墮落するのである。現代は良心が敗北した爲に醜怪不祥續出するのではあるまいか。勿論社會の全部とは言はぬが多くの方面に不正事件の多いのは、慥に人間の價値の根本を誤つた爲めである。故に今日は良心の力を大に發揮せしむることが何より大切である。

良心は至誠から出發するものである。誠を離れて良心は活動出来ぬ。バトリック・ヘンリーは米國獨立の爲に絶叫した世界有数の雄辯家であるが、彼は學問に於て、何等深遠の蘊蓄があつた譯ではな

く、寧ろ思想上に於ては淺薄であつたと言はれてゐるが、而も一度彼が演壇に立てば滿場の聴衆をして襟を正さしめたのは、其辯に雄なるにも因るが主として彼が愛國愛民の至誠があつた爲だと謂ふ。智力から出た政略的能辯は人を動かす力が乏しい。ピーコンスフィールド卿は、誠實に優れる智慧はないと言つたが、現代に於ては特に此意味を各人の頭腦に徹底せしめたい。

政治家立脚の根本義

政治家は最も公共心に富み、國民の利害、國家の隆替を念としなければならぬから、或強固なる信念が無くてはならぬ。其信念が處世の標準となり、立脚の根本義となるのである。然らば如何なる信念が必要であるかと云ふに、正義的信念である。此信念さへ強固であれば政界の腐敗は矯正され、現今の如き墮落を見なかつたであらう。グラットストーンが自由黨の首領として下院に蟠踞し、時の首相ビーコンスフィールド卿に肉迫した時には其黨員極めて少かつたが、千八百八十九年の總選舉に理想選舉運動なるものを起した時には、彼の勵聲叱咤は英國全土を震撼させるほどであつた。それは彼が徹頭徹尾正義を高唱して譲らなかつたからである。彼は當時エヂンバラに於て、「大國も小國も共

に同じ正義と、同じ尊敬とを以てこれを遇すべきである』と叫んで聴衆の血を沸し、又グラスゴーに於ては「思へ、アフガニスタンの僻邑に在る村民の生命の尊嚴は、萬能の神の眼からは諸君の生命と同様に神聖なものである」と論じた。斯くの如く彼は正義を説き人道を唱へ、以て政府に對して他國民の權利を尊重せよと勸告した。此正義の高唱が輿論の熱狂的歡迎を受けて選舉に勝利を博した。英國民は正義に與する國民である。賄賂に依ては動かない。我國の選舉も實に斯くありたいものである。而してグ氏は間もなく英國首相の榮位に昇つた。氏は常に正義と思考する信念の前には萬事を犠牲にして顧みなかつた。我國の政治家は須らくグラツトストーンを模範とすべきである。

偉人傑士の眞價

デモクラシーの思想發達と共に、英雄崇拜の念が薄らいだと言く人もあるが、予は必ずしも此觀察が當れりとは思はぬ。人間は如何なる時代でも英雄崇拜の精神を持つて居るものである。自國の歴史を誇る時に、其處に必ず英雄偉人が伏在してゐる。何となれば偉人傑士は歴史の大部分を占めて居るからである。又眞個の偉大なる人物に逢へば嫉妬競争の念は雲散霧消して、其人に敬服するものである。

是れ人心の奥に潜める正直な心である。土佐の志士中岡慎太郎が西郷南洲を指さして、偶ま一言を出せば確然人の腸を貫くと云ひ、豊後の小川一敏は斯かる人の今の世に在るべしとは思はざりきと言つたのは、眞に偽らざる告白である。

ルーズベルトは曰く「凡そ國民の偉大性は其國に出生して偉勳鴻績を樹てた偉人傑士に負ふものである。單に其人の舉げた有形の效果に於てのみならず、其嘉言善行が其國風に及ぼせし無形の感化に負ふ所が極めて大である。我合衆國民全體が不朽の財産としてワシントン及リンカーンの二大偉人から夥しき嘉言善行を享有して居る。米國人にして此二大偉人の事歴を究め、書物に依て苟も其識見と人格とに接せし者は、皆或崇高なる觀念が自ら胸裡に湧出し、而して此崇高なる觀念が決して物質的繁榮から來つたものでないことを感ずるだらう」と。斯かる偉人こそ眞に貴い價值のあるもので、其人格品性は人間の理想として崇拜するに絶好であらう。

人間の價値は人格品性に在ることを忘れて手腕技倆の末に走つたのは現代の錯誤である。而して人格の獨立は物質に驅使されざる所にある。人間としての眞の財産は自身の内部に在る。外部に在るものは左迄貴重でない。富と品性とは正比例すべきものでも無ければ、株と人格とは無論關係がない。

人間價値の最も貴い所は正義の人格化せる點にある。而して其價値は絶對的價値である。品性人格の高潔なる人は、他人の見て居ない所でも獨を慎んで自己人格の尊嚴を保つ者である。

精神生活の價値

貧富を超越する精神生活

凡そ人は好んで貧に居るべきものでなく、大に働いて富を得べきは當然である。各人富めば一家繁榮し、各家の富が集つて一國の富をなす。従て各人皆大に働いて大に富むことの個人的にも國家的にも必要なるは云ふまでもないが、併し近時社會の風潮を察するに、動もすれば贅澤濫費を行はんがために富を得んと欲する傾向が著しく増加した様である。この事既に喜ばしからぬ現象である。然るにその甚だしきに至つては自己の立場を忘れて徒に富を得るに汲々として、之を得る爲には手段の如何を問はず、賄賂沙汰の失態を演じ、有爲の身を以て半生を社會の日蔭者とする者あるは余の遺憾に

堪へぬ所である。而して此等の不正手段に訴へてまでも富を得んとする人々の多くは物慾のみ強く、物質的生活を華麗にして物質的快樂のみを貪らんとする者である。

人生の慾望は無限である。一を得れば二を得んとして底止する所がない。従て物質のみに依てその満足を得んと欲せば窮極する所を知らぬのである。而して物質的満足のみを追求するものは、その品性自ら下劣となり、此處に墮落の危険が伏在する。且つ物質的快樂は常に必ずしも精神的快樂を伴ふものでなく、物質的に足る所あるも精神的に不足を來すものである。蓋し人生には物質生活以上に貴いものがある。それは精神生活である。精神生活は心の満足、精神の快樂を感じるが故に、不義の富を得んとするが如きさもしい根性を出さない。従て正義人道を辿つて進み行くことが出来る、即ち精神生活は貧富を超越してゐる所に偉大の價値がある。

精神生活には脱俗を要せぬ

英國の思想家ハマートン氏は「偉大なる脱俗主義」を論じてゐる中に、「偉大なる脱俗者は物質的華美を以て自己の精神的自由と交換せざる人である」と云ひ、更に又「自己の精神生活を毀損せざらんが

爲に物質的生活條件の最低標準に於て自ら満足する人である』と言つてゐるが、成程精神生活の趣味を解し之を樂む者は、物質的生活條件に於て最低度であつても自ら満足することが出来るであらう。而してかく物質に超越する所が即ち脱俗であらう。併し余は必ずしも、俗を脱しなくとも、又富豪であつても精神生活が出来ると思ふ。精神生活は豪奢と反對で、常に質素簡單が伴ふけれども、必ずしも貧困であり仙骨を帯ぶるを必要としない。

福澤諭吉翁は萬事に實際を尊び金錢の必要、物質の勢力を鼓吹した人であるが、尙且つ物質以上の高尚深遠な理想を必要とすることを説いてゐる。翁曰く「人の心を高尚に進めて兎に角肉體以上の點にあらしむるは文明社會の爲に至極大切なことなり。子弟の教育も其目的は此邊にあることにして學校には其れなく教育法を設けて教師の職掌ありと雖も、學校を離れて廣く天下の男女を導き、之を文明の門に案内して氣品を高くせしめんとするには單に教場の法のみ依るべからず。近く日常身邊の物に就て人の間かんと欲する所を諄々懇に語り其疑ふ所を説き、邇きより遠きに及び、淺きより深きに入る時は匹夫匹婦をして自然に高尚の志想を懐かしむるの機會あるべし。眼前に在る一木一石一紙一毫の微も之を其原理原則に照らして其性質效用を説き、次第に其理を推究して玄妙に入り、玄

の又玄なるものに達すれば、人間の方寸に宇宙を包羅して日月も小なり芥子も大なりとの思想を生ずるに至るべし」と。蓋し玄の玄なるものに達すれば人間の方寸に宇宙を包羅し日月も小なりと云ふに至つては、眞に脱俗して精神生活の妙域に入れるものである。流石は識見卓絶した福澤翁だけありて、一面に學校教育を説くと共に一面には社會教育をも獎勵して、而も精神生活の眞理を喝破されたのは敬服すべきである。

精神生活に適當な立場の人

學問知識の低級なる者に向つて物慾を抑へて精神生活を樂めと勸告するも、之が實行は或は至難であるかも知れぬ。併し多少教育知識ある人士ならば本人の覺悟次第によりて或程度までは出來得ることであると思ふ。殊に學者、教育家、官吏、軍人、美術家等は精神生活に適當なる立場にあり、又之を樂まなければならぬ位地にあるものだと思ふ。宗教家は精神生活の指導者となるべきものであるから、自己が精神生活を守るの必要あるは云ふまでもない。

此等の人々は率先して精神生活の模範を示し、國民をして最も健全に進ましむべき責任ある者であ

る。然るに彼等すらも此貴重にして且つ高尚なる精神生活を忘れて徒に物質的生活の華美にのみ傾かんとするは、自己の立場を忘れて、社會に惡風潮を流すものである。余は其人の爲に將た國家社會の爲に痛歎すべきことだと思ふ。

永遠の人生を支配する作品

十九世紀の歐洲は科學の進歩が著しく、之に連れて物質的風潮が一代を壓倒した時代である。此時この風潮に對して一種の反抗を試みた者が少くなかつた。英國の文豪カーライルの如きは確にその一人であつた。彼は大體に於て精神生活論者で、又その實行家であつた。彼は黄金や名譽にかけては極めて恬淡な人であつた。彼は黄金や名譽以上のものに愉快を感じることに出来る精神にして始めて永遠の人生を支配する作品を生み出すことが出来るかと考へてゐた。ヴィクトリア女王が貴族の榮位を授け給はんとした時、之を固辭した程である。此精神を持つてゐたればこそ不朽の名著が成つたのである。古來藝術家の傑作は斯がる種類の大家から造られてゐる。

近世教育界の鼻祖と云はれてゐるベスタロッツチは八十年の長き生涯を通じて、殆ど貧窮と困苦との

經歷を嘗めて來た人であつて、他人から見れば轉軛不遇の人であつたが、彼は物質的生活を超越して教育の爲に全力を傾注するを樂としてゐた。故に物質的には貧窮な生活であつたが、精神的には安住を得て怡然として其生を樂み、其職を樂んだのである。彼の死後名聲大に揚り、近世教育界の明星と仰がれてゐる。蓋し教育は一種の精神的事業であるから之に従事する者は精神界に生活する觀念が必要である。學者、教育家が貧乏で我慢せよと云ふ理窟はないが、併し物質生活に超越して氣品高き所に其眞價があり從て人に尊敬せらるゝのである。ソクラテス、シエークスピア、ミルトン等は皆精神生活を樂み、哲學や文藝に無限の權威を後世に遺してゐるのである。我國でも荻生徂徠、中江藤樹、伊藤仁齋、新井白石、山崎闇齋、貝原益軒、賴山陽、或は近松門左衛門、瀧澤馬琴等何れも精神生活者の好適例である。

精神生活を樂んだ軍人政治家

政治家としては英國のウキリアム・ピットやグラッドストーンや、米國のワシントン、リンカーン、伊太利のガルバリヂーやカヴール等は誠心誠意を以て國務に當り、身は萬人崇敬の中心となつたが、

其人や物慾を離れ精神生活を樂んだ人である。軍人としては英國のゴルドン將軍、我國の乃木大將の如きその最も著しきものであらう。彼等は其地位身分に相當する物質的生活を營むに餘あつたであらう。併し物慾を満すを望まないで精神生活に安住したのである。而して此處に彼等の偉大がある。昔から文臣錢を愛し、武臣命を惜むに至つては國危しと云はれてゐるが、これ蓋し物質生活を戒めて精神生活を高唱したものである。政治家や軍人が、錢を愛し命を惜み、徒に物慾に耽らんか、忽にして正道を脱線し不正の權道に陥るであらう。官吏の腐敗とか官紀の紊亂とかは一に此に由來するのである。例を遠に求むるまでもなく、八幡製鐵所、阿片不正拂下、横濱稅關官吏收賄其他幾多の疑獄事件は明かに之を示してゐる。國民の儀表たらねばならぬ身を以て囹圄に呻吟するは、物慾を恣にするに急にして、精神生活を樂むことが出來なかつたからである。

實業家も精神生活を營むを得

世の中には、富を欲し金儲けしたいならば、實業界に入れば宜しいではないかと言ふ人がある。成程實業界は營利を主とするが、他面には國運の發展に貢獻するのである。而して其營利を目的とする

實業家ですらも、決して物質的にのみ流れ精神界のことは打忘れ、從て精神生活の眞味を解しなくとも好いと云ふことはない。英國のサー・ジョン・ラボツクは身を實業家に起し、晩年に貴族に列せられ、エヴェリー卿と稱せられ、數年前に歿した人である。彼は銀行家で、算盤球を弾く職務にありながら、此算盤球にのみ精神の全部を拘束されるほど凡庸な實業家ではなかつた。而して俗務にのみ執掌することが、如何にも人生の空疎と無意味とを感ぜざるを得なかつたので、經濟財政の外に、政治思想を養ひ、更に文學や科學を研究し、更に動植物其他一般の天然生活に接觸して精神上の平和と幸福とを發見するに勉めた。此等の研究の結果として成れる著書頗る多く、何れも自ら實行せる精神生活の一端を披瀝したもので、廣く愛讀せられてゐる。殊に人生の妙味、平和と幸福、自然美論等の著は廣く社會に歡迎せられてゐる。

精神生活の妙味を解した實業家

米國の實業家カーネギーも亦ラボツクに近い精神生活した富豪である。彼が公共の事業の爲に數億の金を寄附したことは何人も知る所であるが、其著「實業の帝國」及び「富の福音」等に於て明かに彼の

精神生活を裏書してゐる。其他氏には世界漫遊記、英國巡遊記などの著書もある。コリス・ハンチントンには米國の鐵道事業で百難を排して終に成功した人であるが、舞踏會や園遊會を嫌ひ、酒も煙草も飲まない。小間使や給仕は煩しと云つて置かない。曾て紐育に百萬圓の資金を投じて別莊を建てんとしたが、中途でその馬鹿氣たことなるに氣つき、竣工前に他に賣渡した。彼の生活は極めて恬淡であつた。而して彼は日常の劇務の餘暇を割いて英國詩人ジョージ・クラップの詩集を耽讀し、友人にもその詩集を頒けて清楚な快樂を共にした。

又米國の鐵道王と云はれたジェームス・ヒルは讀書の趣味深く、旅行などには必ず書を手から離したことがなかつた。美術にも趣味深く、佛國の名畫を大分買ひ込んださうであるが、比較的に精神生活を營んだ實業家である。十九世紀の米國富豪ビーボデーは讀書に興味を有し宗教的信仰に富み、慈善の爲に私財を投じ、英米人より聖人の如く尊敬された人である。彼も亦精神生活を最も樂んだ人である。米國石油王ロックフェラーは事業經營上に於てはかれこれ非難されたこともあつたが、後に至り大に悟る所あり、曰く「精神的愉快は肉體的愉快の如く弊害を醸さぬ、これを繰返すに従て益々趣味深きを加へ、又回顧するに至りて愈々その價値を發揮するものである。されば人たる者は卑しき肉體

上の快樂に憧れずして、高尚なる精神上の快樂を求め、之に興味を懷くやうにせねばならぬ」と。彼は精神生活の快味を覺えたものである。ロックフェラーの如き大富豪であり、又多少非難ある者にして尙且つ精神生活の趣味を懷くの必要を大悟せるを想へば、何人も大に反省すべきである。

精神生活か富の自慢か

米國人は黄金崇拜だとか物質的に流れ過るとか批評する人もあるが、何ぞ知らん米國には富豪にして精神生活を營むもの少からず、而もその財産を公共慈善の事業の爲に寄附するものが最も多いのである。我國の實業家中にも無論公共事業の爲に多額の金を寄附するものがないのではない。殊に最近に至り其數も増加したけれども、其數、金額の割合は遙に米國に及ばぬのである。又我實業家中にも美術を愛好する者が多い。これは趣味の向上として好ましいものではあるが、一時財界好況時代に於ける書畫骨董の價格の暴騰は、必ずしもかくの如き趣味の向上にのみよるのでない。眞に美術の眞價を認め之を愛好するの極、價の高下を問ふの邊なく買入れると云ふのならば格別であるが、成金連のは之に反して俄に富を得、只だ價の高いものを手に入れたと云ふとを自慢するため、突飛な相場をつけ

るのである。これは美術品の眞價を愛好するのではなく、富を誇るの手段に供するに過ぎない。兩國の美術俱樂部で盛に書畫骨董の入札會を開いた際、その價格の急激的大暴騰は驚くの外なかつた。これが爲に、美術品は眞に之を愛好する人の手に入らなくなつた傾がある。これでは精神生活を營むらしき外觀あるも、其實は精神生活と全く没交渉であり、却て卑俗たるを免れない。

物質的快樂と精神的安樂

精神生活の趣味を解せぬ人は人生が總て物質によつて支配せられ、物質以外に尊重すべきものあるを知らない。故に徒に外觀を飾らんとして、爲に知らず識らずの間に虛榮に陥り、却て煩悶の種子を蒔くものである。又徒に物質のみを追うて名利に癡痺した生活は、虚飾多くして味ふべきものなく眞に憫むべきものである。印度の詩聖タゴールが我國に來て、日本が徒に歐米の物質的文明の外皮に憧憬して、日本傳來の貴重なる精神的財産を破壊するとあらば、これ一大事であると絶叫し、若し斯くの如くんば恰も頭よりも帽子を大切にすする愚人と擇ぶ所がないと極論して、暗に傳統的精神生活を高く標榜せよといふ意味を警告した。これは慥に一面の眞理を含んでゐる。凡そ人は物質的快樂に

耽溺すべきか、或は又精神的安樂に歸趣を求むべきかと云ふに、前者は卑俗にして動もすれば健康を害し、風教を傷ぐることがある。之に反し後者は高尚にして心身共に有益である。兩者の眞價の存する所、以て見るべきである。

精神生活の滋養物

精神生活の趣味を涵養する滋養物は健全なる讀書である。讀書は人生に新しき觀察を與へ、如何に世に處し如何に生活すべきかを教へ、又悲める者を慰藉し、過てるものを戒め、怠れる者を勵まし、賢をして益々賢ならしむる。若し社會に讀書の趣味衰へ、或はそれが下劣なものに移る時は、社會の風紀萎靡して俗惡混濁の世となるであらう。但し其書籍の選擇は無論大切で卑猥なるものを避くべきことは言ふまでもない。

精神文明への反省

各方面に流れつゝある欲求の潮流

近來の思想問題の根柢には一の潮流が流れてゐる。その潮流は種々に形を變へてはゐるが、滔々として社會のあらゆる方面に現はれつゝある。所謂潮流とは何であるかと云ふに欲求と云ふのである。權利の欲求もあれば、地位待遇の欲求もあり、分配の要求もあるが、其最も大部分を占めてゐるものは物質的の要求であらう。これはデモクラシーの思想と共に生活向上を痛切に感ずるに至つたからである。この物質的の要求は生活の改善上、當然必要と認むべき者が多いであらう。従て之を認めると同時に、社會は此等の要求者に對してその能率の増進を要求しつゝある。物質的欲求獨り望まれて能率の増進を伴はざれば、徒に生産費の増加となり益々物價を騰貴せしむるに至るからである。各人の要求の根本が物質的文明に立脚してゐることの多きは争はれない様である。物質的文明の進

歩と共に生活が一般に向上し、進んでは奢侈贅澤に流るゝは免れざる状態である。この物質的文明の弊に對抗して之が弊害を矯正するものは精神的文明である。この兩者が相併進して始めて眞の文明が建設せらるゝのである。然るに近代は動もすれば精神的文明が閑却されて物質的文明が謳歌さるゝ傾向が多い。深く注意警戒すべきである。

我國に輸入された二派の西洋文明

曾て西洋から日本へ輸入された文明は大體二派の思想から成立つてゐた。一は佛國派の學說で概して權利思想から來たもので、ルソー氏の民約論の如きはその有力なる根柢をなしてゐた。即ち民約論の思想により個人の自覺を促し、殊に政治上の權利を欲求する思想が俄然として勃興した。第二は英國派の學說でミルやベンサムの功利的思想である。而して物質萬能、科學萬能が唱へられた。蓋し十九世紀に於ける文明の進歩は科學の進歩と機械の發明發見とによりたるが爲に、當時に於て科學萬能の如く思はれたのも決して無理ではない。殊に十九世紀の後半に及んで獨逸が科學の應用によりて勃興し、一躍歐洲の中原に覇を稱したるにより、一層科學萬能の勢を加ふるに傾いた様であつた。

併し世界は單に科學や物質のみで眞の文明は期せられぬのである。

物質的に強盛なる國家の危險

歐洲の大戦は何が眞の根本原因であつたかと云へば、予は物質的文明の弊が最大原因を爲してゐたと信ずる。權力の争と云ひ利害の衝突と云ひ將た又獨逸が歐洲を席捲せんと欲した野心と云ひ、形は異なるが如きも其根本は皆物質的文明の弊に胚胎してゐたのである。由來古今東西の戦争は表面幾多の理由ありと雖も、其根本は皆物質的慾望の衝突から起つたものであつて、國家が物質的強盛に達すれば遂には他に對して戰端を開くに至り易いものである。獨逸は本來宗教、學問、藝術の如き精神的文化を中心として之に政治法律軍事實業等の物質的文明を結合し、一個の文化國を樹立せんと企て盛に獨逸の文化を唱導したのであるが、何時の間にか物質的文明が精神的文明を支配するに至り、軍國主義が跋扈し、遂に侵略主義と化して正義人道を蹂躪するに至つたのである。換言すれば獨逸が物質的強盛に達したる結果、遂に歐洲大戦を惹起して而して爲に自國を破滅の運命に導いたのである。獨逸が近代科學の發展に貢獻し人類の幸福を増進したことは多とすべきものもあるも、其精神的方面に

於て世界を野蠻時代に逆行せしめんとした罪惡は到底償ふことは出来ぬ。

刺戟を求め感激性を失ふ傾向

國家が物質慾に陥るの危險なるが如く、個人も亦徒に物質慾のみに傾けば史に危險である。單純なる野蠻時代と異り複雑なる物質的文明社會の生活は、自然に物質慾を強大ならしむるが故に、之を融和し矯正する爲には大に精神的文明を涵養し發達せしめねばならぬ。道德及び宗教は勿論、各人の精神修養の大に必要なる所以實に茲に存するのである。物質的文明のみの爲であるか否かは判然せずるも、近來の人々は刺戟を求め心が強くなつて來た様である。従て文學、繪畫、美術、音樂等が何れも深刻になり濃厚になり、人心を刺戟することが如何にも強烈になつて來た。その結果氣品の高いと云ふよりも俗惡になつた傾向が多い。之が爲には感激性は少しく癡痺して來た様である。善事を聞いて感激するは人類の美點であるが、近頃の人は善い事を聞いても感心するものが少くなつたと云ふ。由來感激は吾人の心に道德的感懐又は宗教的感懐あるが爲に起るもので、勇壯の談を耳にすれば何となく爽快となり、悲惨な話を聞けば氣の毒に感じ、義侠の話を聞けば之に同情するは、人間として最

も貴く美はしいことである。人の價値の分る、は道德的のことに就いて感激すると否とに依て定まるのである。若し道德的感情に觸れて、感激すべき時に感激しなければ、彼は道德的生活より墮落して了つたものである。動物と相距ること甚だ遠くない。

動物は唯だ其本能慾(貪慾と性慾)を満たさんと欲する以外に、何等の希望も目的もない。併し人間には飲食及び性慾を離れて別に希望する所の目的がある。その目的が人をして價値あらしむるものである。即ち國家社會に貢獻せんとか、名譽を博せんとか、理想を實現せんとか、有用の人材として天下に歡迎せられんとか、子孫を立派な人間にしたいとか、その人々によりて大小高低の差こそあれ、兎も角一定の目的を有してゐる。人間にして感激性を缺き、又はこの目的なきものは到底二十世紀の文明人士と云ふことは出来ぬのである。

物質文明の弊の生める罪惡

物質文明より生ずる弊害は社會の各方面に現はれて罪惡の原因となるものが少くない。詐偽、偽造、横領等の如き財産に關する犯罪は著しく増加して來た。殊に實業社會にありては營利に汲々たるの

餘り窃に不道德又は法律違反の行爲を爲すものあるは慨嘆すべきである。社長若くは専務取締役にして會社の資金を私利の爲に融通する者があると云ふ。即ち自己が他の會社の株式を買収する爲に會社の資金を利用し、或は土地を買収して他に高價に賣飛ばさんが爲に一時會社の金を利用し、若くは會社の資金を以て他會社の拂込に充て而して其會社の重役たるが如き、或は自己名義の株式は約束手形を以て拂込み、表面は拂込済の如く見ゆるも其實空虚にして運用すること能はず、而も其配當は恬然自己の懐中に收むるが如き、紳士として到底爲し能はざることを平氣で行つてゐる實業家もあると云ふ。或は又二三若くは四五の會社の社長を兼任し、甲會社の資金を自己の金儲に流用し、愈々融通の苦しくなれる時、乙會社の資金を甲會社に廻して補充し、或は又丙會社の一部資金を以て、乙會社へ更に廻すなど、巧に資金を回轉して一時を糊塗し、以て決算の場合に監査役の眼を暗ます者もあると云ふ。然るに日本の監査役は形式一遍の監査を行ふに止まり、銀行の通帳まで熟覽して詳細に調査する者が少いから、不正行爲も發見せられずして済むとが多いと聞いてゐる。故に苟も職に監査役にある者は、社長や専務の提出する諸帳簿の外に銀行の預金帳其他を検閲して會社の在金と金錢の出入を調べることが最も肝要である。而して斯かる私利を營める實業家に限り表面は立派に見え又其口に

する事は潔白で、且つ御馳走攻略なども巧みであるから、他の重役も信用して怪まず、爲に一層危険を大ならしむるのである。斯かる實業家は概して物質文明の弊に陥れるもので、精神文明を味はしむるにあらざれば、獨りその身を過つのみならず、其社會に及ぼす弊害は多大である。

實業社會は如何に營利を主とするにせよ、道徳を無視することは出来ぬ。道徳は宗教と異り誰でも守らねばならぬものである。道徳を失へば人は人たることが出来ぬ。道徳は人類共通のもので、何人も一日も之を離れてはならぬものである。「人として道義の心なきは人に非ず」とは、東西を通じて千古の格言である。會社の資金を私消して自己の利益を計るが如きは、道義心なき實業家であるから矯正しなくてはならぬ。株主も社會も注意して監視することが必要である。

精神的改造が時弊に適中

ラスキンは十九世紀の英國文豪であつて、藝術家から遂には社會改良家となつた有名の人物である。彼は最初藝術家として立つたけれども、時恰も十九世紀の科學的物質文明が總ての藝術的及び精神的建設を破壊して行くのを見て慨嘆し、今や世界を精神的に改造せねばならぬと云ふことを痛切に感じて

茲に自ら宗教及び道徳を説くに至つたのである。このラスキンの痛感したことは現在の世界就中我國に最も適中してゐると思ふ。即ち今の我國は精神的改造が何よりの急務である。形式的改造だけでは眞の意義を爲さない。ニユートンは物質的學問の研究に一生を捧げた人であるが、晩年には大に精神的生活を讚美して、「百年研究して得た一大真理も遂に一夕の祈禱のもたらす平和と歡喜とは及ばない」と言つたが、精神界を離れては總て無味なものである。

精神の改善進歩は文明の健全なる進歩である。現代佛國の大哲學者ジャン・フィノー氏は「人類は物質的福利に向つて熱狂する時、其物質的進歩は毫も精神上の進歩の代用とはならぬ。我々は心の改善進歩を計らねばならぬ。この改善進歩のみが道徳性に深刻にして且つ永續的な土臺を與へるものである」と言つてゐるが、現代の時弊に適中した名言である。

元來精神は物質より偉大なものである。十九世紀は科學萬能で驚くべき物質的進歩をなし、人間に多大の便宜を與へたけれども、而も人間の心を支配する力を持たなかつた。之に反し精神文明に就て見る時は、釋尊は佛敎を以て世界の一半を支配し、基督は基督敎を以て世界の他の一半を支配してゐる。人間は物質を使役すれども宗教には隸屬して使はるゝものである。考へて見れば人間とは精神が

肉體の間に宿れる間のことで、云は、肉は形骸で精神は主人公である。故に肉や物質は精神に隷屬するもので精神力の偉大なることはそれ以上に超越してゐる。

精神的指導者は償金國土よりも大切

昔印度が甲乙二國に分れて内亂を起したことがある。戦争の結果、甲國が勝利を得て戦敗の乙國から二億圓の償金を取ることになつた。然るに甲國內に反對論者が現はれた。その説によれば二億の償金を取るに喜ばしい様であるが、熱慮すると、金を取れば人民が貧乏になるばかりで別に善い事でない。聞けば敵國には馬鳴と云ふ大人物があるさうである。彼は其思想に於ても其人格に於ても全く一世の師表たる人物であつて、國民の指導者として彼に及ぶものはない。宜しく二億圓の代りに馬鳴を受取り、彼をして國民の思想を健全に教養せしめ、精神修養の先達とならしめるが宜いと云ふのであつた。この要求を提出したるに敵は忽ち之に應じ、償金二億圓の代りに馬鳴と云ふ大人物が甲國に入來したと云ふ。この話は現代の我國に對しても何等かの諷刺を與へてゐるかの様な感がある。一にも金、二にも命と云ふ連中には適藥であると共に、偉人出でよと叫んでゐる一部に對しても一種の暗示

である。精神界を指導する大人物の出でんこと、予も衷心より熱望してゐるのである。

ソクラテスは精神的指導家として實に大人物であつた。米國の名士セオドル・パークーは、ソクラテスを評して曰く「ソクラテスは此カロリナ州よりも貴い、今日假りにカロリナ州が地球の表面から消滅したとしても、世界は爲に何等の影響をも蒙らない。而もソクラテスに於てはさうでない」と。蓋しソクラテスの如き精神的指導者は國土よりも貴いと云つたのであらう。極端ではあるが併し物質よりも精神に重きを置く所に眞理がある。恰もカーライルが英國は印度を棄つるともセークスピヤを棄つべからずと言つたのと好一對である。又以て精神的文明の貴重なる一端を窺ふべきである。

精神的文化革新を高調の秋

歐洲大戰は物質的文明の弊が生んだ悲哀な産物であるが、その結果として精神界に及ぼす影響は大である。以前英國の大法官であつたハルデン曰く「此戦争の結果としても民主的な道徳的な大進歩來らん」と。又英國ローズベリー卿は曰く「舊歐羅巴は將に消滅せんとしつゝ、ある。而して現在の姿を以て再び現はるゝが如きことはなからう」と。戦後の國家社會主義の著者トマス・ヒューズ

氏(英人)は曰く「戦後に於て大なる精神的乃至道德的變化が起りかけてゐるといふことは、あらゆる周到なる觀察家の皆一致して認めてゐる所である。酒料飲料の使用に關して各國政府が採つた進歩した措置、又は戦時中各國民の頭上に澎湃してゐた深刻な宗教心の波濤の如き、何れも皆一等精神的變化の證據である」と。戦後歐洲の人心未だ安定せぬが、將來は必ず精神界の文明革新が高調さるゝのであらう。

我日本は西洋に對して物質的文明の債務者であるが、今後の精神的文明に於ては債權者の地位に立ちたいものである。印度の詩聖タゴール氏來朝した時に、貴ぶべきは物質の多産にあらずして精神の完成であると叫び、且つ今や亞細亞は其惰眠より覺醒し徒らに西洋を摸倣するのみに満足せず、牛きた精神的事業を爲して亞細亞の存在を證する時であると叫へたのは、他山の石として我々の深く考ふべきことである。

世を擧げて物質界を謳歌する時は精神文明を鼓吹するの最も必要な時である。これは少くとも極端に物質的に陥らんとするを救ふ所以であつて、又其弊害の防止に與つて力あるものである。而して今や心あるものは精神文明に向つて深く反省すべき秋である。

精神の抵抗力を強くせよ

大事件後に起り易き神経病

米國の或醫師が紐育ヘラルド紙上に於て歴史的大事件のあつた後には歇歇病なる一種の神経病が流行することを説いたが、歐洲大戰に因て此病氣が歐洲に行はれ、就中東地利に多く行はれたと云ふ。この病に冒された者は突然嘔り泣を始め、中には久しい間泣くことあり、或は又睡眠中でも泣く。時には又癲癇的發作の如く突如として夜中に起ることもある。患者は先づ息の窒するを覺え、次に咽が鳴り漸次意識が消滅する。この状態が二十分間乃至三十分間繼續する。翌朝眼が覺めた時には、患者は此等の發作のあつたことを忘れてゐる。此病氣の結果として衰弱した心神は益々衰弱し、反對に焦燥性が増長し、常規を逸すること多く、不道德及び罪惡を犯し易くなると云ふ。この歇歇病はヒステリーの一種で、神経衰弱症であらうが、其根本は精神が薄弱になり抵抗力が失はれたことにある。

精神の抵抗力を強くせよ

精神が確固として健全であれば斯かる疾病に冒されぬのである。

精神の虚弱者は動もすれば心にもない飛んでもない行動を演じ、他人に危害を與へることさへあるから、歐米諸國に於ては此精神虚弱者の爲に教養所を設けてゐる所さへある。米國ペンシルヴァニア州のボークにある州立精神虚弱者教養所の如きは世界第一の大規模なるもので、數千町歩の耕作地を有し、一ケ年の經常費三百萬圓を要すると云ふ。又以て其如何に大規模であり、又彼等が如何に精神虚弱の矯正に重きを置くか分る。思ふに世の中が複雑となるに従ひ精神を使ふこと多く、殊に事件のあつた際には精神過勞の爲に虚弱となり、その子孫が之を遺傳して癲癩白痴や低能兒が増加することがあるから、精神虚弱者は深く注意せねばならぬ。

精神虚弱者は病に罹り易い

米國の醫學者ルーサー・ギューリック氏の説によれば、今日は生活が複雑になつただけ神經質も助長され高尚な仕事をする代りに身體の機關が狂ひ易くなつたと云が、それは實際であるらしい。精神が弱くて病に對する抵抗力が減少する程、其人は病魔に冒され易い。即ち肺病を恐る、人は割合に肺病

に罹り易く、流行病のある時、無暗にそれを恐る、人が流行病に罹り易いと云ふは事實である。この事に就てギューリック醫師は面白い説明をしてゐる。曰く此處に不圖自分の心臟が氣に掛り出した人があるとする。實は心臟が悪いのではなくして、唯喰ひ過ぎか胃中に瓦斯が溜つたかして胸の心地が悪いと云ふだけであるが、自分ではどうも心臟病にかつたらしいと獨り思案の末、何となく胸部に壓迫を覺えて、これは大變だと驚く。すると又呼吸を深くする時に多少の痛を覺え且つ少し激しい勞働の後には心臟の鼓動が強くなると感じて愈々心配し、爲に睡眠にも消化にも影響して身體の營養も不足になつて来る。其結果一の故障は他の故障を誘起し、遂に眞の病となるのである。畢竟自分が最初に一寸其胸の痛に就て臆病になり無益な取越苦勞をしたのが抑もの原因をなすのである。斯かる實例は世間に澤山ある。肝臓が悪いと云つて心配する人は實際肝臓病になり、胃腸が不快なりと云うて心配する人は實際胃腸の病を起す。其他の病も亦同様なりと説いてゐる。これ自ら病を作るものである。僅の事で痛く心配すると云ふのが既に精神の弱い證據である。精神が健全で抵抗力が旺盛であれば輕微の病などは氣を以て驅逐して了ふ。精神作用で健康を保持して居る人は世間に澤山ある。能、彼の人は氣で持つて居ると云ふのは即ちそれである。

精神の抵抗力を強くせよ

三合の病に八石五斗の物思ひ

英國のウエリントン侯は精神力の強かつた人である。病氣に罹つても一向苦悶の状を示さなかつた。肉體上の苦痛に對しては常に精神を以て之に打ち克つてゐたのである。曾てコレラに襲はれた時、身體非常に衰弱し顔色蒼白となり、殆ど瀕死の状態に見えた。併し彼は毫も苦痛を訴へず、只近頃は少し胃腸を害したと言つたばかりである。この凜乎たる威勢には病魔も降参したものと見え、遠からずして全快した。而もそれが六十五歳の時であつた。大隈侯爵の如きも亦病苦に對して決して苦痛を訴へられない。看護婦などは侯爵の我慢強きに感心してゐる。余は嘗て侯爵にこの事を尋ねた時、苦しいと言つたからとて、苦痛の減するものでなく、却て傍の者に氣の毒の感を與へるのみだからと云はれた。偉人は異つたものだと思つたことがある。白隠禪師は「精神内に守らば、病何れより來らん」と言ひ、又神經家を戒めて曰く「世に智慧ある人の病中ほどあさましく物苦しきことはない、三合の病に八石五斗の物思ひあるべし」と、諷し得て妙だと思ふ。精神に抵抗力ある人にして始めて白隠禪師の攻撃を免るゝを得るのである。

精神虚弱者は罪を犯し易い

精神虚弱者は疾病に罹り易いのみか罪惡をも犯し易い。犯罪學者の研究によると犯罪には大凡三の系統があつて、第一は生理的變態から來るもの、第二は遺傳又は病的心理から來るもの、第三は境遇から來るものであると云ふ。米國インディアナ州監獄附屬の精神病研究所の調査に據れば、同獄在監人二千五百人中、大多數は精神虚弱者であると同所のドクトル・パワース氏は言つた。而して此精神虚弱者の多數は飲酒が直接間接の原因をなしてゐると云ふ。精神虚弱者は何れの點より觀るも人生に於て不幸である。今後はこの精神の健康法を講ずることが最も大切な問題となるであらう。

强健なる精神の力

强健なる精神は抵抗力最も旺盛である。大ナポレオンが我を遮るアルプス山あらんやと叫んで容易に彼の峻嶮を越えたるが如きは、心理學者の説によるとナポレオンの心中は敵軍撃破に一向専念であつて、難嶮アルプスの諸峯もこの白熱せる精神を遮るに由なかつたのであると云ふ。羅馬の史家タ

精神の抵抗力を強くせよ

シタスは眞正の勇氣は不幸に抵抗すると云つたが、精神作用ほど偉いものはない。平素温厚な人が一朝事ある時に發揮する勇氣の如きは、其精神の強健を意味するものである。木村重成の如きは儘に其一人である。關ヶ原の役後大阪方なる豊臣の勢威振はず、大阪城の濠を埋めると云ふ條件の下に徳川家康と和を講じた。この講和條約に調印すべく大阪方より家康の陣に派遣されたのが青年武士木村重成であつた。堂々たる講和全權大使であるから豊臣秀頼は重成に緋緘の鎧を賜はつたが、重成は之を辭退し、平和の使節であるからと稱して麻袴で赴いた。彼が徳川の陣所たる茶臼山に到着した時、勇士の面々甲冑嚴しく併列してゐるが、重成は心中武器で勝たず精神で勝たうと決心し、直に家康との直談を要求し、奥に通された。そこには高位高官の人綺羅星の如く竝んでゐるが、重成はそれ等に臆せず、平然として中央に進み、端坐して挨拶した。家康との談判中、家康は老人で血が少いからと云つて血判を避けんとしたが、重成は飽くまで、血判を捺させようとして家康を凝視してゐた。家康も重成に睨まれて遂に血判したさうである。此時に於ける重成の精神力は偉いものであつて、流石の家康も彼の前にありては胡麻化することが出来なかつたと云ふ。この重成の血は流れて我國民の間に存在することを忘れてはならぬ。

物質慾に對する精神の抵抗力

社會の狀態が如何に變化したとは云へ、近時に於けるが如く物質慾の奴隸となつて其身を誤るもの多きとはあるまい。就中官吏の不正收賄事件頗る多いのは實に驚くべきである。官吏となる時誰か賄賂を受くるが如き思慮あらんや。若し斯かる場合に遭遇せば斷然拒絕するの精神で就任するであらう。然るに一旦拒絕した者も二度三度となるに従ひ拒絕する能はず、遂に收賄するに至るのは物質慾に制せらるゝ爲である。而して其原因は精神が薄弱なるに由る。人或は斯くの如きは良心が癱痺して是非善惡の判斷を誤る爲であらうと説くものもあるが、併し收賄する場合に善い事と信じて取るものなかるべく、惡事なりと云ふことは必ず分つてゐるに相違ない。悪いと思ひながら拒絕せずして收賄するは儘に精神が抵抗力を失つてゐるからである。

支那は古來賄賂の盛んに行はるゝ國であるが、而も中には賄賂を拒絕し今日尙其名を傳へらるゝ名士が少くない。後漢の楊震は官吏として最も嚴格に身を持ち、公事の爲に人と面會して私事を圖るが如きとは斷じて爲さなかつた。或夜彼の世話したことのある一官吏が楊震の知遇を得んが爲に彼を訪

精神の抵抗力を強くせよ

ひ、莫大の金を出して誰も見て居ないから此金子を收めて下さいと言つた。其時楊震は「天知る、地知る、我知る、子知る、知る者なしと云はれぬではないか」と言つて拒絶した。斯心あらば收賄事件は起らぬのである。知られぬと思ふのは小人の淺薄なる考である。只楊震の如く精神の健康な人にして始めて請託を斥けることが出来るのである。

體慾に對する抵抗力

體慾とは主として食欲と色慾であるが、健康上道徳上悪いと思ひつゝ、も尙且つ之を抑制することが出来ず、遂にはそれが爲に身を誤り家を滅ぼす者が少くない。然るに之に對する精神の抵抗力が盛んであれば決して身を誤ることはない。幕末の夕士大村益次郎は一時伏見に僑居して青年子弟を教育したことがある。恰も其附近は花柳の巷であつて、日夜絃歌の聲が湧く、血氣の青年中には何時しか人目を忍んで花街に入り込む者もあつたので、大村大に之を憂ひ或夜青年を一堂に集めて談話を催し、種々古今の物語に耽り精神修養法を試みてゐたが、例によりて絃歌の聲が騒しく聞える。大村は不圖思ひついた様に「諸君は彼の聲を何と聽くか」と質問した。一同は「あれは三味線でせう」と。大村は自

分の意思が徹底してゐないのを知ると、「馬鹿を言ふな、あれは實に金の逃げて行く聲なのだ」と。青年も金が逃けると聞いて怖氣がさし、爾來耽溺を打切つたと云ふ。孔子曰く「少時血氣未だ定まらず、之を戒むる色にあり」と。マーシャル曰く「婦人と酒とは苦難の原因である」と。精神確乎として強ければ酒色に對する抵抗力強く、從て又身を誤ることもない。

青年時代には誘惑ほど怖るべきものはない。スマイルスは青年の世路を行くに當りてや誘惑てふもの路を挾んで兩側に立つてゐると言ひ、アルバート・バンクス博士は「青年諸君は諸君の精神を眩惑する悪魔的不法の感化の流れに其身邊を包圍されてゐるのだ。諸君の高潔なる天性を其中心まで焼き盡さうと絶えず威嚇してゐる火の如き色慾の奔流が諸君の人格を包圍してゐる。若しこの火の河に屈服せば諸君は世に生れ来たことを恨む程の悲劇の結果せん」と言つた。此誘惑は單に青年のみでない、年長者にもある。故に之に抵抗して打克つだけの精神力を養はねばならぬ。

思想問題に對する精神の抵抗力

時代の變遷に伴うて種々の思想問題も起るが、國民の精神が虛弱で、思想の根柢が薄弱であれば如

何なる思想にも感染し易いけれども、苟も國民の精神にして健全強固であれば、國家を滅し人民を塗炭の苦に陥る、が如き危険の思想には決して冒されぬ。恰も健康なる身軀は病の微菌も冒し得ぬのと同じである。米國を賞賛する者は曰く米國人は古くから自由民主の思想を注射されてゐるが故に毒素に抵抗する力が頭腦に働いてゐる。從て思想上の免疫性になつてゐる。是れ其過激思想の微菌に冒さるゝ憂がない所以であると。石井菊次郎氏が駐米大使時代に紐育で演説した内に「日本の政府及び國民は過激思想に對して絶對反對なり」と言つた時、聽衆の米國人は急激の如き拍手を浴びせたと云ふ。紐育にて労働組合の集會が開かれた際、過激思想の宣傳者も群衆の中に交つて一言演説した時、労働者の非常なる激昂と反感とを買ひ、辯士は矢庭に演壇から引き摺り下されたと云ふ。此等の事實に徴して見ても、米國労働者は過激なる破壊思想に對して如何に堅實な態度を持してゐるか分る。佛國大革命の時には革命思想が歐洲各國に傳染して各地に小革命を起さしめたが、英國は國民の精神健全にして思想上の抵抗力旺盛なりし爲め、遂に其波動を免れた。畢竟思想の動搖は精神力の薄弱から起ることが多いのである。

精神力の強き人が成功の人

如何に天賦の才能があつても、不正と思つたことを斷乎として排斥するの精神力なければ、大なる發展を望むことは出来ぬ。不正に抵抗する力ある人は生涯身を誤ることはない。古來大事業を成就した人物の共通の特徴を見るに、一旦志を決した以上は如何なる困難障礙に遭遇するも不屈不撓、勇往邁進することである。これ精神の抵抗力強きが爲である。安田善次郎翁は精神の抵抗力の最も強い人であるが、自ら語つて曰く「自分の六十年來の經驗を以てしても確乎不動の決心と、千挫不屈の堅志とを以て事に當る人物の精神ほど確實な信用はない。この人物が一度斷乎たる決心を以て「ハイ宜しい承知した」と云へば、其一言は如何なる證文よりも、如何なる擔保よりも遙に安心で、一諾千金とは此事である」と。精神上の抵抗力を強固にするには自己を信することが大切である。而して自己の言動は常に良心と相談して俯仰天地に恥ぢないと云ふ堅き信念があれば、恐怖、逡巡、躊躇の如き非男子的の心理作用がなくなつて、精神力が自ら強大となるものである。

人生の勝利者たれ

人生の勝利者とは如何なる人か

競争の世の中である以上、何事にも往々にして勝敗の伴ふ場合が少くない。斯かる場合には敗者の地位にあるよりも勝者の地位に立つは無論好いとであるが、殊にこの人生に處して勝利の月桂冠を戴くことは更に必要である。この世に生れ來て人生の勝利者となることを得ば、人は始めて眞に有意義の生活を爲し得たものと思ふ。然らば人生に於ける勝利者とは如何なる種類の人である乎。

人生の勝利者とは社會から感謝される、人である。而して其感謝される、とは、國家社會の爲に公益を與へたか、或は他人の儀表となり模範となつて世道人心を裨益したか、其何れかに屬するものである。故に斯かる人物が増加すれば増加する程、國家社會は向上し發展し進歩し人生は淨化される、のである。之に反し斯かる種類の人物が輩出せず、單に自己の利益に汲々たる者のみとならば、文明は逆轉し人

心は退化し、到る所利を是れ争ふ者のみとなり、人生は慘憺たる修羅の巷の如きものとなるであらう。而して現時の社會風潮は此點に就て深く考慮を要すべきものがあると思ふ。

感謝さるゝ人物

近年我國に於て實業の勃興したるは誠に喜ぶべく慶すべきであるが、同時に此等の實業に従事する人々は單にその精神を利益一天張りに傾注せしめないで、其事業をして國家社會の公益と結び附け、且つ他人の利益をも増進するに貢獻する様努めて貰ひたい。自己の利益さへ好ければ假令それが爲に需要者が塗炭の苦に陥らうが、從業者が困難に陥らうが、構はぬと云ふが如き思想に囚はれては困る。殊に近時一般の思潮が民衆の利益を重んずるに至つたので、此點に就き深く考へねばならぬ。近來動もすれば一部には資本家と労働者と衝突する傾向があるが、若し資本家にして労働者より感謝される、人であるならば、その人は慥に人生の勝利者である。

十九世紀の末、米國實業界に活躍したサミュエル・ジョンズ氏の如きはその一人である。氏は貧兒より身を起し、壯年時代には石油工業上に發明を爲したのが原因となり、遂に石油事業界に覇を唱ふ

るに至つた人である。彼は労働者の生活を向上せしむる爲に非常に苦心慘愴し、爲に労働者よりは慈父の如くに尊仰され、社會一般よりは人格の人として尊敬された。彼は労働問題の左程に不穩でなかつた當時に於て夙に労働者愛護の必要を認め、之が爲に半生の勞を捧げたと云ふ。即ち彼は自ら富豪にして労働問題解決の急先鋒であり、且又市民全體から未曾有の尊敬を受けた資本家であつた。彼が労働者の爲に圖つたことは工場内に労働者の保護及び慰安に關する設備を完成し、且つオハイオ州のトレード市長となるや、總て公益を主眼として市を經營し、以て別個の天地たらしむるに努力した。彼曰く「予は路上襁褓を纏へる一少年を見ても、濫言を以て之を慰めんとする情を禁ずることが出来ぬ」と。この精神が彼をして感謝さる、人物たらしめたのである。

富んで公共に盡す人は勝利者

十九世紀の英國富家タイタス・ソルト氏は織物で成功した人であるが、其人格高潔種々の公共事業に盡瘁した爲に、彼の活動地ブラッドフォード住民より大なる聲望を擔ひ、商業會議所會頭に推され、更に代議士に選ばれ、加ふるに住民は彼の徳を高しとして銅像を建設し、英國政府は其功を賞し

て特に士爵の爵位を授けた。斯かる實業家は實に人生の勝利者と云はねばならぬ。實業界に活動して單に莫大の富を得たのみでは決して人生の勝利者と云ふべきでない。高利貸も富を造ることが出来る、併し何人も彼を人生の勝利者とは思はない。否余の所謂嚴格なる意味に於ける人生の勝利者は斯かる人を包含せぬのである。富を得たる方法は正當であつて而も之を善用して國家社會の公益に投じ、以て社會から感謝さる、底のものでなければ眞の勝利者とは云はれぬのである。

此點に於ては米國の實業家中、其富を教育其他の社會事業に寄附し社會改善の資に供する篤志家が多い。我國には近きその富の一部を公益の爲に投ずる者輩出し、百萬圓以上を國家社會に寄附する人の續々出來たのは喜ばしいことである。併し之を米國に比すれば假令國情の同じからざるものありとは云へ、其割合はまだ遙に少い。富豪の寄附を待つて起るべき事業は多々之あるに拘らず、多數の富豪及び資本家は自己の慾望を満たすにのみ汲々として愛他の精神に缺けるは非現代社會の一大缺陷であると思ふ。社會事業の盛んに起るべき時代に到達して居るにも拘はらず、未だ之が振興を見ざるは甚だ遺憾である。余は我國に於てもソルトの如く其土地の住民から感謝の銅像を建てらる、が如き實業家の輩出せんことを希望して已まぬのである。

國家に盡した人生の勝利者

國家に盡した功勞者として永久に感謝さるゝ者は人生の最大勝利者である。英國に於けるウエリントン、ネルソン、ゴルドン、米國に於けるワシントン、リンカーンの如き其一例である。ウエリントン卿の死去した時、ヴィクトリア女皇は「嗚呼英蘭不列顛國の榮譽であつた偉人は遂に逝去した。これ實に再び償ひ得ざる大なる國家的損失である。嗚呼公の如く公正にして勇敢なる人物は古來無かつたであらう」と感慨を漏されたといふ。一國の主権者から斯くも激賞された人傑は少かるべく、其榮譽は甚大である。ネルソン將軍がトラファルガーの大激戦に戦死した時、國王を始め英國國民全體が、熱烈なる哀悼の意を表した。彼の勳功は今も尙赫々として倫敦市内に高き記念塔と共に輝いてゐる。ゴルドン將軍の戦死した時にもネルソンと同じく國王始め國民一般が非常に其忠烈を歎美し哀悼し、英國の各寺院は悉く彼の忠死に對して哀悼式を行ひ、國民は其勳功を永遠に傳へんが爲に各地に記念碑を建設し、尙有志はゴルドン記念育兒院を創立し、其寄附金は忽ちにして集まつたと云ふ。死して尙孤兒に永久其餘澤を及ぼすが如きは人生の勝利者として意味深長である。

ワシントン將軍が永久に米國民より感謝さるゝことは云ふまでもないが、エーブラム・リンカーンが劇場に於て兇漢の拳銃に斃れた計報が米國各州に達するや、國民は恰も慈父慈母を喪へるが如く哀悼し、涕泣慟哭した者も少くなかつたと云ふ。米國の女流作家ストウ女史當時の光景を叙して曰く「米國の天は妖雲に掩はれ、日光も其光を失へるが如く甲の鐘は哀惜の響を傳へ、吹く風も流るゝ水も皆悲痛の音を立て、國民悉く師父恩人を失へるが如く悲んだ」と。彼が如何に國民から哀悼されたかが分る。又當時の英國首相は議會に於てリンカーンを哀悼した演説中に「彼は凡ての人々の心情を動かし萬人の景仰する所となつた」と述べたが、總ての人の心を動かすことが出来、萬人の景仰する所となつた人は眞に人生の最大勝利者である。リンカーンは單に亞米利加合衆國の爲に盡したのみでなく彼の奴隸制度及び人身の賣買を禁じたことは、實に世界人道の爲に貢獻したのである。彼の如きは人道の神として無窮に感謝されるであらう。

犠牲による人生の勝利者

人は國家の爲め將た社會の爲め高潔なる犠牲となつた時に尊敬され感謝さるゝものである。リンカー

ーンの如きネルソンの如きゴルドンの如き、孰れも犠牲となつたのである。犠牲を拂ふことは重大事件であるが、人を動かさねば止まぬものである。我國でも高潔なる意味に於て眞に一身を犠牲に供した人は多大の同情を博してゐる。乃木將軍の如きは慥に其一人で、總てを犠牲に供した人である。將軍は名をも求めず、利をも求めず、只國家の爲と云ふ一念から總てを犠牲に供したので、従て其言動が風教を益したこと偉大である。百億の富豪は數百年の後には忘れられても、乃木大將は忘れぬ。尤も大富豪が國家社會の爲に公益的の事業を遺して置けば、其事業と共に其名も傳はるであらうが、然らざれば彼の富も遠からずして忘れられるのである。

由來犠牲になると云へば敗けた如く聞ゆるも、自ら進んで犠牲となり、而して其目的が國家社會若くは公共の爲である時は、決して敗者でなく、寧ろ人生の勝利者である。人生の勝敗は一身の利害損益から打算するのではなくして、國家社會から見て其精神行爲が公益の爲になるか否かと判断するのである。維新の勤王家中には非命の最期を遂げた者が多い。併し彼等が犠牲となつた爲に王政維新となり、今日の文明の基礎を造つたのである。故に彼等は決して失敗者でなく、人生の勝利者である。吉田松陰は勤王の大義を唱へ徳川幕府の顛覆を説き、幕府の爲に死刑に處せられたが、愈々刑場の露と

消ゆる時「我今國の爲に死す、死して君親に背かず、悠悠たる天地の事、感賞は神明にあり」と口ずさんだと言ふ。維新の志士等は皆彼と同じく生死を顧みず、一意只邦家の爲に盡さんことを期し、功名を千歳の後に求めて毫も一時的毀譽褒貶に介意しなかつたのである。松陰は曾て人に書を以てて曰く「心死して生くるは無益なり、魂存すれば亡ぶるも損なきなり、又一種私慾なき者の牛を偷むは妨げず、死して不朽の見込あらば何時でも死ぬべし。生きて大業の見込あらば何時までも生くべし」と。彼は實に意義ある生活を営むことを理解してゐたもので、人生に對して徹底したる意見を持つてゐたものである。其見識の高きは其志と共に尊敬すべきである。

人生勝利者の踏む道と武士道

犠牲と云へば現代の人往々にして馬鹿々々しいと思ふが、併し戦争は此犠牲を拂ふことなしには勝たれぬのである。彼の歐洲大戰の如きは其犠牲を拂ひしことの甚大なるには驚嘆せざるを得ない。既往の戦争に於ても海戦の場合には閉塞陣となつて出動せる者は最初より犠牲を覺悟し牛還を期せぬのであるが、而も決死之を爲すは眞の勇者である。米西戦争中勇士ホブソン大尉はサンチアゴの灣口に

マリマツク號を沈没せしめて最も花々しき勳功を奏した。彼は生還の期し難きを思ひ、出發に際して遺言して曰く「吾が近き將來及び遠き將來の爲に吾は何の顧慮する所もなく吾が一身を全能なる神に捧げる」と。彼の英雄的にして犠牲的なる此行動は、日露戰爭中に於ける廣瀬中佐の旅順閉塞の決死隊と同一である。廣瀬中佐と云ひホブソン大尉と云ひ一身を犠牲に供したが、人生の勝利者たる月桂冠は彼の頭上に輝いてゐるのである。

希臘の詩人ホーマーは「國の爲に死するは幸福にして又榮譽である」と云ひ、莊子は「聖人は則ち身を以て天下に殉ず」と言つたが、此意味を理解して公共の爲に犠牲となる人は決して敗者でない。立派な勝利者である。英國の教訓大家ジョン・ラボツク氏は日本の武士道を稱揚して、西洋人の大に學ぶべきものであると言ひ、而して此日本武士道之美點は何處にあるかと云ふに、ラボツクは曰く「武士道は勇敢の氣を勵まし、敵に背を見するを思ひ、又從容として死に就き、恥辱を受けんよりは死を取ることを教ふ。又主權に服従し、公共の爲に總ての私利を犠牲とすることを教ふ」と。又曰く「武士道は人に示すに個人の利害よりも寧ろ國家の利害に注意することを以てす」と。更に曰く「武士道は實に日本國民の良心にして又日本人をして一大國民たらしめたものである」と。ラボツクにして尙且日本武

士道を賞賛すると斯くの如くである。顧みて現代の我國民果して如何の感あるであらう。武士道と云へば時代遅れの徽の生えたもの、如く思へる者も少くない様であるが、成程武士道の形式は時勢に適合せぬ點あること言ふまでもないが、併し其精神の眞髓根柢は何れの時代にも決して不適當でない。人生の勝利者たる者の踏むべき道は武士の精神と一致してゐることが多いのである。

如何なる職業の人も勝利者となれる

種々の發明發見を爲し人を救ひ世を益する發明家は是れ亦人生の勝利者である。學者、教育家、宗教家として子弟を教養し社會に善良なる感化を與へて感謝さる、人も人生の勝利者である。又天下國家と云ふが如き大きな事ではなく、他人の儀表となり模範となる人はこれ又人生の勝利者である。如何なる職業に従事してゐる人でも其立場に於て他の儀表となり模範となることが出来る。千八百八十五年一月某日英國政府は一惡漢から「ウエストミンスター寺院を爆發させる」と云ふ脅迫狀に接したので、當日數名の巡查を派遣して警戒させた。果せるかなコールと云ふ一巡查は地下室に於てダイナマイトの仕掛けあるを發見し、而も此時、既に包裝の襜褕に點火せられ、刻々に爆發に迫つたのである。「正

を爲して手に餘る所は神に委するのみ」とは、コールがダイナマイト發見の利那の絶叫であつた。彼は直に包装の儘ダイナマイトを腕に抱へて駆け出した。將に戸外に出でんとした時ダイナマイトは爆發し建築の一部を破壊すると同時に彼も亦重傷を負うて卒倒した。併し生命は幸にして助けられた。彼が誠心誠意を以て職務に殉じたるが爲に、英國の誇とせる有名な大寺院の破壊と參觀人の生命とを未發に救ふとが出来た。彼は忽ち全英國民の感謝歎美の的となつて、間もなく賞金及び賞牌を送られ、位階を進められ、且つ女皇陛下よりの令旨によりて賞揚せられた。一巡査と雖も此等は實に人生の勝利者である。先年物故された東京府知事井上友一氏の如きも府民に哀悼せられ且つ感謝せられ、府葬を以て送られたるが如き、官吏として人生の勝利者である。余は斯かる職務に忠實なる人士の輩出せんことを熱望するものであつて、人生の勝利者たることは必ずしも至難の事ではない。自己の覺悟と努力とを以てすれば、位の高下によらず爲し得ることである。

人世の勝利者となるの途

思想問題を論議する人多く、而して信念の薄弱を憂慮して之が涵養を説く者も増加して來た。現代

に於ける有名な佛國の哲學者ジャン・フィノー氏は其著幸福學に於て「現代精神の神は吾人に自己に對する義務よりも他人に對する義務を命ずる、自己の爲の祈禱よりも、他人の爲に盡すの行爲を要求する。故に今日の人々は若し先づ第一に地上の御國の爲に盡さなければ、天上の御國を憧憬しても無駄である。吾々の心の天國は吾々が他人の爲に努力する報償であつて、これのみが今後來世に導く唯一の道である」と説いてゐるが、現代人心の缺陷を矯正する必要を痛切に感じてゐる爲であらう。フィノー氏の説を實行し得る人は即ち人生の勝利者となり得るのである。余は現代の風潮に深く感ずる所あり、一般人士に向つて特に人生の勝利者たる目的を以て努力せんことを切望するものである。

人の天性

人の天性を尊重せよ

美を好むは人の天性である。而して其美は形而上と云はず形而下と云はず美しき麗はしきことは皆

好むもので、人の性善説は此點からも窺はれる。故に各人の集團たる社會は、社會それ自身をして美化せしむるを理想としなくてはならぬ。「文明の極致」の著者ウォルシュ氏は、文明とは親密なる關係を以て共に生活する術であると言ひ、又文明の目的は正當にして幸福なる生活であると述べて居るが、予は文化の極致は人世を美化するに在りと言ひたいのである。而して元來社會改良は人の天性に基いて進むべき筈のもので、天性を無視したる言論行動は不自然であつて眞理に適合しない。

高尚なる身の裝飾は何か

人は社會に於て孤立的に生活することが出来ない。互に共同協力して生活するのが本然であるから、其相互間を調和すべきものが無くてはならぬ。それは則ち禮儀作法である。又社會は亂脈になつては相互の生活は脅威さるゝから、秩序が無くてはならぬ。其秩序を維持するものは禮儀作法である。故に禮儀作法の必要なることは社會生活自然の要求である。只だ外部に現はるゝ形式は國により時代によりて變化あるに過ぎぬ。蓋し禮儀作法は人をして人らしく行動せしむる法則であつて、各人の交際上に於て交誼を温め、圓滿なる和親を保つに缺くべからざるものである。

禮儀作法は高尚なる身の裝飾とも云ひ得る。従て此嗜好ある人は何人が接しても氣持が好い。如何に巨富を擁して綺羅綿繡を纏うても、其言動が無作法であつたならば、野卑で他人に惡感を與へ且嘲笑せらるゝであらう。沐猴にして冠するは可笑しきが如く、態度の粗惡野卑なるは美服を汚すこと泥土よりも甚だしい。而して態度の粗野と無禮とが傲慢が基ならば憎むべく、又野性が原因ならば憫むべきものである。人の世に處するには必ず秩序と規律とを重んずるが如く、一定の禮儀作法を守らねばならぬ。若し人に禮儀作法が無ければ禽獸に等しいのである。

文化と作法

無作法は破壊であり野蠻性の發揮である。建設的態度は文化の必要要件であるから、無作法は文化の敵である。而して文化の進歩と共に人は美化されて、自然禮儀作法も美化さるべき筈である。今や文化主義の高唱せらるゝ時代になつたから、思ひを此點に注ぐ必要がある。近來新思想を唱へ新知識を説く青年中には、動もすれば穿き違へることがあつて、禮儀作法など眼中に置かないで、只だ徒らに新しがるんとする傾向あるのは戒むべきことである。現に有識階級の先輩は憂慮して曰く、近頃一

般無作法に傾き、粗野に流れ易く、社會生活に最も必要なる秩序規律さへも棄さんとする恐れがある。斯くては一面には文化の退歩となつて眞文明を味ふことが出来なくなる。

思想が新しいからと云つて禮儀作法は何でも構はぬと言はれない。最低度に於て人間らしいことだけは誰も守らねばならぬ。而して文化の中には美化を含むことを忘れてはならぬ。美化は進歩である。悪化は是非避けたい。美化と云ひ悪化と云ふは人の見解によつて異ると論ずる人もあらうが、其處は多數人の常識で判断が出来る。又等しく無作法でも富豪の無作法は貧者の無作法よりも醜く、智者の無作法は愚者の無作法よりも悪い。従て社會に與へる影響亦甚大である。

風俗習慣の相違は永久の城壁にあらず

日本と外國と風俗習慣を異にするが故に、禮儀作法に於ても多少相違あるは當然のことであるが、併し日本も世界的となり洋服を着け洋食を喫する以上は、餘り世界と隔絶したる禮儀作法は考へものである。否何人が考へても無作法と思ふことは斷じて改めなければならぬ。是れ社會を善化し人世を美化する上に於て必要なるのみならず、日本人の無作法が世界から排斥せらるゝ一原因になつて居る

とまで言はれてゐるから、以前の如き九尺二間の時代と異なることを覺らねばならぬ。然らば外人は日本人の如何なる態度を無作法と評して居る乎。

先年鐵道省が長距離急行列車を除くの外、殆ど一等客車を廢止することに決定した時、之に對して京濱及び阪神地方の外人が抗議を申込んだことがある。其理由は、「一等車を廢止すれば我々は二等車に乗らねばならぬ。併し二等車に乗る日本人の不規律無作法は我々の到底見るに忍びない程の苦痛である。何とかして此等不規律無作法な日本人乗客と混乗するの苦痛を防止する方法を講じて貰ひたい」と云ふのである。外人ならずとも我々も時々斯かる感じを起すことがある。一度外國を旅行した人は何人も彼我乗客の行儀作法の相違に驚くのである。

先年東洋汽船會社の天津丸が横濱より桑港に到着するに先だち、同船乗組一等白人客五十餘名が、同じく日本人一等船客の無作法に就き「不愉快につき何とか方法を講ぜられたい」と船長へ向つて連署で抗議書を送つたことがある。外人も或は我儘で忍耐力無い爲めかも知らぬが、それにしても日本人の傍若無人、我儘無作法に堪へられなかつたのであらう。餘りの不作法は劣等人種として排斥せらるゝのも亦已むを得ぬ。單に風俗習慣が異ふの一天張りでは押通されぬこともある。文化主義を唱導する

もの、考慮すべき點である。

無作法と指摘する十五ヶ條

禮儀作法の如きは些末のことだと言へば、或はそれで済むかも知れぬが、今日の如く世界の交通頻繁となり、外人の往來激増しては單に些末のこととして放任する譯にも行かぬ。外人が觀て以て日本人の無作法と評することは、其當否は第二として先づ重なるものを列擧して見よう。

- (一) 日本の紳士中には他人の前で念を入れて髭を捻る人が澤山ある。甚だしきは唾をつけて捻つて居る。
- (二) 日本の紳士中には他人の前で鼻糞を搦つて居る人がある。甚だしきはそれを手で丸めてボンと投げ出すものがある。
- (三) 日本の紳士中には汽車の中で和服で大股を擴げて涼風を入れながら居睡りして居る者がある。
- (四) 日本の紳士淑女は書籍の紙をまくるに、指先に唾を附ける、西洋では下等社會のものしか然うしない。

(五) 日本の紳士の内には食事の時に、大きな口を開けて而も音を立て、食べる人が頗る多い。スー

ブを吸ふ時にチュウ／＼音をさせる。西洋では音を立たないのみか必ず口を閉ぢて食べる。

(六) 日本の紳士には汽車電車の中は勿論、多人數の集會の席などで口を開けて居る者が澤山ある。堂々たる紳士が口の開け放しには實に驚く。

(七) 日本の紳士が唾や痰を所構はず吐くのは驚く。西洋では汽車の中で唾を床の上へ吐けば罰金

に處せらるゝ所さへある位だ。

(八) 歐米の紳士は爲すべき事を爲した時に其報酬を受けると云ふことは紳士の精神にない。然るに

日本の紳士は何かと云ふと直に「有り難う御座います、何れお禮を致します」と云つて歐米の紳

士を輕蔑する。有り難うより外の言葉は歐洲の紳士の甚だ不快を感じる所である。

(九) 日本の紳士は妙に大きな聲を出して談話をする。歐洲では相對して話をして居る時は、必要以

上の大きな聲を出すのを無作法としてゐる。

(十) 日本の紳士に就て最も驚き最も不快に感ずるのは、髭を剃らないことである。西洋の紳士は毎

朝必ず剃る。顔の掃除をせずして人に接するは失禮となつてゐる。

- (十一) 歐洲の紳士は他人の前で扇子を使ふことを失禮としてゐるが、日本の紳士は何等の遠慮會釋もなく、手を高々とさし上げて煽いだり、或は懐の中へ風を煽ぎ込む人がある。
- (十二) 日本の紳士は妙に心にも無きお世辭を言ふ、悪い物でも他人の物なら大變善いと云ふ。西洋人は骨董品を買つて來て自分では眞價が分らないから、日本人に見せて批評を頼むと大變悪いと知つて居つても善いと云ふ。
- (十三) 日本の紳士中には外國人の顔や服裝をデロ／＼見廻す人がある。用も無き知らぬ人をデロヂロ見るのは西洋では失禮となつて居る。
- (十四) 汽車や電車に乗るに後から往つて人を押し分けて乗る日本人が多い。其原始的勇氣には驚くと共に他人の迷惑を何とも思はない。
- (十五) 日本の紳士中には汽車の中を料理店と間違へて酒宴を開く人がある。果物の皮など無闇に床の上へ棄て、車内を不潔にするのを平氣である。

單に形式と言ふ勿れ

此他にも尚澤山あるが、以上は先づ彼等が日本人の無作法として指摘する重なるものである。右の内には風俗習慣を異にする爲め已むを得ぬものもあるが、併し其多くは紳士として慎むべきことのみである。單に風俗習慣が異ふからと云つて、馬耳東風に濟まされぬのみか、吾人は世界的に生活して行くことを考へねばならぬ。加之人世を美化する上から考へても改めたいものである。形式的な些末なことの様ではあるが、紳士の訓練の第一歩として注意すべきことである。併し予は決して外人に迎合せよと云ふ意味ではない。其根本に於て各人の我儘勝手な傍若無人の振舞を慎み以て人間として美化させたいのである。

美は各人の好む所であるから、自己の言行を美にし以て他に快感を與へることは好いことである。社會は共同生活である以上は、共同生活者の一人として少くとも他人の邪魔にならぬことと、不快の感を與へざることに勉めたい。他人の感情を無視して世を渡るべきものではない。斯くして始めて人世を美化せしむる階段に進むのである。

舊式の日本人は如何

日本人は元來個人同志では禮儀作法が正しい。武士道に依て訓練された人などは殊に然うである。それが群集生活になると無作法に陥るのであるから、謂はゞ群集生活團體道德の訓練が無いのが其原因の一つである。米國のクラーク博士は日本を視察して、其感想を或宗教雜誌に掲けたる内に日本人の禮儀に就て述べて曰く、舊式の日本人同志が逢ふ時は禮儀は實に丁寧である。中には日本人の禮儀は表面のみだと云ふ人もあるが、それでも予は粗野なる國民は眞似るべきだと思ふと。蓋し粗野なる國民とは米國民を指したのであらうが、其米國民は近來言語も動作も以前よりは上品になつて來たと云ふ。從來米國人はヤンキー禮に嫻はずと評されてゐたが、近頃禮に覺醒して何事にも上品ならんことに心懸けて來たと云ふのは、流石進歩的國民の特徴である。クラーク博士には舊式の日本人が却て賞讃されてゐるのは面白い。物質主義の究極する所、純眞なる文化の光輝を凋落せしめ、趣味の墮落を招きそれが人間の品性を下劣ならしむるのは其弊である。衣食足つて禮節を知らざるのは實に困つたものである。我國の所謂成金は概して此弊に陥るのは慨嘆に堪へない。即ち美化せずして却て醜化する傾あるのは改めたいものである。由來修養のある人と無い人では其言語舉動で分る。心の修養のある人は自然其動作の上に何處か高尚な處が現はる、ものである。

英國紳士の特徴

英國人は人物を尊重し信用を重んずる國民で、人物の價値を判断する標準は主として其人の品性人格の如何に存する。即ち紳士であるや否やに重きを置くから、家庭も學校も紳士教育に重きを置くのである。従て今日の世界で最も禮儀作法を重んずる者は英國人である。故に英國に於ては紳士たり淑女たるの禮容を缺き其品格を損するが如きことあらば、假令富豪であらうが社會は彼を相手としない。英國人は其子女を薰陶するのに、斯くの如き行爲を改めなければ將來紳士として乃至淑女として社會に立つことは出来ぬと諭すのである。日本では男の子に向つて偉い人になれぬとか出世は出来ぬとか言ふ代りに、英國では紳士になれぬと言ふのである。又英國人の母は其子に向つて「貧民を嘲つてはならぬ。貴賤の別なく一律に人を尊敬するの美風を養はなければならぬ」と誡むるなどは實に好いことである。此等は我日本人も反省すべき點である。

英國の紳士主義とは如何なるものであるかに就て、或人は説明して曰く、日曜日知人が筋の好くない婦人と散歩してゐても、それを見て見ぬ振をする。又此事を決して他人に話しはしない。是が紳

士の作法だと思つてゐる。要は他人の私事に就ては其自由に任せ、敢て妨害や破壊的態度を取らぬと云ふに過ぎぬ。併し自身は社會的制裁を顧みぬものではないと言つたが、肯綮に中つてゐる。日本人は之に反して他人の私行を許くことを平氣である。彼我の相違も亦甚だしいではないか。

議會は國民の反映

英國が紳士國を以て任することは、其議會の嚴肅なる有様を見れば分る。英國の議會では多數黨なるが故に横暴を極めない。又少數黨なるが故に輕蔑されることもない。敵も味方も正々堂々として論議し、彌次や無作法な行動はない。議員が若し喧騒に陥らんとする時には、議長はオーダー(秩序)と大呼する。さすれば一同は忽ち靜肅になる。オーダーの一聲は秩序を反省せよとの意味である。日本の議場の如く多數黨横暴の聲も聽かなければ、議長壓制の聲などは藥にしたくもない。況して掴み合ひなどはあらう筈がない。

英國の議會では議員が反對黨の人を呼ぶに「尊敬すべき紳士」と敬語を用ひる。日本の議會では車夫馬丁さへ口にするを潔しとせざる賤劣野卑な惡口暴言を吐く議員さへある。甚だしきに至つては議場

で動物の鳴聲さへする代議士がある。若し議會は國民の反映でありとせば、如何に日本人は禮儀作法を知らざる厚顔無恥の民であらうかと冷評さるゝも、辯解の辭がない。國民の代表機關たる議會の無作法は實に國家の恥辱である。詩人ウオーズウオース曰く「吾人は無禮の舉動を爲す權利なきと同じく、無禮の言語を吐く權利なし」と、眞に名言である。我議員諸氏此警句を常に念頭に置いて、深く誠慎あらんことを切望に堪へぬ。

「社會問題の建設的解釋」の著者エルワード教授曰く「吾人は社會的生活の理想を實現する前には豫め其根柢として正しい理想觀念を準備しなければならぬ」と。予は人間の天性に基き人世を美化することを以て社會生活の理想としたのである。而して人世を美化するには形式よりも精神的方向に一層多くの努力を要する。今は其序論として先づ形式から説いたに過ぎぬ。精神的に美化するに於ては道德が何より大切である。エルワード教授は「道德とは要するに人間を調和的に連結させるものである。世に誠實、正直、忠誠、正義の徳なくして圓滿なる社會生活が出来るかと考へるのは夢である。道德なくして社會の理想を描くことは出来ぬ」と。眞に我意を得たものである。

民心を如何に指導すべき乎

人心變化の見方

事物に對する觀察は十人十色であるから、各人思ひ思ひの判断が出るのも不思議はないが、近來動もすれば外來思想に眩惑して、非國民的な思想を發表する者があるには覺せざるを得ないと言ふ人がある。又日本人にして日本人にあるまじき言を爲すものあり、甚だしきは學者思想家にして或者は露西亞人になりすまし、或者は亞米利加人たらざるを畏ると云ふがごとき者あると憤慨する識者があれば、或は又人心悪化したと云つて頻りに痛嘆して居る人もある。成程随分悪化した方面はあるに違ひないが、其代りに善い方面へ自覺して幾分か善化したものもあらう。善化の方が目立たないで悪化の部分のみ人心に映ずるのは、或は實際我國國民の訓練の足らない證據であらう。不健全な思想を懐くものあることは予も之を認むるが、併し如何なる時代にも、神經衰弱者もあれ

ばヒステリックな人間も居る。變態心理者もあれば二重人格者もある。誇大妄想狂者もあれば、畏縮的恐怖者もある。是等の人々が懷抱する意見を以て、直に國民の多數が同様の思想を懷抱するものと思ふのは早計である。故に國民全體を指導するに當つては例外者を標準とせず、普通一般の程度を考察して對療法を講じなくてはならぬ。徒らに悲觀的に陥つて無暗に絶叫することの不穩當なるが如く、又樂觀的に過ぎて放任するのも決して宜しくない。併し何れかと云へば常に光明の方面を見て指導する方針が肝要である。

外來思想に對する國民の態度

如何なる時代でも外國の思想が渾然として輸入する場合には、往々之に阿附迎合するものが出たり或は鵝呑みにして隨喜渴仰するものが現はれたり、甚だしきはそれに同化して了ふものさへ生ずることあるは敢て珍としない。多少斯かる脱線的極端者が出たからとて、必ずしも疑懼狼狽するには及ばない。徳川時代に儒教の盛んに學ばる、や、相當の學者で随分之に逆上して、孔子あるを知つて日本あるを忘れると云ふが如き極端者も輩出した。物徂徠の如きは尤も其甚だしき者であつた。則ち彼

民心を如何に指導すべき乎

自ら東夷と稱し、荻生總右衛門の本名を支那風に物徂徠と改めた程であつた。其他服部南郭は服南郭と改め、平野金華は平金華、高野蘭亭は高蘭亭、山縣周南は縣周南と改め、以て支那人と區別の附かないやうにして得意になつて居たと云ふ。是等は一面から見れば甚だ非國民の如くであるが、併し支那へ歸化した譯でもなく、一時極端に走つた迄である。別段危険なともなかつた。

又佛教が初めて我國へ渡來した時に、蘇我氏は大に之を信じて超國家主義となり、宗教的信仰の爲には國境を撤して顧みないと云ふ態度を採つた。尤も之に對しては物部氏は在來の國家主義を執つて反對したから、蘇我氏の主張は多數に容れられなかつたが、兎に角斯かる極端者も出たことがある。則ち思想は思想を以て征服した。其後佛教は盛んになつたが、印度其儘の佛教ではなくして大に日本化した佛教となつた。而して佛教に歸依したからとて神道を捨てはしない。神佛共に尊崇したのである。儒教に對して孔子を崇拜し、姓名を支那風に變へても、國を愛することに於ては依然として動かさず、基督教に於ても亦同一である。殊に基督教に對しては之を信仰するものは賣國奴の如く一時攻撃したが、却て知識階級に信仰され、而も何等危険も無かつた。則ち宗教の爲に國家を忘るゝが如きことはない。我國民は無條件で外來文化の奴隸となるが如きことは斷じて無い。

信頼すべき國民

予は元來我國民を愛し我國民を信ずるの餘り、假令現代に於て其思想がクロボトキンとなり、カールマルクスとなるもの稀に生じたからとて、恰も蘇我氏あり物徂徠ありしが如く左迄危険とも思はなければ、決して又悲觀しない。何となれば是等の人も一朝事あれば國を愛し同胞を愛するの念生ずべく且つ或時代が來れば必ず翻然自覺して本心に立ち返るものと信じて居るからである。故に彼等に對しては健全なる思想を以て之を善導すべく、徒らに無意義な壓迫を加ふることは改むべきである。之を取締るの方法も成るべく緩和的であることが却て有効であらうと信ずる。

我國民は其國民性に於て種々麗はしい美點ある中にも、國體に關しては衷心萬國に誇ると共に、皇室に對しては傳統的と云はんよりも寧ろ本能的に崇拜して居るから、一朝有事の日には精神統一が容易に行はれる。故に逆臣奸賊と雖も尙且尊皇心に富んで居たことは歴史上争はれぬ事實である。例へば承久の亂に於て北條義時は其子泰時をして兵を京都に進ましめたとがある。其時泰時は父に向つて「若し關東に對つて御親征の爲め錦旗が動いた時には如何致しませう」と質問した。すると義時は「そ

れは好い所へ氣が附いた。錦旗が動いた場合には勿論それに對つて弓を引いてはならぬ。速かに兜を脱いで降参せねばならぬ」と訓戒したと言ふ。逆賊でさへ尙忠君を奉じ、日本固有の道徳を保持して動かない。此血は脈々として今日迄連續して居るのである。

明治神宮祭に現れたる國民的精神

近時國民思想の動搖して居るのを憂懼するの人は、明治神宮鎮座祭より例祭にかけて参詣者の非常に多大にして而も熱狂的であつた事を知るならば大に意を強うするであらう。如何に彼等が敬神愛國の精神強烈にして、皇室中心の意志益々盛んなるかは、到底筆紙の寫し得らるゝものでない。三ヶ日の祭禮に参拜者毎日數十萬の多きに上り、剩へ連日百餘名の負傷者を出すに至つたのは、是れ明治天皇の聖徳を慕ふの餘り、此混雜を惹起せしものにて、國民的感激の横溢に外ならぬ。又賽錢の雨下した光景は實に未曾有の偉觀を呈した。銅貨銀貨の持合せなきものは紙幣を喜捨し、中には十圓紙幣さへ數枚あつたと云ふ。殊に離れて賽錢を投げる者は、社殿の屋根目懸けて亂射する爲め、屋根は銀貨で雪景色となつたと云ふ。これは三ヶ日に止まらず日曜日如きは依然斯かる光景を呈し、殊に新年元日に

参拜者非常に多いと云ふ。我國民は何と云つても皇室に對しては尊崇の念禁じ得ないのである。皇室は恰も扇の要の如く此要に依つて國民は統一され、一朝有事の場合には打つて一丸となるのである。扇の紙は時代の變遷四圍の事情に順應して貼り換へるが如く、政策は時勢の變化に應じて改善するの必要なるは言ふ迄もない。

世界思潮の變化如何

我國民の思想は外國の思潮に動かさるゝことと少くない。近時に於ける人心の動搖は海外思潮の影響である。故に其本家本元に於て安定せば我亦安定するに相違ないと説く者あるが、一面の眞理は含まれて居る。最近世界各國思潮の大勢を観るに、最も懸念されたる労働問題、同盟罷工の如きは、英國の石炭坑夫の罷業解決以來、概して穩健となり、國家を危機に陥れてまで労働者の貪慾を満たすに及ばないと云ふ思想が、労働組合の幹部間に浸潤するに至つた。労働者は國家社會を組織する一部分に過ぎぬ。此一部分の慾望の爲に多數の消費者が迷惑するは忍びない所から、各國の輿論は労働者の主張に反對するに至つた。従て労働黨の首領始め各國民が、國家主義、愛國主義の精神が旺盛になつ

て来た。此國家主義愛國主義の勃興は最近思潮の顯著なる現象である。歐米各國を視察して歸朝する者は皆異口同音に之を説くこと恰も符節を合するが如くである。

歐米に於て排斥されつゝ、ある不健全な思想の尻馬に乗つて愚圖々々して居ると、列強の國家的勢力の爲に意外な不覺を取ることないとは限らぬ。茲に於てか英國の經濟學者ハツフォン氏が、最近某氏に向つて「滯日二年間の感想を洩らしたと云ふ一節を思ひ出さざるを得ぬ。氏曰く『日本人は近頃洋服を着て椅子へ腰掛くるとを、生活の改善だと思つてゐるが、背の丈は小なりとも丹田に力を入れた三千年の生活を忘れてヒヨロ／＼してゐるのは馬鹿な考だ』と。頗る皮肉ではあるが髓に頂門の一針である。我々が歐米人に同化しなければならぬ理由は少しも無い。日本は日本人の日本である。只だ世界の大勢に盲目では悪いので、之に順應して採長補短を忘れねば宜いのである。

外國の識者は日本を何と観る

前米國大統領ルーズベルト氏は長逝する五六ヶ月前に、『世界大戰に於ける日本の態度』と題せる論文中に日本人は正義人道を重んじ、勇敢義侠に富む國民だと賞讃し、斯かる貴むべき國民に對しては深

甚なる敬意を拂ふべきであると絶叫して居る。該書は翻譯され遊澤子爵が私費出版されて、予にも一本を寄せられたが、ル氏は以前に日本の武士道を激賞され、今又この説ある決して偶然でない。佛國の哲人ポール・リシャール氏は日本に來つて、『告日本國』と題する小冊子を著はし、日本の國體を賞揚し、日本を以て世界第一の國となるべしと激賞して居る。又伊太利大使館通譯官ブロスベロ氏は、日本歴史を研究したる結果、世界稀に見る美しい國民性を發見したので、日本武士道に關する數種の小冊子を本國民一般へ配布し、ノーブルス市の東洋語學校の教科書にも採用させたと云ふ。此等の小冊子を讀んだ伊太利人は大に感激し、ダモンチオ氏が日本へ航空を企てたのも此爲めだと云ふ。外人が如何に我國民性の美點に感激して居るか分る。

米國のデジャンス夫人は曰く、日本人には非常に懐かしい算盤を超越した心情の發露するを見失ふ譯には行かぬ。親切で美しい日本人は、美しい心情を保ちつゝ、算盤に乗る國民である。日本人は『きつと遣つつける』人種である。但し今の所では餘りに西洋風の思想に囚はれ過ぎてゐるやうだ。やがて過渡期を過ぎて、眞の日本の美しさが自ら解るであらう。其時こそ日本の發展力は倍加するに違ひないと。西洋風の思想に囚はれ過ぎるの一句大に傾聴すべきである。

婦人にして斯く適評するものあり

希臘のメタクサ伯爵夫人曰く「日本は西洋文化に適應しても、決してそれを模寫してはならぬ。又決して自己の個性を忘れてはならぬ。産業的國家として立つ上に於ては資本と労働との問題に面接しなければならぬが、其爲めには自己の光りを以てせなければならぬ。西洋諸國が數百年來經驗してゐない此融和の偉大なる原因、即ち雇主と被雇者の間に相互的温情を其背後に持つて居なければならぬ。心を唯だ理智的な技術的な仕事にのみ發達させて来た西洋人は、概して哲學に就て盲目であり、又人間の温情に對して感情的と誤解して嘲笑して居るが、其温情こそ植物界で所謂共同生活として知られて居る最も重要な自然的法則である。相互扶助し合ふことがなければ組織的生活は不可能であり、又同情なしでは如何なる秩序ある行爲も出來ず。又調和なしではあらゆる進歩は止まつて了ふ」と。又曰く「如何に聰明で正義なる法則を樹立するにしても、其適用に際して温情と善意とを用ひることを怠るならば、それは死んだ文字に過ぎない。温情主義なるものは心理に於て日本の労働者を減さんと企て、ゐる人々に非難されて居る。何となれば日本の労働なるものは、外國の労働に對して競

争者であるから、單に労働者を煽動するに過ぎぬ」と。尤も日本の労働者を煽動するものは、強ち彼等を減さんが爲でなく、同情心と一種の不平から起つたのも多からうが、兎に角メタクサ夫人は頗る適評を爲して居る。我國民としては須らく反省すべき價値があると思ふ。

日本民族の長所を發揮せよ

外人中の識者は我國民を見ること彼の如く、外來思想に對する警戒を與ふること斯くの如くである。苟くも我國民たるものは外來思想中の或は危険なるもの、或は誤れるものに對しては我國民性の長所美點を發揮して之を矯正すべきである。我國民性の長所とは云ふまでなく、(一)國體に對する自尊心強く忠君愛國の精神に富んで居ること。(二)武士道より發揮された正義任侠に富み、獻身犠牲の精神強くこと。(三)親切同情に富み清廉潔癖なること等は其最も著明なるものである。之れにデモクラシーの思想を理解して、自由、平等、博愛、責任、自治等の觀念を發達せしめ、以て我國民性の長所と調和せしむることが何より肝要である。米國のヴァンダーリップ氏の一行と共に來朝したコーネル大學總長シユールマン博士は早稻田大學で演説して曰く「近頃世間で喧傳されてゐるデモクラシーも人

類共通の思想から發露されてゐるが、日本のデモクラシーは日本的でなければ駄目である。日本は日本の歴史に依りて民族の發達を圖る必要がある」と。然り歴史の背景を忘れたる極端な國情無視は讀者の取らぬ所である。且又同博士は日本の美術に就て曰く「美術も日本固有の創造的藝術で、光琳の畫は伊太利のミカイル・アンゼロや、ラファエル等を凌駕して居る。歐洲人は希臘文化を學んで居るのみだが、日本人は歐米の文物を學んで更に改善を試み、美事に成功してゐるのは敬服に堪へぬ」と外人すら斯く賞讃して居るから、我國民たるもの大に自重しなくてはならぬ。

善化的指導を忘るゝ勿れ

ヴァンダーリップ氏は我國民に向つて警告して曰く、「日本人諸君に西洋の方法が物新しく見えるからと言つて、單にそれだけの理由で一も二もなく西洋の事物を採用することの無い様に望みます。若しさういふ風な淺薄な模倣を見るならば、私は最も遺憾に思ふ一人であります」と。此警告は現代の如き我國情に對して頗る適切な注意だと思ふ。他國が却て今後我國に學ぶべきものあらんとする際に我れを忘るゝが如きことは、愚にして且危険である。日本人は日本の道を以て進むべきである。由來

我國民は消化力に富んで居る國民であるから、外國の文明を能く攝取し、能く咀嚼し能く同化して我肉となし血となすことが出来る。故に思想問題の如きも偶々中毒する者生じても大多數は決して外來思想の捕虜とならぬ。只だ民心を善導することなくして、徒らに壓迫を是れ事とせば却て不測の禍害起るやも知れぬ。人心を治むるは尙水を治むるが如く、急に之を堰き止むることよりも徐ろに流す方法を講ずるが肝要である。昭憲皇太后の御歌に

淺しとてせけば溢る、川水の心や民の心なるらん

とあるが、此精神を忘れてはならぬ。政府當局者は勿論學者教育家宗教家其他苟くも識者たらん者は我國民を善化せしむるやうに指導することが大切である。それには我國民性の長所美點を明示して、之に外來思想を批判しつゝ、消化させることである。

新士道の提唱

新士道の出發點

時代の變化は思想の混亂を來し、思想の混亂は道德の動搖を招いた。古き道德は新しき時代に適切ならざるとは明かであるが、さればとて徒らに新を銜うて道德の根本思想を破壊してはならぬ。この點より深く考察して只だ從來の日本武士道と、大和魂のみでは、今日の進歩せる思想と世界的日本たる大國民を律することは覺束ない。頑冥固陋な守舊派が時代錯誤に陥つて居るのは全く事實である。然れども我國民の美點とし長所として居る武士道と大和魂の特長は固より尊重せねばならぬ。故に新士道は我國體に合致し、日本の國民性に適應し、而も新時代の新思想に適應するものでなければならぬ。新士道の出發點は此處に在る。

思想界の潮流は假令如何あらうとも、其思想が或は誤つた思想であつたり、或は極端に流れんとす

る不穩な思想であるならば、進歩したる健全な思想を以て之を矯正せねばならぬ。此見地からしても新士道を唱導することが一層必要である。

新士道の要素如何

人と生れて自國を愛せぬものはない。是は自然に有して居る人情である。世界何れの國民も自國を愛せぬものはない。従て愛國心は世界各國人類共通の精神である。又我國の如き世界無比の國體を有して居るものは、傳統的に忠君の思想は植附けられ、殆んど先天的であるかの如き感がある。此忠君愛國の思想は自國の歴史を尊重すると共に、益々發揮さる、であらう。故に忠君愛國の事は改めて説かないが新士道に於て之に重きを置くことは固より言ふ迄もない。苟くも非國民にあらざる限り之を否認するものは斷じて無い。故に予は我國の武士道と西洋の武士道及び英國の紳士道の長所を加味し、之にデモクラシーの思想を加へて以て新士道を樹立せんと欲するのである。

(第一) 人格尊重

職業に千差萬別あり、境遇に懸隔差違あつても、人たるの人格は根本に於て變りはない。従て如何なる人に對しても其人格を認め、動物や物品と同様なる取扱を爲してはならぬ。國際労働法規の第一條に於て「労働は單に貨物又は商品と認むべからず」と規定したのは、即ち労働者の人格を尊重したのである。舊武士道に於ける缺點は階級思想が極端に強かつたのである、往時は武士に斬捨御免の特權さへあつて、賤民の人格を少しも認めなかつた。此思想の誤つて居ることは言ふ迄もないが、デモクラシーの思想に於ては互に人格を尊重することは其第一義である。

西洋武士道に於ては他人の人格を尊重すると共に弱者を擁護するに勉めた。婦人を優待することは此點からも起つて居る。今日婦人の權利を認め其人格を尊重すること日本武士道とは固より同日の論ではない。新士道に於ては婦人の人格をも認むることは勿論である。而して他人の人格を尊重する以上、自己の人格を貴ぶことは更に一層甚だしきは當然である。自己の權利を主張するものは、他人の權利をも尊重せねばならぬ。然るに従來日本人は動もすれば自己の權利を主張せざる爲め、従て他人の權利をも尊重せざる缺點がある。甚だしきに至つては自己の權利は主張するが他人の權利を尊重しない惡弊がある。是れ何れも誤れるものにて、他人の人格を尊重するが如く、他人の權利をも尊重

せなくてはならぬ。又權利を尊重すると共に義務をも重んぜなくてはならぬ。同時に責任觀念が最も強くなくてはならぬ。責任觀念の頽廢して居るものは人格の閃きがない。

人格の實質内容

茲に注意すべきは人たるの人格は、形式に於て將た量に於て平等であるが、併し其内容に於て將た質に於ては差違あることを知らなくてはならぬ。則ち人格の大小高下は各人に依て異り、實質的力量が著しく相違あるを忘れてはならぬ。従て賢者は賢者として待遇せられ、愚者は愚者として取扱はるゝのである。能力あるものは多く酬いられ、能力なきものは少く酬いられ、徳あるものは尊敬を拂はれ、徳なきものは尊敬せられぬ。斯くして始めて公平である。是を以て各人皆發憤努力して學を修め智を磨き、有爲有徳の人材となつて高潔偉大なる人格を修養するに勉むるのである。

舊武士道に於ては名譽を重んじたものであるが、新士道に於ても人たる人格尊重以上に、實質的人格を重んずるから、更に進んで名を重んずるのである。物質主義よりも精神主義に重きを置くのである。人格主義を以て新士道の骨髄たる精神としたのである。名譽體面を重んずればこそ人格の光輝

が發揚すれ、若し名譽を輕んずるに於ては人格下劣となり、破廉恥の事も平然として行ふに至るのである。従來日本人は他人の名譽を毀損することを餘り意に介しない。新聞雜誌に於て殊に甚だしい。歐米の新聞雜誌に於て、容易に筆にしない罵詈譎を平氣で筆にする悪習がある。是れ他人の人格を尊重しない思想から來て居るのと同である。新士道に於ては之を排斥するのである。

人格の尊重を廣義に解釋し、且つ人格の實質力量に重きを置くと共に、廉恥、節操、至誠、名譽、體面、正義、責任、正直等の諸徳を新士道の一要素たる人格尊重の内に於て説くことが出來ると思ふ。

(第二) 聯帶精神

人の生活は社會生活である。一個人の力を以て生活は出來るものではない。自己以外の多數人の力に依て生活することを得るので、即ち有無相通する所に始めて人生の生活が實現されるのである。而して社會は多數人相集つて組織するのであるから、人と人との間には絶えず複雑なる交渉關係がある。従て各個人は社會的の意味あることを充分に理解せなくてはならぬ。而して社會は互に聯帶であることを自得せなくてはならぬ。即ち社會組織は聯帶協同に依て成立するものにして各個人は其一

分子であるから、社會的に生活する以上は聯帶精神が最も必要である。此事たる前章新人の新處世法中にも説いた通りである。然るに従來日本人には此大切な聯帶精神が缺乏して居る。協同一致の出來ぬのも、公德心の發達せぬのも、時間勵行の出來ないのも、一は茲に原因してゐる。

互に識り合ひの間柄に在つては禮儀を守り、且親切丁寧であるが、未知の人々に對しては一向無頓着である。汽車中などで能く見ることだ。而して知らない同士が多數人集れば集る程益々無作法になり少しも遠慮がない。他人に迷惑をかけても平氣である。然らば知つて居る人に迷惑をかけても平氣であるかと云へば左様ではない。知つて居る人に迷惑をかけるのは悪いと知つて居るが、識らない人に迷惑を及ぼすことの罪惡であることを知らないのである。是れ全く社會的訓練が無い爲めで、云はゞ社會は聯帶であるとの教育が缺けて居るからである。尤も多數集合する時は各自が責任の自覺を失つて、云はゞ自己の行動は誰にも分るまいと思つて自らを空虚にし、以て一人前の充實したる精神を失ふからでもあらう。併し如何に多數集つても自己の本領を没却することの無い様に、且つ群衆心理に犯されざる様に訓練すべきである。又他人が人に迷惑をかけても平然として居るから、自分も此位なとは差支なからうと自らを許すのは間違つて居る。

自己の行爲と社會關係

吾人は社會生活を全體として考へねばならぬ。識り合ひだから禮讓を守り、親切丁寧にするが、知らぬ人には不親切でも構はないといふ道理はない。知らぬ同士が澤山集ると無禮で我儘勝手、利己的で排他的であるのは、社會生活を破壊するものであつて餘りに非文明で且つ無自覺である。自分分は社會の一員として其爲すことが、直接間接國家社會全體の禍福に關係して居ることを知らねばならぬ。富者が金を使ふにも自分の金だからと云つて勝手氣儘に使ふべきものでない。不道德破廉恥な金の使ひ方を爲して、社會の風俗を紊亂し、物價を攪亂して多人數に迷惑を及ぼすが如きことは斷じて宜しくない。即ち富者の一舉手一投足が社會に關係あることを知らねばならぬ。彼の選舉權の如きも自己の權利なるが故に勝手に行使して差支のない様ではあるが、其實不正不良な議員を選出すれば國家社會に不利益となるから、深く注意せねばならぬ。現に東京市會議員中に砂利を食つたり、瓦斯を飲んだりしたものがあつて、市民に迷惑をかけたが、之を選出した人々も亦悪いのである。自己の行動が如何に他人に影響を及ぼし、社會に關係あるか分るであらう。茲に於てか社會は聯帶であるこ

とが明瞭である。從て各自が聯帶責任あることをも知らねばならぬ。社會共同の利害が明かとなれば、其處に聯帶責任の存在することは自覺さる、であらう。

社會改善の根本は是れ

立憲政治になつても國民に立憲的精神が發達しないのは、其根本に於て聯帶精神が徹底的に涵養されてないからである。選舉權の大切なるは單に自己一人の爲のみでないことが分らねば選舉界の廓清は出来ぬ。又社會は聯帶であるから一人でも弱い働かぬものがあれば、それだけ社會の強味と生産力が減する譯である。故に各自健康にして且働かねばならぬ。是れ社會に對する責務である。斯くして各人は積極的には社會諸般の設備を整頓して其改善發達を計り、消極的には諸種の缺陷を補足して其衰頹を防がねばならぬ。換言すれば對社會的の道徳を發達せしむべきである。新士道は個人道徳も國民道徳も重んずるが、舊武士道では説かなかつた對社會的の道徳を從來よりも一層重要視するのである。社會生活に於て禮儀と規律及び秩序は最も肝要である。若し是が紊亂しては吾人の社會生活は脅かされる、こと言ふ迄もない。而して此事たる未知の人の間に於て、將た群集の場合に於て一層其必

要を感じる。加之、人生はソリダリチー即ち聯帶協同の精神を以て渡るべきが天然の原則である。信するから、新士道に於ては此聯帶精神を第二要素とするのである。故に從來説かれたる禮儀、規律、秩序、公德は皆此第二要素の範圍内に含まれるのである。

(第三) 社會奉仕

人類の生活は孤獨でなく社會と交渉關係ある以上は、消極的に社會に迷惑をかけぬと云ふだけに止らずして、更に進んで社會の爲めに盡すと云ふ積極的精神が必要である。社會の爲めに盡す以上は國家の爲めに盡すのは言ふ迄もない。從來も義勇奉公、獻身犧牲は説かれたが、多くは一朝國家有事の場合にのみ之を發揮する如く説明されて、平生吾人の日常生活に没交渉の如く解されて來た。社會奉仕は更に之を擴大して、而も其根柢に協同聯帶、相互扶助の二大要素が横つて居るのである。而して博愛主義や人道主義は此社會奉仕の裡に含まる、のである。社會奉仕に就ては前章新人の鍛鍊法中にも一寸説いたが、殊に此事たる生活上に餘力ある人程爲し得らる、のであるから、富者の如きは最も多く實行すべきで性質のものである。

富に對する道德的訓練

舊武士道が精神に重きを置いたのは宜いが、物質を餘り極端に排斥したが爲に、金錢のことを口にすることを恥とするに至つた。これは現代の如き物質を根柢とせる文化時代には適應せぬのみか、富に對する見解が妥當でない。現代は精神的の文明が必要であると共に、物質をも閑却するとは出來ぬ。往時金錢を賤んだが爲に、之を獲得する方法に就ても、何等道德的考察をしなかつた。甚だしきは富を得ると道德とは無關係の如くに考へた。從て其得たる富を使用することに就ても、道德的考察を省みなかつた。富に對する道德的訓練は全くなかつたと云つて宜しい。故に貧者に對する教訓は頻りに説かれたが、富者に對する教訓は閑却された様である。

道德問題と利益問題とは全く無關係の如くに誤解され、從て特に商業道德と稱して、普通道德以外に説明を要するが如く感ぜしめたのは一奇である。教育家や宗教家が實業界に入つて商工業に従事すると、恰も道德から解放されたかの如くに感じ、當人自身も教育界又は宗教界から足を洗つたから、もう道德には關係無いと云ふ様に誤解して居る様である。是れでは甚だ危険千萬である。社會は一日

も道徳なくては存立せぬのである。

富者と社會奉仕

富を得る爲めには不正の手段に據らざる様道徳的訓練が必要であると共に、富の使用に就ても道徳的訓練が大切である。富を造る目的が自己生活の幸福と子孫に遺す爲めだけにあるならば甚だ淺薄であつて、且つ致富の意義が乏しい。自己の生活が社會生活である以上、社會公共と深い關係あることを忘れてはならぬ。今日の國家並に社會組織のお蔭に因つて富を作ることが出来たのであるから、其得たる富の一部を國家及社會公共の爲に使ふのは當然であつて。寧ろ一種の義務である。富者は集めた富の社會的意義に就て充分理解することが必要である。

富の使用法の第一は社會聯帶の精神に基いて、其富の一部を社會の公共事業に投ずるとである。即ち學術教育の進歩の爲め、社會多數の幸福増進の爲め寄附行爲をなし、以て國家社會の爲に貢獻するのである。此社會奉仕こそ眞に富者の責務である。又富者ならざるものも、自己の力量相應に直接間接國家社會の爲に努力すべきである。由來自己發達と社會奉仕とが人類の二大責務と謂つても宜しい。

而して社會奉仕の精神ある人ならば國家の爲め奉仕することは改めて言ふ迄もない。否社會奉仕即ち國家奉仕となるのである。

社會奉仕は自己に何等の報酬を求めないのであるから、固より打算的でなく從て交換的ではない。茲に没我的獻身犧牲が含まれてゐる。又同情仁愛の心なくては社會奉仕が出来ない。而して公共心は其最も主要なるものである。是等の諸徳は皆新士道の第三要素に於て取扱はるゝのである。

(第四) 自主 自制

自主的精神を以て自己を支配することは、人として極めて大切である。自己支配の出来ない人は自身の主となることが出来ない人である。從て自主自制の能力無きものは完全なる人とは云へない。自主的精神なきものは獨立心を有せざるもので自立すること能はず、自制心なきものは情慾その他の惡徳を制すること能はずして墮落するものである。斯くの如き者は士道の風上に置けぬ。故に新士道としては殊に自主自制の精神を必要とする。此精神發達せば警察の事故の如きは大に減する。警察と親しまざる國民は未だ自治の國民と云ふことを得ず」と云ふが、英國國民は警察と親しみ、各自が警官の積

りであるのは面白い。元來自治は固と各人の自主自制より起るもので、此心發達せざれば自治制は圓滿に行はれず、從て自治體が發達せざる所では立憲政治が進歩しない。我國が自治體發達せずして大都市に於ては却て醜聞を流すこと多い。東京、大阪、京都、名古屋頻々として然り。而して我立憲政治の進歩しないのも全く國民に自主自制の精神が乏しいからである。此意義に於ても新士道は現代に必須缺くべからざる道徳である。

自主自制の影響や甚大

自主自制は個人道徳としても又團體的社會生活の社會道徳としても肝要である。佛蘭西の政治學者エミール・ブーアミーは會て英國及び其國民を研究し、其自治自制に言及して、「英國國民には一個有力なる制裁力がある。それは各人が自らの道徳的觀念によりて築き上げ、我と我身に當てはめた所の自家心中の道義的制裁である。其外部に自治があり内部に自制があるのは全く是が爲めである」と述べてゐるが、英國國民が由來自尊心の強いのも其根本は自主の精神から來て居る。國民に自主的精神乏しき時は、其國の外交も自ら退嬰的となつて自主的外交は出來ないのである。英國が常に自主的外交に

依て機先を制するものは主として國民の強固なる自主自尊の精神の反映と謂はねばならぬ。

自主なるが故に權利を貴び、自制する所あるから責任義務を重んずるのである。權利思想發達せず責任觀念進歩せざるは一に自主自制の精神乏しいからである。新時代に於ては此權利思想と責任觀念とは益々必要であるから、其根本たる自主自制の精神を養成するに力めねばならぬ。殊に個人を完成する上に於ても極めて大切である。克己忍耐は舊道徳に於て最も必要としたが、新士道に於ける自制中には此克己忍耐も無論含有されるのである。

現今の修身倫理教授は説くに勞多くして聽く者に效少しとは常に耳にする所である。倫理の教師程苦んで居るものはないと聞く。是れ從來の倫理教科書は思想の變遷したる新時代に對し、社會の實生活と没交渉の點多い爲めではあるまいか。故に予の提唱するが如き新士道を目標として、活社會に接觸せる道徳を根柢とし、以て社會生活に必要な教訓を、進歩したる新しき實例に徴して説いたならば、適切にして且つ有効であらうと思ふ。予は新時代の新士道として、人格尊重、聯帶精神、社會奉仕、自主自制の四要素を完全に兼備するを以て最も適當なりと確信するのである。而して其内容に於ては從來の我武士道及西洋の武士道並に英國の紳士道と之に加ふるにデモクラシーの思想等の各

長所を含有して居るから、國民の思想を善導するに最も適當なりと信ずる。

人生淨化の必要

戦争の惨酷が人心に與へた印象

歐洲大戦の犠牲莫大にして且其慘禍の酷烈なりしことは世界の人心に甚大の印象を與へた。其人命を破壊するの悲惨なる、其知識を悪用するの極端なる、之を想像するだにも酸鼻の情に堪へざらしめる。況して身をこの悲惨なる境遇に置き、備に戦争の惨酷を味ひたるものに於てをや。獨り社會主義者のみでなく各交戦國の人民さへも、若し戦争にして避くるを得ば將來之が回避を希望するの精神を起したのは怪しむを要せぬ。即ち今後の世界はこの大戦争の慘禍に懲りて之が反動を起すべきは當然である。現に國際聯盟の組織せられたのは、この戦争回避の精神より發してゐるのである。

英國の歴史家アーチバルド・ウィーア氏は、ナポレオン戦争の價値を評して曰く「ナポレオン戦争が

最も價値ある影響を遺した所はライン同盟に加はつた國々である。此等の國々はナポレオン戦後、君主にも臣民にも良結果を與へた。一方には政府は不活潑となつたが、他方には人民の束縛が取除かれたと云ふ事實もある。而して中世紀の制度は殆ど全部が廢滅に歸した。奴隸制度とか特權とか厭制政治とか或は不公平とか云ふ風なものは概ね廢滅し、その代りに法典が確立され、公平な課税が行はれ國家に對する同等の權利が打建てられた。而して此利益を蒙つたものは單に全體としての國家だけでなく、國家の各部分も其利益を受けたのである」と。尙其後獨逸聯邦が共同一致したのも、又概して歐洲一般人に平和及び人道的思想を鼓吹し、帝國主義的侵略思想を斷念せしめたのも、ナポレオン戦後の一結果であるとウィーア氏は説いてゐる。

今後必要なる人生の淨化

戦争の齎す結果は、種々なる方面に種々の形となつて現はれたが、余はその根本的のものとして戦争の慘毒の反動として、人生を淨化せしめんとする新運動の必要を高調したい。即ちこの人生をして萬物の靈長たるだけの幸福と高潔とを享有するものに改善したいのである。而してこの人生淨化運

動は戦後の社會を改良する新目標として最も善美なるものであつて、世界の人心をして人生の淨化に擧つて努力する方針に向はしめたならば、各種の問題は自ら解決するものであると確信する。人生淨化の大目標は未だ公然提唱せられないが、社會を廓清する運動は歐米各國に喚起せられてゐる。ウイルソン氏は既に人生淨化の意味を説いてゐる。英國に於ては戦争の爲めに一時社會の風紀の紊亂したるに對して非常な警戒を行ひ、倫敦には爲に風紀刷新團體なるものが組織され、刷新運動の首領たるクート氏の如きは盛に節酒を奨励し、女色の誘惑を除き、爽快なる野外運動を鼓舞し、積極的に健全なる體育の必要を絶叫してゐる。英國では花柳病條例なるものが議會を通過して社會廓清の實行を資けた。次に米國に於ける禁酒運動を奏し、全土を通じて禁酒國とならしめたるが如き、何れも社會を改良し人生を淨化せんとするの意味を含んでゐる。かく人生淨化運動は既に部分的に行はれてゐるが、今後は廣く世界的にこの運動が高唱せらるべく、又高唱せられなければならぬのである。

人生淨化に必要な精神的改善

人生を淨化するには外形上よりするよりも、更に進んで精神上の改善に深き努力を要するのである。此事は頗る困難ではあるが、併し人間と動物との異なる所以を理解する以上は、指導宜しきを得ば、成程度までは美化し得るものである。人の性は固と善である。只境遇により又は周圍の空氣と事情とによりて悪化するのである。従て教育家、宗教家などが今後主として力を注ぐのは、天性の善に歸らしむる人生の淨化でなくてはならぬと思ふ。美を愛し善を好むは人情である。醜汚なるは誰も好まぬものである。英國の學者ブラツキーがエヂンバラの街上を歩行してゐると、汚らしい靴磨きの小僧に呼びとめられた。小僧はどうか長靴を磨かして下さいと云ふのである。ブラツキーは小僧の顔の如何にも汚らしいのを見て、「小僧よ靴を磨かないでも好いから、何處かへ行つて顔を洗つて來ないか、六片やるから」と言つた。少年は言下に宜しいと答へ、近所の水道に駆けつけて顔を洗つた。而して手を出して「サア六片下さい」と言ふ。ブラツキーは六片を出して之を少年に與へんとすると、其時少年は傲然として「否、實は要らないのだ。その六片は君に與へるから、これを持つて行つて君の髪を刈つては如何だ」と。これは蓬髮のブラツキー自身が常に人に語つた逸話であるが、何人も不潔は厭ふものである。美麗と清淨とを嫌ふものはない。この心を擴張すれば人生の精神的改善を嫌ふ筈は

ないのである。人生の精神上の改善が行はるれば、人生を美化し浄化することも亦自然に行はるべき筈である。

労働神聖と職業神聖

人生を浄化せしむるには人をして人たるの道を踏ましむることが最も大切である。人の踏むべき道は正しき道であつてその道は貴賤上下の差別なく、何人でも行はんと決心すれば行ひ得らるゝものである。而して之が爲には先づ各人が自己の人格を自覚し尊重することである。従来職業によりて人格に著しき高下あるかの如く誤解してゐた爲め、或種の職業に従事してゐる者は自ら卑しむの餘り道徳の觀念をも低うしたのである。これは第一に根本的に矯正せなくてはならぬ。

それには余は職業神聖論を鼓吹したい。労働神聖とは多くの人の口にする所であるが、余は同時に職業神聖を叫びたい。如何なる職業も社會の構成に必要であつて、直接間接に人を益し社會を利してゐるのである。大局より見れば何れも無くてはならぬものである。既に他人を益し社會を利する職業に働いてゐるものは俯仰天地に恥づることはない。徒らに他人の厄介になり、或は田畑に於ける雜草

の如く他に迷惑を及ぼすものこそ恥辱であるが、自己の額に汗して働く以上は如何なる職業も皆正々堂々たるものである。各人が皆職業を神聖と思へば自ら卑下することなく、従て又自己の人格を認識するに至るのである。この精神さへ發達すれば職務を美化せしむることが出来る。職業神聖、職務美化せば社會は自ら美しく改造せらるゝであらう。バンクス氏は其著「二十世紀の武士道」中に、「人の生涯の光榮でふものは至善に對する獻身的行動の分量に存するものである。即ち如何なる下等の職分にあるも、又如何ほど卑しい地位にあつても、常に高尚の生活を營んで行くと云ふ其程度によつて光榮の程度が定まるものである」と言つてゐるが、至善に對する獻身的行動と云ふ所に深い意義がある。此事たる職業の如何に拘らず、爲さんと欲すれば爲し得らるゝことである。職業神聖の理想を以て其天分を完全に遂行すれば、光榮ある生涯を送ることが出来るのである。

金錢本位と職務本位

努力に對する報酬は當然のことであるから、如何なる仕事でも働いて報酬を受けるのは好いが、只注意すべきは徒らに金錢のみを目的とせず仕事を目的とすることを忘れてはならぬことである。人間

の働きには金で買へぬ或貴いものがある。此處が即ち人間と機械との異なる所以である。例へば二人の大工が同一の力で同一の仕事をして其出来栄に大なる相違あることがある。これ一人は現金主義で金を目的として仕事するに反し、他は單純に仕事を目的として働いた爲である。従て前者には生命がなく、後者には精神が籠つてゐる。これは一例であるが、總ての仕事には其目的によりて力の入れ所が異ふから効果は同じくない。現金主義の人の失敗して、職業本位を主義とする人の發展するのは全く之が爲である。

徹底した職業本位の實例

如何なる職務でも之を取扱ふ人によりて高尚になる。嘗て米國の上院に尋ねて來た一婦人が立關番の少年に名刺を突き出して「之を議員のフランクさんに渡してお呉れ」と頼んだ。すると少年は「此處で名刺を取次ぐわけには行きません。どうぞ控室の方に御廻りになつて名刺をお出し下さい」と断つた。婦人は之を聞いて憤然として、「自分は相當の地位ある婦人で、苟くも上院議員たる人に用事があつて來たのを、拒絶するとは失敬極まる小僧である」と咳きながら立去つた。併し間もなく又戻つて

來て、財布を開いて二十五仙を取り出し、如何にも優しさうな態度を以て、其金を名刺と共に少年に與へようとした。併し少年は其金の受付けずして曰く「婦人よ、私はいふ名刺を拒絶する爲に失禮ながら二十五仙以上の給料を貰つて居ります」と。婦人は之を聞いて大に恥ぢ入つたと云ふ。之に類した話は幾らもあるが、動もすれば黄金萬能、金錢崇拜と云はれてゐる米國に於て斯うした事があるのは、即ち職業神聖の意味が徹底してゐるからである。

人生淨化に必要な相愛相敬

人生淨化に最も必要なことは社會の總てが互に同情し敬愛することである。如何なる場合にも互に立場を代へて考へれば同情も起り公正に處置することが出来るのである。使用主が其部下を輕侮するのが最も不徳であると共に、部下が使用主を輕視するが如きも亦甚だ悪い。互に同情敬愛の念を以て當らねばならぬ。人類社會に於ては相助、相憐、同情、犠牲等の親愛の情が存するもので、この情愛があつて始めて社會は圓滿に成立するのである。孔子の教も釋迦の教も基督の教も要するに人類相愛せよと説いて居るのである。今日の如く世界の交通機關が發達し、各人種が密接に交通する以上は互

に相敬し相愛さなければならぬ。黄色人種も白色人種も、その人類同胞たるに於て變る所がない。皮膚の色は異同によりて待遇までも變へんとするは根本に於て誤つてゐる。これ人道に反し世界の大勢に逆行するものである。人種的差別待遇を根本的に撤廢するにあらざれば、其間に憎惡偏頗の念が起り、永久の平和を期すること覺束なく、又國際聯盟主唱者の精神が甚だ不徹底たるを免れぬ。この點に就て余は明治天皇の偉大なる大御心に感激せずには居られない。

四方の海皆はらからと思ふ世に

など浪風の立ちさわぐらん

浅みどり澄み渡りたる大空の

ひろきを己が心ともがな

の御製を拜誦し、眞に天空海潤、四海同胞の大義が炳として輝けるを思ひ、この大精神が世界の人心に扶植するを得ば、浪風の立ちさわぐことなく、世界は始めて永久の平和を享有することが出来る。而して其根本は社會の人々が偏見を去り我執を棄て、相互の間に同情敬愛の念を起すことである。

人生淨化は文明人の天職使命

人類は單に肉體的生命を保持したりとて、それで決して満足の出来るものでない。精神的生命を維持して始めて生存の意義を有するものである。而して精神的生命とは如何なるものであるかと云へば人類相互の親愛である。肉體の満足は利己主義のみを以て満たし得るが、それは動物と相距ること甚だ近く、以て進歩したる人間とは云はれない。殊に吾人々類に於ける自己生存の第一原則は單なる自己一身の生存でなく、家族乃至社會の個人を包含したる大なる自己を認めなくてはならぬ。この點より考察しても人生の淨化は文明人の天職であり使命であらねばならぬ。決して宗教家一部の仕事として託すべきとでない。余は今後の世界改良はこの大目標を以て進みたいと思ふ。而して此事が幸に徹底的に行はるれば悲惨なる戰爭は之を避け得るであらう。斯くして始めて世界的に人類の幸福と高潔とを増進することが出来るであらう。

如何にして人生を淨化すべき乎

生活の安定が解決の第一

人生淨化てふ文字は如何にも清新にして力強く、且つ崇高優美なる感を人に與ふると共に、人生淨化の聲は現代の墮落せる文明を救ふに絶好の警鐘であると確信する。恰も專制治下に於て自由民權の聲が人心を刺戟したるが如く、目標の良否は人心を支配するに大關係がある。人生を淨化せしむるに第一必要なるは人民をして生活の安定を得せしむることである。生活難は人心を不平不安ならしむることは言ふまでもない。従て國民思想の動搖は生活の不安より來ることが最も多い。即ち經濟思想の動搖する時代には國民思想の動搖を免れぬ。故に全然生活問題を別にして思想問題を解決することは困難である。従て國民の生活を安定ならしむることに勉めねばならぬ。之が爲めには一方には生活に必要な物資の騰貴を抑へ、之が調節を計ると共に、他方には収入の増加を得せしめ、勞資分配の公

平を計ることが肝要である。物價調節は頗る困難の業ではあるが、併し運賃政策、關稅政策、通貨政策其他の方法に依れば相當に調節し得ると思ふ。

丁抹の前駐露公使スカプエニウス氏は倫敦に於て過激派防過策は獨逸に對して多量の食糧を供給するにありと唱道し、前駐獨代理大使船越光之丞男も亦「會て獨逸が倒るとせば食糧問題からであらうと豫言したが、果して其言の如くであつた。過激思想は貧民を冒し易い。この危険を避けるには食糧問題を解決するの外に途がない。聯合國では過激派瀾漫の防止策としては獨露に食糧供給を企ててゐる」と言つたが、人間は生きんが爲には有らゆる手段を講ずるに至るものである。人生を淨化せんとせば先づ生活難に陥らしめぬ様に勉むることが肝要である。衣食足つて禮節を知るは東西古今同じである。

人生淨化としての民衆教育

次に民衆教育は人生を淨化せしむるに極めて必要である。民衆教育は即ち社會教育であるが、民衆に對して健全なる思想を鼓吹し、且つ必要なる知識を授け、併せて社會風教の向上を圖るにある。今

如何にして人生を淨化すべき乎

や歐米に於ては民衆教育の事業は頗る進歩しつゝある。

民衆教育として最も効果あるは第一に通俗講演會である。米國は學術及び通俗講演の盛んなる國であるが、紐育の如きは夏季十數個所に自由講演を催し、コロンビヤ及び紐育州立大學の諸教授を聘して一定期間に亘りて連續講演せしめ、以て所謂民衆教育に資すると云ふ。我國に於ても從來各地に於て種々の講演會及び講習會が開催されてゐるが、今後は一層これに力を入れ、殊に人生淨化の目的を以て盛に開會して貰ひたい。從つて學者及び知識階級の有力者が、奮つて民衆教育に従事することを望むのである。

現代は識者が民衆教育の爲に奮起すべき大切の時機であると信ずる。國民の思想を指導し民衆を教化せんとする者は一般人に對して權威ある識者でなければ効果が少い。國民に對して野心なき學者識者が率先して民衆教育に従事せば世人は彼等の純眞にして敬虔なる態度に必ず心服するであらう。學者はそれ／＼一定の職務を有し餘暇に乏しいであらうが、現代の如き特別の場合には強ひて時間を繰合せ講演會や講習會に出席する様奮發して貰ひたい。

民衆教育上自覺せしめべき點

講演會は健全なる思想を鼓吹し必要なる知識を供給すると共に、聽者に自覺と發奮の動機とを與ふるものである。故に自覺を促す爲には種々の説明も必要なるべく、各自の立場によりて自ら異なる所あるべきも、就中間たる眞價値を理解せしめ、且つ眞正の幸福なるものを諒解せしめたい。人間は倫理的價値を有することに於て禽獸以上であることを覺らしめ、而して人間最終の目的はこの倫理的價値を充分に高めて生くるにあることを自覺せしめたい。換言すれば人間らしい品性人格を備へてゐることが人間生存上の特有なる重大要件であつて、之を無視すれば禽獸と選ぶ所なきを教訓したいのである。又人生の幸福は決して物質的満足のみを以て得らるゝものでない。物質を以て満足せんとすれば際限なく、心の満足、精神の安寧を得ることの大切なるを覺らしめたい。由來幸福なる生活に必要な最善の基礎は強健と能力と善良なる品性にある。心身共に強健でなければ幸福を享有することは出来ぬ。且つ働くに適當なる能力がなければ幸福を生み出すことは出来ない。加ふるに善良なる品性を有せざれば幸福なる生活を爲すことが出来ぬ。此三要素を具備して始めて幸福なる生活を營む

如何にして人生を淨化すべき乎

ことが出来るのである。

又社會は有機的組織なることを理解せしめたい。社會の各人が互に相倚り相助け以て生活してゐることは、恰も人體の四肢五官に於けるが如くである。手が働くことを拒み、足が歩むことを断るならば人は活動も何も出来なくなる。それと同じく社會の異りたる各職業が互に融和一致して働くが故に吾人は其生活を安全に繼續することが出来るのである。從て如何なる職業も有用の機關である。何人も自ら卑下し或は自暴自棄となるべきでない。これ社會が共同生活である所以であつて、而して又各人は互に相愛し、自己の勝手のみを主張することの許されざる所以である。此等は民衆教育上に適すべからざる要項にして、學者及び識者の國民指導上切に努力を煩したい點である。

民衆教育としての新聞雑誌と圖書館

民衆教育に對して最も偉大なる力あるものは新聞雑誌である。就中新聞に至つては絶大の偉力を有し、民心の趨向を左右すと云ふも過言であるまい。故にこの有力なる新聞社が一致して人生淨化の運動を起すならば、其目的の大半は必ず達し得るであらうと信ずる。新聞紙は社會の反映なりとして社

會に有害なることをも掲げ、甚だしきは裏面の醜陋なる事項を特に摘發暴露するが如きことあるが、今後は斯くの如き態度を全廢し、眞に紳士的態度を以て國民を教育し一世を指導するならば、その民心を淨化し善化するに貢獻する所多大であらう。

圖書館も亦人生淨化運動の機關として最も必要である。蓋し圖書館は學校、講演、新聞雑誌とは稍趣を異にする所あるも、自ら讀書を獎勵し依て以て知識を啓發するの效果がある。米國は全國到處に圖書館を設け、その完備せること世界に冠絶してゐる。前年余が米國を視察した當時、ピッツバ―グ圖書館で館員を養成せる有様を見、米國は圖書館の多きと共に、之を扱へる館員そのものに必要なる教育を授け、世人をして最も善良に圖書館を利用せしむるに苦心せるを想ひ、米國文化の發展の偶然にあらぬを感じた。我國は未だ圖書館の數少く、藏書も亦多くないが、小學校若くは青年會は貧弱ながらも有益な新刊書を集めつゝ、あれば、巧に之を利用して青年指導の資に供せば、人生淨化運動に貢獻する所少くないと信ずる。

民衆教育の補助機關としての趣味娛樂

如何にして人生を淨化すべき乎

次に趣味娯樂の間に人心を善導することも亦人生淨化の上に極めて必要である。都會の下級人民の知識は寄席にありと云ふ諺があるが、成程市民が寄席に於ける講談浪花節落語義太夫等より受くる知識は少くあるまい。先年内務省が後援となりて國民文藝會なるものを組織し、芝居、寄席、活動寫眞等専ら民衆の娯樂機關を利用して社會的感化の實を擧げんと計畫したがこれは頗る善い事である。國民思想の陶冶と社會風教の向上とに貢獻する目的の事業は出來得るだけ各方面より助力して成功せしめたい。義士銘々傳や名人の苦心談は之を講談に聽くも浪花節に聽くも聽者の血を沸かして發奮努力せしむる。併し彼等に供給するに更に新しき時代に適當なる良き材料を以てせば、此等娯樂は一層の進歩發展を爲すべく、其人心に及ぼす影響も多大なるものがあらう。學者識者たるもの亦この方面の材料を供給し、彼等を指導するに努めなば、民衆教育の補助機關として有效であらう。

人間感情の荒立つことは危険である。故に之を緩和することを忘れてはならぬ。其方法として音楽の如き、喜劇の如き、落語の如き、種々の遊戯の如き或は草花盆栽の展覽會の如き何れも有效であらう。若し人心險惡に趣くの虞ある時、斯かる催しは決して無効でない。加之平生成るべく多數共通の趣味娯樂を公開して民衆の精神を墮落せしめぬ様注意する必要がある。これは都會及び農村に通

じて必要であるが、都會の人心は農村の人に比して動搖激しきを以て都會を中心に考慮すべきことが多し。由來人は平生政治、法律、宗教、道德、風俗習慣等の支配を受け、自由を束縛されてゐるが、一度趣味の支配の下に生活の一部を置かれた時は、如何に自由に且つ美はしく、又如何に愉快であらうか、趣味の人生に必要なことはこの一事でも能く分る。故に世人をして時々この趣味の配下に遊ばしめたい。民衆教育に要する經費は勉めて富豪資産家の寄附によりたい、これ富豪資産家の社會に對する責務と云はんよりも、彼等自身の擁護上にも必要であると信ずる。

人生淨化法としての信念養成

人生を淨化せしむる上に於て更に必要なものは信念の養成である。我國民の近來信仰に薄弱なること實に痛歎に堪へぬ。宗教の振はざるは教理の罪でなくして、一は宗教家の罪でもあらう。偉大なる宗教家出でて人心を感化せば信仰心は盛に起るであらう。人間に信念の有無は、事ある時に際して大なる差違を來すものである。信念の強き者は誘惑に勝ち、品格高く、家庭純潔に、貧賤に處して樂境を發見し、失敗或は困難に陥るも徒らに失望せず、自ら安心立命する事が出来る。信仰盛なる社會は

如何にして人生を淨化すべき乎

自ら淨化せられる。

世界文明國の中で日本國民は最も信念に乏しいと云はれてゐる。何れの國でも日曜には名士の教會に行く者が少くない。然るに我國では名士の寺院又は教會に赴くもの幾何かある。よし寺院教會に赴かなくとも胸中堅き信念を有し、如何なる場合にも正義を守り隣人を憐む心あり、飽までも不正を避けて人道を守るの勇氣がありがたい。この堅い信念を以て世を渡りたいのである。而して之が爲には今は國民の信念涵養に向つて宗教家の大努力を促したい。

ウオターローの戦後ウエリントン侯は一日教會に赴き禮拜式に加はつた。その時牧師は祈禱中「我等祈るべし」と云ふ語を洩した。ウエリントン侯はこの語に直に續けて、「全力を盡して」と聲高に口走つた。侯すらも斯くの如くである。倫敦の市民の多くは日曜毎に必ず教會に赴き靈的教育を受けてゐる。米國の大統領ワシントン、リンカーンは共に信仰心の盛な人であつた。グラント將軍も日曜毎に必ず教會に行つた。ウイルソン氏も日曜には教會に赴く。我日本でも古來名將豪傑の神佛に歸依したものは澤山ある。然るに近時この事乏しきは慨歎に堪へぬ。信念盛ならざれば正義を守りて邁往するにも力が乏しい。人生淨化の運動は信念の涵養を其第一歩となす。其他教育界に於ては人格教育、

精神教育に重きを置くべきは言ふ迄もない。

歐洲戦争の爲に世界を擧げて濁された。之を清淨にすることは將に吾人々類の一大義務である。總ての方面に對して廓清を要するが如く、就中精神界に向つて廓清するの必要が甚大である。正義人道を標榜して戦ひながら、愈々講和會議に臨むや矛盾不徹底多く、自國の利害と嫉妬心の爲に正義人道を没却せんとする言論行動を爲したるが如き事實に顧みて、益々人生の淨化を絶叫して彼等の反省を促さねばならぬ。余は我國人の人生淨化の運動を熱望したのであるが、今後は更に一步を進めて世界に向つて人生淨化の運動を勧誘したい。是れ人間として最も高尚なる理想である。

思想善導の基準 終

◻ 思想善導の基 ◻

定價壹圓五拾錢

不許復製

大正十年九月廿二日印刷
大正十年九月廿六日發行

<p>發行所</p> <p>東京市京橋區南鍋町二丁目十五番地 實業之日本社 電話九三八、一九三四、二〇三三、二〇三三、二〇三三、二〇三三 支店 東京三三三、三三三、三三三、三三三、三三三</p>	<p>印刷者</p> <p>渡邊八太郎 東京市牛込區櫻町七番地</p>	<p>發行者</p> <p>增田義一 東京市京橋區南鍋町二丁目十五番地</p>	<p>著者</p> <p>增田義一</p>
<p>日清印刷株式會社發行</p>			

◇實業之日本社長 増田義一著 好評忽廿六版

縮刷 青年と修養

定價 圓五拾錢
郵税 圓五拾錢
三紙 五拾錢
六紙 五拾錢
判布 六拾錢
函入

青年の心を支配する凡百の煩悶憂惱に對し、最も明快にして適切なる解答を與ふるものは、恐らく著者を外にして他になからん。本書は最も多く青年に接し、又最も多く青年に同情と親切とを有する著者が、多年の實驗により青年の針路を示せるもの、青年自らの必讀者たるのみならず、亦父兄、教育家、先輩諸士の良參考書たり。

内容一覽

會社の寶と稱せらるゝ模範青年……不心得な主人に感心な店員……結婚問題に煩悶する青年……憂鬱に沈む内氣の青年……前途に光明の見えざる青年……父の品行を慟哭する青年……家庭の不和に苦む青年……昇進の遅きを歎する青年……教育の乏しきを歎する青年……職業の選擇に迷ふ青年……奮闘力の乏しきを歎する青年……就職難に陥れる青年……實業界の真相を知らざる青年……農村に墮居するを歎息する青年……轉職に氣迷ふ青年……徒らに都會を憧憬する青年……父の營業振を痛歎する青年……克己心は如何にして修養すべき乎……意思は如何にして強固にすべき乎……膽力は如何にして養成すべき乎……世渡りに最も必要な心得……處世の基礎たる常識修養法

◇實業之日本社長 増田義一著 忽 五 版

大國民の根柢

定價 圓八拾錢
郵税 圓八拾錢
四紙 三拾九錢
六紙 三拾九錢
判布 四拾六錢
函入

大國民たるべき大常識の修養法を述べ、人格涵養の要義を縷説し、島國根性の弊害を論じ、偏狹固陋なる頑冥思想より脱して眞に世界を友とし、全人類に活眼を注げる大國民的品性の修養を力説し、正大雄渾の氣象全卷に溢る。今日思想界動搖して紛々擾々たるの秋、本書は眞に國民的指針たらん。

内容一覽

世界的常識の養成……訓練なき國民……雅量の修養……大國民たる英人の特性……包容力の養成……一時の勝敗に喜愛せざる大精神……持久力の養成……感情よりも理性……信用第一……英國に於ける信用の發達……責任觀念の養成……聯帶責任の思想……職務に對する勇敢の精神……足並の統一……文明に逆行する無作法……國際的自尊心……底力の涵養……深味のある人……國富の根本たる貯蓄思想……持久力の根柢たる體力養成……新時代に伴ふ能率増進……研究心に富む獨逸人の特性……趣味的生活……目標を高處に……(附録) 歐山米水……七十五頁

刷縮修 養 六七版十 法、農學博士 新渡戸稻造先生著 定價壹圓五拾錢 三六判總布函入

刷縮世渡りの道 四六版十 法、農學博士 新渡戸稻造先生著 定價壹圓五拾錢 三六判總布函入

一日一言 二五版十 法、農學博士 新渡戸稻造先生著 定價九拾錢 三五判總布

自警 十三版 法、農學博士 新渡戸稻造先生著 定價壹圓 菊判總布函入

生活戰術 十二版 法學博士 浮田和民先生著 定價壹圓五拾錢 三六判總布函入

奮闘主義 十一版 男爵 森村市左衛門翁述 定價壹圓貳拾錢 四六判總布函入

努力 八版 男爵 大倉喜八郎翁述 定價壹圓 四六判總布函入

意志の力 十三版 安田善次郎翁述 定價六拾五錢 三六判上製

鍊膽術 二十版九 前永平寺管長 日置黙仙禪師述 定價六拾五錢 三六判總布

祖國を顧みて 十五版 法學博士 河上肇先生著 定價壹圓貳拾錢 四六判總布函入

開國大勢史 三版 侯爵 大隈重信閣下著 定價十五圓 菊判革製天金

世界改造の人々 四版 伊東圭一郎先生著 定價壹圓參拾錢 四六判總布函入

改造の歐洲より 再版 加藤直士先生著 定價貳圓五拾錢 四六判總布函入

超然錄 再版 法學博士 高橋作衛先生著 定價壹圓五拾錢 四六判總布函入

第六感を交へて 再版 理學博士 三宅恆方先生著 定價壹圓八拾錢 四六判總布函入

細胞の機能と教育との關係 心身養成論 再版 安富衆輔先生著 定價貳圓 四六判總布函入

□ 縮社會と自分 二十版 夏目漱石先生著 定價壹圓五拾錢 三六判總布函入

□ 海 十版 島崎藤村先生著 定價壹圓參拾錢 四六判總布函入

□ 書畫 鑑賞と鑑定の仕方 三版 今泉雄作翁著 定價壹圓四錢 四六判總布函入

□ 戲曲 訂修法 難 八版 文學博士 坪内逍遙先生著 定價貳圓參拾錢 四六判總布函入

□ 劇 それからそれ 四版 文學博士 坪内逍遙先生著 定價壹圓八拾錢 四六判總布函入

□ 新しい主義學說の字引 十四版 勝屋英造先生編 定價參圓 三五判總布函入

□ 改訂 増補 新しい言葉の字引 十四版 服部嘉香先生共編 定價四錢 三五判總布函入

□ 教科書 知らぬと恥 十九版 樋口麗陽先生著 定價四錢 三六判總布函入

503
8

終